

日本語 DECprint Supervisor (DCPS) for OpenVMS

リリース・ノート

AA-PZCFJ-TE

2001 年 3 月

本書は、日本語 DECprint Supervisor (DCPS) for OpenVMS についての制限、使用法のヒント、その他有用な情報について説明します。

オペレーティング・システム: 日本語 OpenVMS Alpha V6.2 , V7.1 ,
V7.2 , V7.2-1

日本語 OpenVMS VAX V5.5-2 , V6.2 ,
V7.1 , V7.2

ソフトウェア・バージョン: 日本語 DECprint Supervisor (DCPS) for
OpenVMS V1.8A

コンパックコンピュータ株式会社

2001年3月

本書の著作権はコンパックコンピュータ株式会社が保有しており、本書中の解説および図、表はコンパックの文書による許可なしに、その全体または一部を、いかなる場合にも再版あるいは複製することを禁じます。

また、本書に記載されている事項は、予告なく変更されることがありますので、あらかじめご承知おきください。万一、本書の記述に誤りがあった場合でも、コンパックは一切その責任を負いかねます。

本書で解説するソフトウェア(対象ソフトウェア)は、所定のライセンス契約が締結された場合に限り、その使用あるいは複製が許可されます。

© 2001 Compaq Computer K.K.

以下は他社の商標です。

AppleTalk, EtherTalk, LaserWriter, LocalTalk, Macintosh は米国 Apple Computer 社の商標です。

Colormate は日本電気株式会社の商標です。

Hewlett-Packard, PCL, LaserJet は米国 Hewlett-Packard 社の商標です。

MultiNet, TCPware は米国 Process Software 社の商標です。

Optra は米国 Lexmark International 社の商標です。

PostScript は日本および各国で登録されたアドビシステムズ社の商標です。

Proprinter は米国 International Business Machines 社の商標です。

TEKTRONIX は米国 Tektronix 社の商標です。

本書は、日本語 VAX DOCUMENT V 2.1を用いて作成しています。

目次

まえがき	xvii
1 英語版 DECprint Supervisor V1.8 との対応	
2 日本語 DCPS バージョン 1.8A の情報	
2.1 日本語 DCPS バージョン 1.8A の変更点	2-1
2.1.1 サポートされる OpenVMS システム	2-1
2.1.2 新しいプリンタのサポート	2-1
3 日本語 DCPS バージョン 1.8 の情報	
3.1 日本語 DCPS バージョン 1.8 の変更点	3-1
3.1.1 サポートされる OpenVMS システム	3-1
3.1.2 新しいプリンタのサポート	3-1
3.1.3 RICOH IPSiO NX800, NX910 でのホチキス止めのサポ ート	3-2
4 日本語 DCPS バージョン 1.7 の情報	
4.1 日本語 DCPS バージョン 1.7 の変更点	4-1
4.1.1 サポートされる OpenVMS システム	4-1
4.1.2 新しいプリンタのサポート	4-1
4.1.3 RICOH IPSiO NX900 でのホチキス止めのサポ ート	4-2
4.2 日本語 DCPS バージョン 1.7 で解決された問題	4-2
4.2.1 LN32 メールボックス選択によるエラーの発生	4-2
4.2.2 用紙サイズ FOLIO の選択によるエラーの発生	4-2
4.2.3 BADPARAMS エラーによる TCP/IP ジョブの終了	4-3
4.2.4 VFC ファイルの印刷によるアクセス・バイオレーションの発 生	4-3

5 DCPS の制限事項

5.1	raw TCP/IP キューでのジョブの "Starting"状態	5-1
5.2	raw TCP/IP キューの接続の切断	5-2
5.3	使用不能な raw TCP/IP プリンタについての NOT_READY 警告メッセージ	5-3
5.4	カラー PostScript を生成できないトランスレータ	5-3
5.5	PostScript Level 2 プリンタでのジョブのトレーラ・ページのシフト排紙	5-3
5.6	特定のプリンタでの ANSI トレイ選択不可	5-3
5.7	AppleTalk キューが起動しない,あるいはジョブが "Starting"状態のままとなる	5-5
5.8	ホストにステータス・メッセージを送信しないいくつかのプリンタ	5-5
5.9	常に正しく出力されるとはかぎらないプリンタ名	5-6
5.10	DECwindows ソフトウェアあるいは DECimage Application Services を必要とする DDIF 出力	5-6
5.11	NUMBER_UP および PostScript ドライバの互換性	5-6
5.12	PAGE_SIZE パラメータを無視する LIST トランスレータ	5-7
5.13	挿入された PJI コマンドの無視,バイナリ・モードは避けるべきこと	5-7
5.14	いくつかのプリンタでのエラー後の信頼性のない通信	5-7
5.15	AppleTalk 使用時のジョブの削除	5-8
5.16	接続を拒否している PrintServer プリンタに対する STOP/QUEUE/RESET の使用を避けること	5-8
5.17	DELETE/ENTRY でのジョブのトレーラ・ページの出力	5-9
5.18	/COPIES を指定した出力時の PostScript ファイルの問題	5-9
5.19	/JOB_COUNT を指定した場合の PAGE_LIMIT 使用の問題	5-9
5.20	自動検出機能の付いたプリンタ	5-10
5.21	I/O バッファ設定が小さすぎる場合の OPCOM エラー発生の可能性	5-10
5.22	PrintServer プリンタのキューの起動不可	5-11

6	DCPS に影響を与えるその他の制限事項	
6.1	DCPS プロセスがメモリおよびページファイルを消費すること	6-1
6.2	マルチストリーム・シンビオントでのキュー起動の問題	6-2
6.3	LAT 接続および直接接続プリンタのキュー起動の問題	6-3
6.4	シリアル接続プリンタの I/O エラー	6-4
6.5	不十分なダイナミック・メモリ・エラーによるシンビオントの強制終了	6-4
6.6	アクセス違反あるいは不正パラメータ・エラーによるシンビオントの強制終了	6-5
7	プリンタ固有の情報	
7.1	リコー製プリンタ	7-1
7.1.1	RICOH IPSiO NX910, NX900	7-1
7.1.1.1	制限事項	7-1
7.1.1.2	セパレータ・トレイの指定	7-1
7.1.2	RICOH IPSiO NX800	7-2
7.1.2.1	制限事項	7-2
7.1.2.2	セパレータ・トレイの指定	7-2
7.1.3	RICOH IPSiO NX810	7-3
7.1.3.1	制限事項	7-3
7.1.3.2	セパレータ・トレイの指定	7-3
7.1.4	RICOH IPSiO Color 4100	7-4
7.1.4.1	制限事項	7-4
7.1.5	RICOH IPSiO NX710, NX700	7-4
7.1.5.1	制限事項	7-4
7.1.6	RICOH IPSiO NX720N	7-4
7.1.6.1	制限事項	7-4
7.1.7	RICOH PC LASER NX-510, NX-500	7-5
7.1.7.1	制限事項	7-5
7.1.8	RICOH IPSiO NX1100, PC LASER NX-1000	7-5
7.1.8.1	制限事項	7-5
7.2	沖データ製プリンタ	7-5
7.2.1	OKI MICROLINE 1032PS	7-5
7.2.1.1	制限事項	7-5
7.2.1.2	セパレータ・トレイの指定	7-6
7.2.1.3	raw TCP/IP のポート番号	7-6

7.2.2	OKI MICROLINE 703N3 , 701N3	7-6
	7.2.2.1 制限事項	7-6
	7.2.2.2 セパレータ・トレイの指定	7-7
7.2.3	OKI MICROLINE 3020c , 3010c	7-7
	7.2.3.1 制限事項	7-7
	7.2.3.2 セパレータ・トレイの指定	7-8
	7.2.3.3 raw TCP/IP のポート番号	7-8
7.2.4	OKI MICROLINE 2030N , 2020N	7-9
	7.2.4.1 制限事項	7-9
	7.2.4.2 セパレータ・トレイの指定	7-9
	7.2.4.3 raw TCP/IP のポート番号	7-10
7.2.5	OKI MICROLINE 900PSIII LT , 903PSIII	7-10
	7.2.5.1 制限事項	7-10
7.2.6	OKI MICROLINE 801PSIIV-LT , 802PSIIV , 803PSIIV ...	7-11
	7.2.6.1 制限事項	7-11
7.2.7	OKI MICROLINE シリーズすべて	7-11
7.3	セイコーエプソン製プリンタ	7-11
7.3.1	InterLaser LP-9600SPD	7-11
	7.3.1.1 制限事項	7-11
	7.3.1.2 セパレータ・トレイの指定	7-12
7.3.2	ESPER-LASER LP-9200PS3	7-12
	7.3.2.1 制限事項	7-12
	7.3.2.2 セパレータ・トレイの指定	7-12
7.3.3	ESPER-LASER LP-8400PS3	7-12
	7.3.3.1 制限事項	7-13
	7.3.3.2 セパレータ・トレイの指定	7-13
7.3.4	ESPER-LASER LP-9200PS2	7-13
	7.3.4.1 制限事項	7-13
7.4	富士ゼロックス製プリンタ	7-13
7.4.1	FUJI XEROX DocuPrint 201PS	7-13
	7.4.1.1 制限事項	7-13
7.4.2	FUJI XEROX DocuPrint C1250	7-13
	7.4.2.1 制限事項	7-14
	7.4.3.2 セパレータ・トレイの指定	7-14
7.4.3	FUJI XEROX Laser Press 4410	7-14
	7.4.3.1 制限事項	7-14
	7.4.3.2 セパレータ・トレイの指定	7-14
7.5	Compaq Laser Printer LN16 および GENICOM microLaser 170	7-15
7.5.1	プリンタの構成	7-15
7.5.2	raw TCP/IP のポート番号	7-15
7.5.3	LAT および AppleTalk の構成	7-15

7.6	Compaq Laser Printer LN32 , LNM40 および GENICOM 製プリンタ . . .	7-16
7.6.1	プリンタおよびネットワークのファームウェア・バージョン	7-17
7.6.2	プリンタの構成	7-17
7.6.2.1	言語検出モード	7-17
7.6.2.2	プリンタ設定によりキューが "Stalled" 状態となる可能性	7-17
7.6.3	raw TCP/IP のポート番号	7-18
7.6.4	LAT および AppleTalk の構成	7-18
7.6.5	TCPware 使用時のキューの中断	7-18
7.7	Hewlett-Packard LaserJet 8000 シリーズ	7-19
7.7.1	オプションのメールボックス	7-19
7.7.2	raw TCP/IP のポート番号	7-19
7.7.3	最小のファームウェア・バージョン	7-19
7.8	Tektronix Phaser 780	7-20
7.8.1	プリンタ構成の設定	7-20
7.8.2	raw TCP/IP ポート	7-20
8	DCPS でのホチキス止め機能の使用	
8.1	DCL 構文	8-1
8.2	ホチキス止め可能な位置	8-1
8.3	ホチキス止めに関する注意事項	8-3
8.4	DCPS ホチキス止め機能のエラー・メッセージ	8-6
9	DCPS バージョン 1.8 の情報	
9.1	DCPS バージョン 1.8 の変更点	9-1
9.1.1	新しいプリンタのサポート	9-1
9.1.2	ホチキス止め機能の制限の一部解除	9-2
9.2	DCPS バージョン 1.8 で解決された問題	9-2
9.2.1	IP 名を指定した場合のシンビオントの中断	9-2
9.2.2	raw TCP/IP プリント・ジョブでの遅延およびエラー	9-3
9.2.3	ANSI GSS シーケンスによるシンビオントのクラッシュの可能性	9-4
9.2.4	不正にコーディングされたフォントによるフォント一覧の異常終了	9-4
9.2.5	レイアアップの使用およびプリンタ・エラーによるメモリ・リーク	9-5

10	DCPS バージョン 1.7-1 の情報	
10.1	DCPS バージョン 1.7-1 の変更点	10-1
10.1.1	新しいプリンタのサポート	10-1
10.1.2	LN32 および LNM40 でのホチキス止めのサポート	10-1
10.1.3	Process Software の TCPware for OpenVMS Software のサポート	10-2
10.2	DCPS バージョン 1.7-1 で解決された問題	10-2
10.2.1	LN32 メールボックス選択によるエラーの発生	10-2
10.2.2	用紙サイズ FOLIO の選択によるエラーの発生	10-2
11	DCPS バージョン 1.7 の情報	
11.1	DCPS バージョン 1.7 の変更点	11-1
11.1.1	OpenVMS V7.2 および Extended File Specifications のサポート	11-1
11.1.2	新しいプリンタのサポート	11-1
11.1.3	BADPARAMS エラーによる TCP/IP ジョブの終了	11-1
12	DCPS バージョン 1.6-1 の情報	
12.1	DCPS バージョン 1.6-1 の変更点	12-1
12.1.1	ANSI トランスレータへの ISO Latin-9 文字セットの追加	12-1
12.1.2	新しいプリンタのサポート	12-1
12.2	DCPS バージョン 1.6-1 で解決された問題	12-2
12.2.1	BADPARAMS エラーによる TCP/IP ジョブの終了	12-2
12.2.2	VFC ファイルの印刷によるアクセス・バイオレーションの発生	12-2
13	DCPS バージョン 1.6 の情報	
13.1	DCPS バージョン 1.6 の変更点	13-1
13.1.1	サポートされる OpenVMS システム	13-1
13.1.2	新しいプリンタのサポート	13-1
13.1.3	raw TCP/IP のサポート	13-2
13.1.4	ALL-IN-1 互換キットの廃止	13-2
13.1.5	新しい用紙サイズ	13-2
13.1.6	用紙サイズの廃止	13-2
13.2	DCPS バージョン 1.6 で解決された問題	13-2
13.2.1	LN40 でのすべてのページのオフセット出力	13-3
13.2.2	CPU 時間を過度に消費する VFC ファイル	13-3

13.2.3	間違ったディレクトリにインストールされるレイアップ・ファイル	13-4
13.2.4	LN20 での 13x19 用紙トレイの選択不可	13-4
13.2.5	内部エラーによるシンビオントの中断	13-5
14	DCPS バージョン 1.5-2 情報	
14.1	DCPS バージョン 1.5-2 で解決された問題	14-1
14.1.1	出力トレイを指定した場合にジョブが出力されない問題	14-1
15	DCPS バージョン 1.5-1 の情報	
15.1	DCPS バージョン 1.5-1 のハイライト	15-1
15.2	DCPS バージョン 1.5-1 で解決された問題	15-1
15.2.1	Colorwriter LSR 2000 のジョブが "Starting" 状態のままとなる問題	15-1
15.2.2	LAYUP あるいは NUMBER_UP 使用時に表示されない CONFIDENTIAL	15-1
15.3	DCPS バージョン 1.5-1 での変更	15-2
15.3.1	新しい用紙サイズ	15-2
16	DCPS バージョン 1.5 の情報	
16.1	DCPS バージョン 1.5 のハイライト	16-1
16.2	DCPS バージョン 1.5 で解決された問題	16-1
16.2.1	ユーザ定義フォントを使用した ANSI ドキュメント出力時の異常終了	16-1
16.3	DCPS バージョン 1.5 での変更点	16-2
16.3.1	DEClaser 3500 のファックス・オプションを使用した ANSI ドキュメントの送信	16-2
16.3.2	Cisco MultiNet は現在 Process Software MultiNet となりました	16-2
17	DCPS バージョン 1.4 の情報	
17.1	DCPS バージョン 1.4 のハイライト	17-1
17.2	DCPS バージョン 1.4 で解決された問題	17-1
17.2.1	OUTPUT_TRAY を指定しないでソータを使用する場合, 1 つのピンだけにセパレータ・ページが出力されること	17-2
17.2.2	"Processing" 状態での LN17ps プリンタのハング	17-2

17.2.3	LN17ps での出力の制限	17-2
17.2.4	間違った TRAYSUBST メッセージ	17-3
17.2.5	PrintServer プリンタの要求された装置制御モジュールが見つからない	17-3
17.2.6	DEClaser 5100 についての不正な接続終了エラー	17-4
17.2.7	ネットワーク接続が切断された場合に PrintServer プリンタがハングし、ジョブが "Pending" 状態となること	17-4
17.2.8	大きな制御領域を持つ VFC ファイルの問題	17-4
17.2.9	フォームを使用した場合、ANSI テキストが正しく改行されない	17-5
17.3	DCPS バージョン 1.4 の変更点	17-5
17.3.1	raw TCP/IP 接続のサポート	17-5
17.3.2	"tcpip" 接続タイプの "ip_cpap" への置換	17-6
17.3.3	インストレーション時のキューの自動的な停止および再起動	17-6
17.3.4	Process Software MultiNet for OpenVMS ソフトウェアのサポート	17-7
17.3.5	新しい用紙サイズ	17-7
17.3.6	すべてのプリンタについての装置制御モジュールの変更	17-7
17.3.7	索引編成ファイルおよび相対編成ファイルのサポート	17-8
17.3.8	ALL-IN-1 互換キットの削除	17-8
17.3.9	DCPS ユーザ・カードの削除	17-9

18 バージョン 1.3/1.3A の情報

18.1	バージョン 1.3/1.3A のハイライト	18-1
18.2	DCPS バージョン 1.3A のインストレーション	18-2
18.3	DCPS バージョン 1.3 で解決された問題	18-2
18.3.1	CIDfont をサポートしたプリンタへの出力	18-3
18.3.2	不正な LAT デバイスに対応したキューに対するメッセージ	18-3
18.3.3	DEClaser 5100 についての不正な接続終了エラー	18-3
18.3.4	ドキュメントの最後の出力時のキューの停止	18-3
18.3.5	DCPS のインストレーションで繰り返し発生する %DCL-W-SYMOVF エラー	18-3
18.3.6	STRTOOLON エラー表示でのシンピオントの停止	18-4
18.3.7	オンライン・ヘルプの問題の解決と機能拡張	18-4
18.3.8	キューが PAGE_SIZE および SHEET_SIZE パラメータを持つ場合の自動的なサイズの変更	18-4
18.3.9	指定した排紙トレイへのジョブ・ログおよびジョブ・トレーラ・ページの出力	18-5
18.4	DCPS バージョン 1.3A で解決された問題	18-6

18.4.1	B5 用紙サイズ	18-6
18.4.2	ANSI/KANJI トランスレータのエラー	18-6
18.5	DCPS バージョン 1.3 の変更点	18-6
18.5.1	新規 C6 用紙サイズ	18-6
18.5.2	新規 A3NOBI 用紙サイズ	18-6
18.5.3	UNRECOGNIZED プリンタについてのセットアップ・モジュールの変更	18-7
18.6	制限事項	18-7
18.6.1	LIST トランスレータで作成されるグレイ・バーの見やすさ	18-7
18.6.2	EPSON EsperLaser LP-9200PS2 での制限事項	18-7
18.6.4	OKI MICROLINE 801PSIIV-LT, 802PSIIV, 803PSIIV での制限事項	18-7
18.6.4	OKI MICROLINE 900PSII LT, 903PSII での制限事項	18-8
18.6.5	RICOH PC Laser NX-500 での制限事項	18-9
18.6.6	RICOH PC Laser NX-1000 での制限事項	18-9
19	バージョン 1.2 の情報	
19.1	バージョン 1.2 のハイライト	19-1
19.2	インストレーションのガイドライン	19-2
19.3	インストレーション・プロシージャと IVP の変更	19-3
19.4	マルチストリーム・プロセスとしての DECprint Supervisor	19-5
19.4.1	必要メモリの削減とアイドル時の CPU 時間消費の削減	19-6
19.4.2	マルチストリーム・プリント・キューの管理	19-7
19.4.3	Queue Manager Remedial Update	19-8
19.5	解決された問題	19-10
19.5.1	マルチナショナル文字を含んだ AppleTalk プリンタ名	19-10
19.5.2	DELETE/ENTRY と (DCc) Circuit connect failure メッセージ	19-10
19.5.3	多くのリソースがロードされている時の PrintServer への印刷	19-10
19.5.4	シリアル接続でのコミュニケーション問題の処理	19-10
19.5.5	ジョブ名に]を含むメッセージの処理	19-11
19.5.6	フォーム・セットアップ・モジュールとマルチ・ファイル・ジョブ	19-11
19.5.7	ビジー・プリンタへのインタラプト	19-11
19.5.8	DECclaser3500(他) シリアル・ポートへ印刷する際の同期のスタート	19-12
19.5.9	イベント・フラグ不足	19-14

19.5.10	ネットワーク接続が切れ, PrintServer 上でジョブが pending のときハング	19-14
19.5.11	PCL トランスレータでの両面印刷	19-14
19.5.12	リモート・コンソールからアボートされたジョブ	19-14
19.5.13	装置制御モジュール・キャッシュ問題の修正	19-15
19.5.14	DCPS\$EXECUTION_QUEUE.COM での P2 の問題の修正	19-15
19.6	その他の変更	19-15
19.7	制限事項	19-16
19.7.1	AppleTalk ネットワーク・ソフトウェアを起動していない場合のエラー	19-17
19.7.2	直結プリンタ	19-17
19.7.3	プリンタ名が正しく印刷されない場合	19-17
19.7.4	ページ・サイズ名と DCPS 用語	19-18
19.7.5	A4 用紙にランドスケープ・モードで印刷する場合	19-18
19.7.6	OKI MICROLINE 802 PSII シリーズでの制限事項	19-19

20 バージョン 1.1 の情報

20.1	新しい機能	20-1
20.1.1	新しい相互接続と新しいデバイス指定文法	20-1
20.1.2	新しい論理名 DCPS\$<queue-name>_IGNORE_UNKNOWN_USER	20-1
20.1.3	ANSI プロログ・ファイル	20-2
20.2	DCPS ソフトウェアの解決された一般的な問題	20-3
20.2.1	セパレータ・トレイ論理名	20-3
20.2.2	NOPAGEREGIONOP および NOSETPAGEDEVICE メッセージ	20-3
20.2.3	VFC フォーマット・ファイルの印刷	20-3
20.2.4	最大が 999999 になった PAGE_LIMIT	20-4
20.2.5	すべてのメッセージ・フィールドが Disabled になったときの アボート	20-4
20.2.6	アクセント付き大文字アルファベットの位置の下がり	20-4
20.2.7	ライブラリ検索リスト	20-4
20.2.8	空のセットアップ・モジュールによるハング	20-4
20.2.9	AUTOMATIC データ・タイプでのテキストのフォーマット	20-5
20.2.10	/COPIES 修飾子と PAGE_LIMIT	20-5
20.2.11	.IMG ファイル拡張子	20-5
20.2.12	レイアップでの PostScript コマンドの扱いの訂正	20-5
20.2.13	OKI MICROLINE 800PSIILT プリンタ	20-5
20.3	サポートするプリンタに関する修正	20-6

20.3.1	日本語 PrintServer 17/600 に認識される LCIT キーワード	20-6
20.3.2	日本語 PrintServer 17/600 での OUTPUT_TRAY=SIDE	20-6
20.3.3	Apple および HP プリンタの手差し給紙時の遅延	20-6
20.3.4	デフォルト・クリッピング・パス	20-6
20.4	制限事項	20-7
20.4.1	半角英数字フォント	20-7
20.4.2	キュー・スタート時の装置制御ライブラリ	20-7
20.4.3	DCPS V1.0 ソフトウェアとの互換性	20-7
20.4.4	DEC Image Print-PLUS (ICPS) との互換性	20-8
20.4.5	DECimage Application Services for VMS V3.1	20-8
20.4.6	他社製 PostScript ドライバと NUMBER_UP パラメータの互換性	20-8
20.4.7	新しい LIST データ・タイプ	20-8
20.4.8	/HEADER 機能と/FORM 機能および/SPACE 機能	20-9
20.4.9	埋め込まれた PJI コマンドの除去 : パイナリ・モードの回避	20-9
20.4.10	ネイティブ PCL とシリアル接続	20-10
20.4.11	ジョブ・トレーラ・ページのシフト出力	20-10
20.4.12	OUTPUT=FACE_UP で違うトレイに排紙される (HP LaserJet 4SiMX)	20-10
20.4.13	DECLaser 1152 に AppleTalk で接続しているときのジョブの削除	20-10
20.4.14	Apple LaserWriter Plus の LPS\$PERSISTENT_RESOURCES	20-11
20.4.15	エラー後の Unreliable Communication	20-11
20.4.16	HP XL300 のコミュニケーションの問題	20-12
20.4.17	PrintServer に接続できないときの STOP/QUEUE/RESET コマンドの禁止	20-12
20.4.18	/COPIES 修飾子を指定した PostScript ファイルの印刷	20-12
20.4.19	USERDATA とストリング・ターミネータ	20-12
20.4.20	AppleTalk 使用時のジョブの削除	20-13
20.4.21	ネイティブ PCL のプリント・パラメータに関する制限事項	20-13
20.4.22	ネイティブ PCL ジョブでの不正なページ・カウント (HP LaserJet IIISi)	20-14
20.4.23	両面印刷ジョブでの不正なページ・カウント (HP LaserJet プリンタ)	20-14
20.4.24	LN82R プリンタ用のレイアッパ定義	20-14
20.4.25	LaserWriter II NTX-J および MICROLINE PS シリーズの文字化け	20-15
20.4.26	MICROLINE 800/801 PS シリーズでの封筒やハガキへの印刷	20-15
20.4.27	Dataproducs LZR1560 プリンタの用紙サイズ	20-16

20.4.28	LN82R での印刷	20-16
20.4.28.1	LN82R の欧文フォント	20-16
20.4.28.2	LN82R の product スtring	20-17
20.4.28.3	LN82R の解像度	20-17
20.4.28.4	LN82R の黒い縞模様	20-17
20.4.29	テキスト・トランスレータ	20-17
20.5	DCPS に関するその他の情報	20-24
20.5.1	カラー・セパレータ・ページと日本語 PrintServer 17/600 給紙 トレイ切り替えの相互作用	20-24
20.5.2	DEClaser 5100 のエラー・ページ機能	20-25
20.5.3	自動認識機能のあるプリンタ	20-25

A raw TCP/IP ポート番号

B Alpha システムにインストールされるファイル

C VAX システムにインストールされるファイル

D ドキュメンテーション・キットの構成

図

8-1	NUMBER_UP のホチキス止めへの影響	8-6
-----	-----------------------	-----

表

7-1	有効な LN21 , LN28 , LN32 , LNM40 , mL210 , mL280 , mL320 , mL401 の言語検出構成	7-17
7-2	Tektronix Phaser 780 構成設定	7-20
8-1	IPSiO NX900 , NX910 および LN32 , LNM40 , mL320 , mL401 でのホチキス止め可能な位置	8-2
8-2	IPSiO NX800 , NX810 でのホチキス止め可能な位置	8-2
8-3	IPSiO NX800 , NX810 , NX900 , NX910 ホチキス止め機能でサポ ートされる用紙サイズおよび給紙方向	8-4
8-4	LN32 , LNM40 , mL320 , mL401 ホチキス止め機能でサポ ートされる用紙サイズおよび給紙方向	8-4

A-1 raw TCP/IP ポート番号 A-1

まえがき

本書の目的

本書では、日本語 DECprint Supervisor for OpenVMS の本バージョンでの拡張および改良について記述しています。このリリース・ノートは、次の事柄について詳細を追加します。

- 本バージョンで追加された機能
- 本バージョンで修正された問題
- 既知の問題
- 制限事項
- 日本語 DECprint Supervisor for OpenVMS に関する追加情報

日本語 DECprint Supervisor for OpenVMS に関しては、以下のマニュアル・セットをご覧ください。

- 『日本語 DECprint Supervisor for OpenVMS インストレーション・ガイド』
- 『日本語 DECprint Supervisor for OpenVMS システム・マネージャーズ・ガイド』
- 『日本語 DECprint Supervisor for OpenVMS ユーザーズ・ガイド』

ライセンスに関する必要条件や各ライセンスで使用可能な機能については、『日本語 DECprint Supervisor Version 1.8A for OpenVMS ソフトウェア仕様書』(SPD) を参照してください。

英語版 DECprint Supervisor V1.8 との対応

日本語 DECprint Supervisor V1.8A for OpenVMS は、英語版 DECprint Supervisor V1.8 を日本語用に拡張した製品である日本語 DECprint Supervisor V1.8 for OpenVMS に、新規プリンタのサポートを追加したアップデート版です。本製品によって、弊社のすべての日本語 PostScript プリンタと、特定の他社製日本語 PostScript プリンタがサポートされます。

英語版 DECprint Supervisor V1.8 は、現時点では日本でサポートされていないプリンタ製品もサポートしています。日本語 DECprint Supervisor for OpenVMS ではそれらの機能を削除してはけません。しかし、その機能については弊社からのサポートは受けられません。また、日本語 DECprint Supervisor for OpenVMS には、HP PCL トランスレータなどの、日本語対応がされていない構成要素もそのまま含まれています。今後、サポートされるプリンタ製品および日本語機能が追加された場合には、その時点での『ソフトウェア仕様書』および『リリース・ノート』を参照してください。

日本語 DCPS バージョン 1.8A の情報

この章では、日本語DCPS V1.8Aで変更された点について説明します。いくつかの変更点については、本書の別の箇所でも詳細に説明しています。

日本語 DCPS V1.8A は英語版 DCPS V1.8 をもとに作成されています。日本語 DCPS V1.6 以降に変更された英語版の情報については、第 9 章，第 10 章，第 11 章，第 12 章を参照してください。

2.1 日本語 DCPS バージョン 1.8A の変更点

この節では、日本語DCPS V1.8Aで変更された点について説明します。いくつかの変更点については、本書の別の箇所でも詳細に説明しています。

2.1.1 サポートされる OpenVMS システム

現在、日本語 DECprint Supervisor for OpenVMS は、日本語OpenVMS Alpha V6.2，V7.1，V7.2，V7.2-1 が稼動しているシステム、および日本語OpenVMS VAX V5.5-2，V6.2，V7.1，V7.2 が稼動しているシステムでサポートされます。

2.1.2 新しいプリンタのサポート

日本語 DCPS V1.8A では、次のプリンタのサポートが追加されました。

RICOH IPSiO NX720N
RICOH IPSiO NX810
RICOH IPSiO Color 4100
OKI MICROLINE 2020N
OKI MICROLINE 2030N

日本語 DCPS バージョン 1.8A の情報
2.1 日本語 DCPS バージョン 1.8A の変更点

OKI MICROLINE 3010c

OKI MICROLINE 3020c

詳細については、本リリース・ノートの第7章を参照してください。

日本語 DCPS バージョン 1.8 の情報

この章では、日本語DCPS V1.8で変更された点について説明します。いくつかの変更点については、本書の別の箇所でも詳細に説明しています。

日本語 DCPS V1.8 は英語版 DCPS V1.8 をもとに作成されています。日本語 DCPS V1.6 以降に変更された英語版の情報については、第 9 章、第 10 章、第 11 章、第 12 章を参照してください。

3.1 日本語 DCPS バージョン 1.8 の変更点

この節では、日本語DCPS V1.8で変更された点について説明します。いくつかの変更点については、本書の別の箇所でも詳細に説明しています。

3.1.1 サポートされる OpenVMS システム

現在、日本語 DECprint Supervisor for OpenVMS は、日本語OpenVMS Alpha V6.2, V7.1, V7.2, V7.2-1 が稼動しているシステム、および日本語OpenVMS VAX V5.5-2, V6.2, V7.1, V7.2 が稼動しているシステムでサポートされます。

3.1.2 新しいプリンタのサポート

日本語 DCPS V1.8 では、次のプリンタのサポートが追加されました。

RICOH IPSiO NX710
RICOH IPSiO NX800
RICOH IPSiO NX910
FUJI XEROX DocuPrint C1250
FUJI XEROX DocuPrint 201PS

日本語 DCPS バージョン 1.8 の情報
3.1 日本語 DCPS バージョン 1.8 の変更点

SEIKO EPSON InterLaser LP-9600SPD
OKI MICROLINE 1032PS

詳細については、本リリース・ノートの第7章を参照してください。

3.1.3 RICOH IPSiO NX800 , NX910 でのホチキス止めのサポート

日本語 DCPS V1.8 では、RICOH IPSiO NX800 , NX910 のオプション機能であるホチキス止めのサポートが追加されました。DCPS からホチキス止めのオプション機能を使用することについての詳細は、第8章を参照してください。

日本語 DCPS バージョン 1.7 の情報

この章では、日本語DCPS V1.7で変更された点について説明します。いくつかの変更点については、本書の別の箇所でも詳細に説明しています。

日本語 DCPS V1.7 は英語版 DCPS V1.7-1 をもとに作成されています。日本語 DCPS V1.6 以降に変更された英語版の情報については、第 10 章、第 11 章、第 12 章を参照してください。

4.1 日本語 DCPS バージョン 1.7 の変更点

この節では、日本語DCPS V1.7で変更された点について説明します。いくつかの変更点については、本書の別の箇所でも詳細に説明しています。

4.1.1 サポートされる OpenVMS システム

現在、日本語 DECprint Supervisor for OpenVMS は、日本語OpenVMS Alpha V6.2, V7.1, V7.2, V7.2-1 が稼動しているシステム、および日本語OpenVMS VAX V5.5-2, V6.2, V7.1, V7.2 が稼動しているシステムでサポートされます。

4.1.2 新しいプリンタのサポート

日本語 DCPS V1.7 では、次のプリンタのサポートが追加されました。

RICOH IPSiO NX900
OKI MICROLINE 701N3
OKI MICROLINE 703N3
ESPER-LASER LP-9200PS3
ESPER-LASER LP-8400PS3

FUJI XEROX Laser Press 4410

詳細については、本リリース・ノートの第 7 章を参照してください。

4.1.3 RICOH IPSiO NX900 でのホチキス止めのサポート

日本語 DCPS V1.7 では、RICOH IPSiO NX900 のオプション機能であるホチキス止めのサポートが追加されました。DCPS からホチキス止めのオプション機能を使用することについての詳細は、第 8 章を参照してください。

4.2 日本語 DCPS バージョン 1.7 で解決された問題

4.2.1 LN32 メールボックス選択によるエラーの発生

Compaq Laser Printer LN32 にシフト排紙が設定されていた場合、メールボックスを出力トレイに選択すると次のようなエラーが発生して、プリント・ジョブが異常終了していました。

```
%DCPS-E-OUTTRAYNOTAVL, No MAILBOX_n tray is installed on printer_name
```

ここで、*n*は選択されたメールボックス・トレイの番号であり、*printer_name*はプリンタ名です。

現在、プリンタのシフト排紙設定に関わらず、DCPS ジョブは任意のメールボックスに送ることができます。

4.2.2 用紙サイズ FOLIO の選択によるエラーの発生

DCPS V1.6 から、用紙サイズ FOLIO を選択すると次のようなエラー・メッセージのいずれかが表示されてジョブが異常終了していました。

```
%DCPS-E-PARSYNERR, Syntax error in the /PARAMETERS qualifier at or near PAGE_SIZE=FOLIO  
%DCPS-E-PARSYNERR, Syntax error in the /PARAMETERS qualifier at or near SHEET_SIZE=FOLIO
```

現在、この問題は解決されています。

4.2.3 BADPARAMS エラーによる TCP/IP ジョブの終了

特定の状況下で、特にビジー状態あるいは遅いネットワーク上で、TCP/IP 経由で印刷されているジョブが終了して、そのキューが停止し、次のようなメッセージが OPCOM に通知されていました。

```
%%%%%%%%%% OPCOM 25-FEB-1998 17:09:53.38 %%%%%%%%%%%  
Message from user SYSTEM on HUMANE  
Queue LN32_LAB: %DCPS-F-BADPARAM, bad parameter value
```

4.2.4 VFC ファイルの印刷によるアクセス・バイオレーションの発生

DCPS V1.6 から、VFC ファイルを印刷している場合に、次のような OPCOM メッセージを表示して、DCPS プリント・シンビオントが異常終了することがありました。

```
%%%%%%%%%% OPCOM 7-JAN-1999 14:47:04.60 %%%%%%%%%%%  
Message from user SYSTEM on FUNYET  
Process SYMBIONT_90: Message number 0800800C  
Message number 20000000  
-TSU  
-NONAME  
-TSU  
  
%%%%%%%%%% OPCOM 7-JAN-1999 14:47:05.46 %%%%%%%%%%%  
Message from user QUEUE_MANAGE on FUNYET  
%QMAN-E-SYMDEL, unexpected symbiont process termination  
  
%%%%%%%%%% OPCOM 7-JAN-1999 14:47:05.47 %%%%%%%%%%%  
Message from user QUEUE_MANAGE on FUNYET  
-NONAME-F-NOMSG, Message number 0800800C
```

DCPS の制限事項

以降の各節では、日本語 DECprint Supervisor の現在の制限事項について説明します。プリンタ固有の制限事項については、『日本語 DECprint Supervisor for OpenVMS システム・マネージャーズ・ガイド』および『日本語 DECprint Supervisor for OpenVMS ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

5.1 raw TCP/IP キューでのジョブの "Starting" 状態

raw TCP/IP 接続を使用する DCPS キューを設定する際にプリンタに不正な TCP ポート番号を指定した場合、そのキューに出力したプリント・ジョブは "Starting" 状態のままとなります。これは、DCPS がネットワーク障害とプリンタのビジー状態あるいはオフライン状態を区別できないため、DCPS がユーザによる不正なポート番号指定であるかどうかを判断することができないことが原因です。

これ以外の理由によっても raw TCP/IP キュー内のプリント・ジョブが "Starting" 状態のままとなる場合があることに注意してください。

プリンタ、ネットワーク・インタフェース・カード、プリント・サーバ、ターミナル・サーバのドキュメントをチェックし、正しい TCP ポート番号を使用していることを確認してください。TCP ポート番号については、本書の表 A-1 あるいは『日本語 DECprint Supervisor for OpenVMS システム・マネージャーズ・ガイド』にも記述されています。

5.2 raw TCP/IP キューの接続の切断

raw TCP/IP 接続を使用している場合、長いプリント・ジョブについては CONTERMINATED エラーが発生する可能性があります。単一のファイルから構成されるジョブあるいはプリンタのネイティブ PostScript 互換機能のみを使用している場合 (たとえば、ネイティブ PCL を使用しない場合) は、このエラーはジョブの最後で発生する傾向があり、(キューに対してトレーラを指定している場合) トレーラ・ページは出力されず、(プリント・ジョブのアカウント機能を有効としている場合) アカウント情報は消失します。これ以外のジョブについてはジョブの途中で発生する可能性があり、トレーラ・ページと同様に以降のドキュメントは出力されず、(プリント・ジョブのアカウント機能を有効としている場合) アカウント情報は消失します。DCPS は中断されたジョブを再度キューに登録して "Holding" 状態とし、ユーザによる問題解決後に再度そのジョブを出力できるようにします。

Hewlett-Packard JetDirect カードを含むいくつかのネットワーク・デバイスでは、指定された時間内にホスト・システムから入力を受け取らない場合には、TCP/IP 接続が切断されます。これは、ホスト・ソフトウェアによるデバイスの専有を防ぐための機能です。ただし DCPS は、プリンタが PostScript から別のネイティブ・プリンタ言語に切り替える場合、あるいはトレーラ・ページの出力およびアカウント情報の収集を行う場合、その前に出力したドキュメントをプリンタが出力したことという通知を受け取るまで待ちます。この場合はたとえプリンタがビジー状態であっても、指定されたタイムアウト時間が経過するまで、NIC は DCPS からのそれ以上の入力を受け取ることができません。

NIC の TCP/IP アイドル・タイムアウト時間の変更が可能である場合は、タイムアウトを無効とすること、あるいはタイムアウト時間を長くすることによってこの問題を回避することができます。NIC のドキュメントをチェックして、これが可能であるかどうか、また可能であればその方法を確認してください。続いて、必要な出力が得られないため、キューに再登録されたジョブを解除し、キューに再登録されているその他のジョブを削除してください。

重要なのはジョブのサイズではなく、その処理にかかる時間であることに注意してください。たとえば、非常に小さな PostScript プログラムであっても、出力に非常に長い時間がかかる場合があります。このため、どの程度のタイムアウト時間が適当であるのかを予想することは一般的に困難です。

5.3 使用不能な raw TCP/IP プリンタについての NOT_READY 警告メッセージ

raw TCP/IP 接続を使用するプリンタのキューにジョブを登録した際に、そのプリンタがビジー状態あるいはオフライン状態である場合は、そのプリンタについて NOT_READY 警告メッセージが表示されます。プリンタがビジー状態にあることが確実である場合は、このメッセージを無視することができます。DCPS は、プリンタがビジー状態であるか、オフライン状態であるか、その他の理由により使用不能であるかを区別することができません。

5.4 カラー PostScript を生成できないトランスレータ

DCPS で提供されているトランスレータ (たとえば ReGIS) は、カラー情報を含んでいるソース・ファイルであっても、カラー PostScript コマンドを生成することはできません。カラー情報は、グレースケールに変換されます。

5.5 PostScript Level 2 プリンタでのジョブのトレーラ・ページのシフト排紙

PostScript Level 2 プリンタで各ジョブを分離して出力するようにジョブ・シフト排紙を有効にしている場合、ジョブ本体とそのトレーラ・ページ間でシフト排紙が発生します。

5.6 特定のプリンタでの ANSI トレイ選択不可

トレイ選択のエスケープ・シーケンスを含む ANSI ファイルを出力する場合、使用しているプリンタによっては出力できない可能性があります。この場合、`offendig command is "setpapertray"` という PostScript 構成エラーが発生してジョブが中断されます。

DCPS の制限事項

5.6 特定のプリンタでの ANSI トレイ選択不可

また、Compaq Laser Printer LN16 などのいくつかのプリンタでは、PostScript トレイ番号 0 の給紙トレイを持っています。トレイを選択するために ANSI エスケープ・シーケンス DECASFC が使用されますが、0 という値はトレイの変更がないという意味であり、トレイ 0 の選択はできません。たとえば、次の ANSI エスケープ・シーケンスはトレイ 0 を選択せず、トレイの変更なしを示します。

```
<CSI>0!v
```

この問題の回避策は、TRN\$XLATE_DICT ディレクトリ内に `settoptray`、`setbottomtray`、`setlcitray` という PostScript コマンドを再定義するセットアップ・モジュールを作成して起動することです。

たとえば、Compaq Laser Printer LN16 あるいは DIGITAL Laser Printer LN15 あるいは LN15+ の場合は、`settoptray`、`setbottomtray`、`setlcitray` を次のように定義するセットアップ・モジュールを作成します。

```
TRN$XLATE_DICT begin
  /settoptray      { statusdict begin 0 setpapertray end } def
  /setbottomtray  { statusdict begin 1 setpapertray end } def
  /setmanualfeedtray { statusdict begin 3 setpapertray end } def
end
```

たとえば HP LaserJet 4M Plus の場合には、`settoptray`、`setbottomtray`、`setlcitray` を次のように定義するセットアップ・モジュールを作成します。

```
TRN$XLATE_DICT begin
  /settoptray      { statusdict begin 3 setpapertray end } def
  /setbottomtray  { statusdict begin 0 setpapertray end } def
  /setlcitray     { statusdict begin 1 setpapertray end } def
end
```

PostScript トレイ番号は、日本語 DECprint Supervisor for OpenVMS ユーザーズ・ガイドに記述されています。

5.7 AppleTalk キューが起動しない、あるいはジョブが "Starting"状態のままとなる

AppleTalk を使用するプロセスの最初のプリント・キューが次のようなエラーを発生して出力できず、キューが起動しないことがあります。

```
%DCPS-W-ATK_FOR_VMS, Error connecting to AppleTalk for VMS driver
```

AppleTalk 接続を使用した別のキューが同一プロセス上で起動されている場合、このエラーは通知されません。これらのキューがその後に起動された場合でも、これらのキュー上のジョブは "Starting"状態のままとなります。

AppleTalk ネットワーク・ソフトウェアが起動される前に AppleTalk 接続を使用したキューが起動された場合、キューは起動されたとしても機能しません。これは、DCPS がマルチストリーム・シンビオントとして起動されていて、別のプリント・キューが同一プロセス内で起動されている場合に発生します。

このようなエラーからの回復方法は、AppleTalk ネットワーク・ソフトウェアが起動していないことを検出した、現在起動されているシンビオント・プロセス (シンビオント・プロセス毎に 1 つのエラー・メッセージが通知されます) がサポートしているすべてのキューを停止させることです。続いて、AppleTalk ソフトウェアおよびキューを再起動します。

この問題の回避策は、DCPS プリント・キューを起動する前に AppleTalk ネットワーク・ソフトウェアを起動することです。

5.8 ホストにステータス・メッセージを送信しないいくつかのプリンタ

いくつかのプリンタではその内部的な構造により、プリンタと通信しているホスト・システムではなく、プリンタ・コンソールにステータス情報を通知するものがあります。このため DCPS はいくつかのステータス状態 (たとえば紙切れ、紙詰まり、複雑すぎるページ、カバーの開放など) を検出できないため、ユーザにその状態を通知することができません。その代わりに、その後に DCPS がそのプリンタと通信しようとした場合に、DCPS キューは "Stalled"状態となります。これは最初

にこの問題を発生したジョブで表示されることもありますし、その後のジョブで表示されることもあります。

この問題が発生するプリンタは次のとおりです。

- DEClaser 5100 プリンタ
- LN17ps プリンタ
- いくつかの HP LaserJet III プリンタおよび IV プリンタ (ただし、紙詰まりの回復機能が無効となっている場合、HP PostScript-Plus Level 2 カートリッジの付いた HP LaserJet III および HP LaserJet IIISi では発生しません。)

5.9 常に正しく出力されるとはかぎらないプリンタ名

各国語対応文字が PostScript "printername" で使用されている場合、セパレータ・ページの下部に出力されるプリンタ名が間違った文字セットで出力される可能性があります。

5.10 DECwindows ソフトウェアあるいは DECimage Application Services を必要とする DDIF 出力

DDIF エンコード 2 値イメージを出力するには、DCPS は DECwindows ソフトウェアあるいは DECimage Application Services (DAS) がシステムにインストールされていることを必要とします。DAS は OpenVMS VAX システムだけで使用可能です。

5.11 NUMBER_UP および PostScript ドライバの互換性

アプリケーションで LaserWriter 8.0 あるいは 8.1.1 ドライバ、あるいは Adobe 2.1.1 Windows ドライバを使用して作成された PostScript ファイルは、1 より大きな NUMBER_UP が指定された場合に正しく出力されません。

この場合、ページが抜けたり、NUMBER_UP ページ位置とは異なる位置に出力されたり、間違った拡大縮小率で出力されるという現象が発生します。

5.12 PAGE_SIZE パラメータを無視する LIST トランスレータ

LIST トランスレータは、ページのフォーマットの際に PAGE_SIZE パラメータを無視します。この場合、LIST トランスレータは A (レター用紙) および A4 用紙に適合する最大サイズのページを作成します。

ポートレートの場合: 80 カラム, 70 行
ランドスケープの場合: 150 カラム, 66 行

DCPS-Plus ライセンスを持っている場合、PAGE_SIZE および SHEET_SIZE パラメータの両方を指定して、論理ページを拡大縮小して異なるサイズの用紙に出力することが可能です。

5.13 挿入された PJI コマンドの無視、バイナリ・モードは避けるべきこと

DEClaser 5100 および HP LaserJet IV ファミリーなどの PJI プリンタ用のファイルを作成するドライバは、Hewlett-Packard Printer Job Language (PJI) 内にプリンタ制御コマンドを含んでいます。DCPS はそのデータを検出して無視します。このため、そのようなドライバによって選択されたプリンタ・オプションはプリンタ・ジョブに影響を与えません。

これらのドライバを使用する場合は、バイナリ・モードを選択してはなりません。バイナリ・モードでは、DCPS を経由して出力する場合に不正な動作を引き起こす可能性を持つコマンドをファイルに追加するからです。DCPS トランスレータを經由してジョブが渡されたかどうかに関わらず、出力フォームはキューに実際に接続されているプリンタに依存しています。

5.14 いくつかのプリンタでのエラー後の信頼性のない通信

AppleTalk 接続を使用していくつかのプリンタに出力した場合、プリント・ジョブの最後で予測できないエラーが発生する可能性があります。この問題が発生するプリンタには、LaserWriter Pro 600, LaserWriter Pro 630, LaserWriter IIg, LaserWriter IIif などが含まれます。一般的に、プリント・ジョブで特定の理由の

明確なエラー、たとえば PostScript インタプリタに "Flush to the EOJ" を発生させる PostScript エラー、あるいはマニュアル操作による紙送りを待つ間にタイムアウト・エラーなどが発生した場合、予測できないエラーが発生します。次のような現象が発生します。

- 第 2 の PostScript エラーあるいはタイムアウト・エラーの発生
- DCPS とプリンタ間の通信の切断
- ジョブのトレーラ・ページが指定されている場合に出力されない
- アカウント情報ファイル内のページ・カウントの不正
- ジョブが完了するまでに最大 1 分の遅延

プリント・ジョブのユーザによる出力部分は正しく出力されます。DECprint Supervisor によって処理されるジョブの最後 (たとえば、ページ・カウントの取得あるいはトレーラ・ページの出力) で、予測できないエラーが発生します。不正なジョブが終了すると、以降のジョブは正しく出力されます。システム・オペレータが介入しなければならない処理は必要とされません。

5.15 AppleTalk 使用時のジョブの削除

AppleTalk 接続を使用して出力している場合、ジョブの削除要求 (DELETE/ENTRY) はプリンタとの接続をクローズすることによって実行されます。AppleTalk プロトコルは PostScript インタプリタへの割り込みを提供しないため、プリンタはそのバッファに含まれているページ記述部分を継続して出力した後、ジョブの出力を停止します。ジョブのトレーラ・ページは出力されません。

5.16 接続を拒否している PrintServer プリンタに対する STOP/QUEUE/RESET の使用を避けること

ジョブが "Starting" 状態であり、プリンタが接続を拒否している場合 (たとえば、その PrintServer の電源が落ちている、あるいはブート中である場合) に、弊社の PrintServer プリンタのキューに対して STOP/QUEUE/RESET コマンドを実行すると、そのキューは停止します。まれに、そのシンビオント・プロセスが停止する

5.16 接続を拒否している PrintServer プリンタに対する STOP/QUEUE/RESET の使用を避けること

可能性があります。PrintServer プリンタが使用可能となるまで、このコマンドを実行することは避けてください。ジョブが "Starting" 状態であり、PrintServer プリンタのジョブ・キューに登録されている場合、STOP/QUEUE/RESET コマンドは正しく実行されます。

5.17 DELETE/ENTRY でのジョブのトレーラ・ページの出力

プリンタでジョブのトレーラ・ページ出力中に DELETE/ENTRY コマンドを実行した場合、このページの出力を削除することは可能です。また、ファイルのすべてのデータを転送して PrintServer プリンタにジョブを出力している場合であっても、そのジョブに対する DELETE/ENTRY コマンドを実行して、そのジョブのトレーラ・ページが出力されないようにすることは可能です。

5.18 /COPIES を指定した出力時の PostScript ファイルの問題

PostScript ファイルに /COPIES 修飾子を指定した場合、DCPS は各ファイルの前後に PostScript の "save" および "restore" を追加して、プリンタ内の仮想メモリの消費を避けるようにします。

ただし、まれに不正な restore エラー・メッセージを表示してプリント・ジョブが中断する場合があります。この現象が発生した場合は、/COPIES ではなく /JOB_COUNT 修飾子を使用してください。

5.19 /JOB_COUNT を指定した場合の PAGE_LIMIT 使用の問題

/JOB_COUNT 修飾子を指定した場合に PAGE_LIMIT パラメータを使用すると、期待していない出力となる可能性があります。特に、ジョブの最初の何ページかを出力しないように指定した場合、DCPS は最初のコピーについては指定されたページを出力しませんが、以降のコピーについてはすべてのページを出力してしまいます。ジョブの最後の何ページかを出力しないように指定した場合、DCPS は最初のコピーについては指定されたページを出力しませんが、以降のコピーについては指定を無視して出力してしまいます。

いくつかのページを出力しないで複数のコピーを必要とする場合は、/JOB_COUNT 修飾子を使用するのではなく、必要な回数だけ PRINT コマンドを実行するようにしてください。

5.20 自動検出機能の付いたプリンタ

DEClaser 5100 および HP LaserJet 4SiMX などのいくつかのプリンタでは、プリント・ジョブのデータ・タイプを検出することができます。このようなプリンタでは、フロント・パネルを使用して、接続チャンネル毎に現在の自動検出の状態を調べることができます。また、自動検出機能の有効および無効を指定することもできます。

この機能を提供するほとんどのプリンタについては、プリンタが "PostScript" モードあるいは "Automatic" モードに設定されている場合、日本語 DECprint Supervisor ソフトウェアは正しく動作します。このようなプリンタは、DCPS キューを起動する前に、上記のモードのいずれかのモードで動作するように設定しておかなければなりません。プリンタが "PCL" モードに設定されている場合は、DCPS ソフトウェアは正しく動作しません。

詳細については、本書の第 7 章および『日本語 DECprint Supervisor for OpenVMS システム・マネージャーズ・ガイド』を参照してください。

5.21 I/O バッファ設定が小さすぎる場合の OPCOM エラー発生の可能性

SYSGEN パラメータの MAXBUF で設定された I/O バッファのサイズが小さすぎる場合、プリンタ・キューが停止し、OPCOM に次のメッセージが表示されません。

```
%SYSTEM-E-EXQUOTA, process quota exceeded
```

このエラーが発生した場合は、SYSGEN パラメータの MAXBUF の値を増やしてください。

5.22 PrintServer プリンタのキューの起動不可

弊社の PrintServer ソフトウェアのいくつかのバージョンについての CPAP プロトコルのバグにより、特定のリソースの問い合わせに対して DCPS シンビオントが不正にフォーマットされたパケットを取得する可能性があります。不正なパケットはシンビオントの起動を妨げます。この問題は、1つのパケット(ロードされたリソースを戻すことを記述している)に必要なリソースよりも多くの十分すぎるリソースをロードすることにより発生します。推奨される回避策は、より少ないリソースをロードすることです。経験的なテスト結果によると、その制限は7フォントです。この問題は、PrintServer ソフトウェアの S5.0-29 以降で解消されています。

DCPS に影響を与えるその他の制限事項

この章では、日本語 DECprint Supervisor に影響を与えることが確認されているその他の問題、ならびにその問題を処理する必須パッチ・キット ("ECO") についての情報を提供します。

次のような方法で必須パッチ・キットを入手し、アップデートすることが可能です。

- 弊社のカスタマ・サポート・センターに問い合わせて入手
- 次のところから ftp を使用して入手

`ftp.service.digital.com/public/vms`

- 次のところから World Wide Web を使用し、OpenVMS Patches を選択

`http://search.service.digital.com`

- 弊社のサポート・ツール DSNlink などを使用

6.1 DCPS プロセスがメモリおよびページファイルを消費すること

DCPS プリント・シンビオント・プロセスが徐々にメモリおよびページファイル・スペースを消費する可能性があり、最終的にシステムの性能に影響を与えるという問題があります。この問題は OpenVMS Alpha V7.1-2 システムのみで発生します。

次の DECthreads のパッチ・キットにより、この問題は解決されます。

- VMS712_PTHREADS-V0300, OpenVMS Alpha V7.1-2 システム用

6.2 マルチストリーム・シンビオントでのキュー起動の問題

マルチストリーム・プロセスとして日本語 DECprint Supervisor を起動している場合は、Queue Manager 必須アップデートを必ずインストールしなければなりません。

Queue Manager 必須アップデート・キットは次のとおりです。

- ALPQMAN02_071, OpenVMS Alpha V7.1 システム用
- ALPQMAN05_070, OpenVMS Alpha V7.0 システム用
- ALPQMAN03_062, OpenVMS Alpha V6.2 システム用
- ALPQMAN04_061, OpenVMS Alpha V6.1 システム用
- VAXQMAN02_071, OpenVMS VAX V7.1 システム用
- VAXQMAN04_070, OpenVMS VAX V7.0 システム用
- VAXQMAN05_062, OpenVMS VAX V6.2 システム用
- VAXQMAN03_070, OpenVMS VAX V5.5-2 ~ V6.1 システム用

上記のアップデートは、マルチストリーム・シンビオントを起動している特定の環境下で START/QUEUE コマンドがハングするという問題を解消します。キットで提供されているリリース・ノートには、このアップデートによって解消されるすべての問題について記述しています。このアップデートをインストールした後は、システムをリブートして変更を有効にする必要があります。

このアップデートをインストールしていないと、マルチストリーム・プロセスで起動しているキューを STOP/QUEUE/RESET を使用して停止した後、直ちに START/QUEUE を使用して起動した場合に、ハングする可能性があります。さらに、次のメッセージが OPCOM に書き込まれることがあります。

```
%DCPS-F-STREAMUSE, Request 4 for Stream Id x ignored.  
Not consistent with symbiont state
```

ハング状態から回復するには、Ctrl/Yを押してDCLプロンプト表示に戻り、続いて再度STOP/QUEUE/RESETを実行し、数秒待ってから再度キューを起動するようにします。この問題の回避策は、Queue Managerアップデートをインストールすることです。

6.3 LAT 接続および直接接続プリンタのキュー起動の問題

OpenVMS V7.0 ターミナル・ドライバに問題があり、DCPSでLAT接続および直接接続プリンタを使用することができない場合があります。現象としては、対応するキューを起動することができず、OPCOMに次のようなメッセージが書き込まれます。

```
%%%%%%%%%% OPCOM 31-OCT-1995 21:53:55.73 %%%%%%%%%%%  
Message from user SYSTEM on FUNYET  
Queue SYS$PRINT: %DCPS-E-UNSUPPORTED, unsupported operation or  
function  
  
%%%%%%%%%% OPCOM 31-OCT-1995 21:53:55.74 %%%%%%%%%%%  
Message from user QUEUE_MANAGE on FUNYET  
%QMAN-I-QUENOTSTART, queue SYS$PRINT could not be started on node  
FUNYET  
  
%%%%%%%%%% OPCOM 31-OCT-1995 21:53:55.74 %%%%%%%%%%%  
Message from user QUEUE_MANAGE on FUNYET  
-SYSTEM-F-ABORT, abort
```

この現象は継続して発生する場合がありますし、断続的に発生する場合があります。キューの起動を何回か続けて試みると、正しく起動できる場合があります。

この問題は、次のパッチ・キットで解消されます。

- ALPTTDR01_070, OpenVMS Alpha V7.0 システム用
- VAXTTDR01_070, OpenVMS VAX V7.0 システム用

6.4 シリアル接続プリンタの I/O エラー

OpenVMS ターミナル・ドライバに問題があり、OpenVMS システムのシリアル・ポートに接続したプリンタが I/O エラーを通知する場合があります。この問題は、使用しているシリアル・ポートの種類に依存していますが、OpenVMS Alpha V6.2 ~ V7.0 および OpenVMS VAX V5.5 ~ V7.0 で発生します。

問題は、プリンタのデータ消失防止用の XOFF 要求に対して、ターミナル・ドライバの応答が遅くなる場合があります。

この問題は OpenVMS Alpha V7.1 で解消されました。

この問題は、次のパッチ・キットで解消されます。

- ALPOPDR02_070, OpenVMS Alpha V7.0 システム用
- ALPOPDR04_062, OpenVMS Alpha V6.2 システム用

6.5 不十分なダイナミック・メモリ・エラーによるシンビオントの強制終了

OpenVMS VAX V7.0 および V7.1 システムの DECthreads に問題があり、INSFMEM エラーを発生して DCPS シンビオントが強制終了する場合があります。DCPS シンビオントは毎回、前回よりも多くのメモリを消費し、最終的には利用可能なダイナミック・メモリよりも多くのメモリを取得しようとして強制終了します。シンビオントの強制終了が発生する確率は、シンビオントが新たにプリント・ジョブを処理するたびに増加します。

この問題は、次のパッチ・キットで解消されます。

- VAXCMAR01_071, OpenVMS VAX V7.1 システム用
- VAXCMAR01_070, OpenVMS VAX V7.0 システム用

6.6 アクセス違反あるいは不正パラメータ・エラーによるシンビオントの強制終了

1997年5月19日以降、場合によってはCMA (DECthreads) 機能に問題があることを示すACCVIOあるいはBADPARAMエラーが発生して、DCPSシンビオントが強制終了する可能性があります。DECthreads機能に基づくDIGITAL TCP/IP Services for OpenVMSおよびその他レイヤード製品を含むシステム上のソフトウェアは、この日付以降に障害が発生する可能性があります。

この問題は、デルタ時間が10,000日よりも短いという長年のOpenVMSの制限に関連しています。特に、UNIX基準時間として1970年1月1日を使用しているPOSIX関連のソフトウェアは、1997年5月19日以降にこの制限を超えます。デルタ時間の制限については、OpenVMSのWebページ(www.openvms.digital.com)を参照してください。

この問題は、次のパッチ・キットで解消されます。

- ALPLIBR05_070, OpenVMS Alpha V6.1 ~ V7.0 システム用
- VAXLIBR06_070, OpenVMS VAX V5.5 ~ V7.0 システム用

プリンタ固有の情報

この章では、特定のプリンタで DCPS を使用する場合の情報を提供します。

7.1 リコー製プリンタ

7.1.1 RICOH IPSiO NX910 , NX900

7.1.1.1 制限事項

- パンチ機能はサポートされません。
- 仕分け印刷機能はサポートされません。
- 9ピン・プリント・ポスト、3000枚フィニッシャーを取り付けた場合、用紙サイズによっては本体排紙トレイに排紙できません。
- パラレル・ポートによる接続はサポートされません。

7.1.1.2 セパレータ・トレイの指定

- 1 標準の給紙トレイ (上段)
- 2 標準の給紙トレイ (下段)
- 3 1000枚給紙テーブル (上段), オプション
- 4 1000枚給紙テーブル (下段), オプション
- 5 1500枚増設トレイ・ユニット, オプション

プリント・キューにジョブ・セパレータ・ページを対応付ける場合、次のコマンドを使用して次の論理名を定義してください。

```
$ DEFINE/SYSTEM DCPS$queue-name_SEPARATOR_TRAY n
```

プリンタ固有の情報

7.1 リコー製プリンタ

このコマンドでは、実行キューの名前 (*queue-name*) と給紙トレイ番号 (*n*: 通常は 1) を指定しなければなりません。この論理名の定義がされていない場合、印刷実行時に INPUT_TRAY=MANUAL_FEED パラメータが指定された場合に次のようなエラーが発生し、印刷できません。

```
%DCPS-W-RANGECHK, rangecheck: Argument out of bounds - offending
command is setpapertray
%DCPS-E-FLUSHING, Rest of Job (to EOJ) will be ignored
```

7.1.2 RICOH IPSiO NX800

7.1.2.1 制限事項

- 仕分け印刷機能はサポートされません。
- パラレル・ポートによる接続はサポートされません。

7.1.2.2 セパレータ・トレイの指定

- 1 標準の給紙トレイ (上段)
- 2 標準の給紙トレイ (下段)
- 3 500 枚増設トレイ, オプション
1000 枚給紙テーブル (上段), オプション
2000 枚給紙テーブル, オプション
- 4 1000 枚給紙テーブル (下段), オプション

プリント・キューにジョブ・セパレータ・ページを対応付ける場合、次のコマンドを使用して次の論理名を定義してください。

```
$ DEFINE/SYSTEM DCPS$queue-name_SEPARATOR_TRAY n
```

このコマンドでは、実行キューの名前 (*queue-name*) と給紙トレイ番号 (*n*: 通常は 1) を指定しなければなりません。この論理名の定義がされていない場合、印刷実行時に INPUT_TRAY=MANUAL_FEED パラメータが指定された場合に次のようなエラーが発生し、印刷できません。

```
%DCPS-W-RANGECHK, rangecheck: Argument out of bounds - offending
command is setpapertray
%DCPS-E-FLUSHING, Rest of Job (to EOJ) will be ignored
```


7.1.3 RICOH IPSiO NX810

7.1.3.1 制限事項

- 仕分け印刷機能はサポートされません。
- 試し印刷はサポートされません。
- 機密印刷はサポートされません。
- 回転ソートはサポートされません。
- シフトソートはサポートされません。
- フォーム印刷はサポートされません。
- 手差しトレイにセットした用紙を印刷するときには、両面印刷およびホチキス止めの機能が使用できません。
- パラレル・ポートによる接続はサポートされません。

7.1.3.2 セパレータ・トレイの指定

- | | |
|---|--|
| 0 | 手差しトレイ |
| 1 | 標準の給紙トレイ (上段) |
| 2 | 標準の給紙トレイ (下段) |
| 3 | 500 枚増設トレイ, オプション
1000 枚給紙テーブル (上段), オプション
2000 枚給紙テーブル, オプション |
| 4 | 1000 枚給紙テーブル (下段), オプション |

プリント・キューにジョブ・セパレータ・ページを対応付ける場合、次のコマンドを使用して次の論理名を定義してください。

```
$ DEFINE/SYSTEM DCPS$queue-name_SEPARATOR_TRAY n
```

このコマンドでは、実行キューの名前 (*queue-name*) と給紙トレイ番号 (*n*: 通常は 1) を指定しなければなりません。この論理名の定義がされていない場合、印刷実行時に INPUT_TRAY=MANUAL_FEED パラメータが指定された場合に次のようなエラーが発生し、印刷できません。

プリンタ固有の情報

7.1 リコー製プリンタ

```
%DCPS-W-RANGECHK, rangecheck: Argument out of bounds - offending
command is setpapertray
%DCPS-E-FLUSHING, Rest of Job (to EOJ) will be ignored
```

7.1.4 RICOH IPSiO Color 4100

7.1.4.1 制限事項

- 不定形サイズの内紙はサポートされません。
- パラレル・ポートによる接続はサポートされません。

7.1.5 RICOH IPSiO NX710 , NX700

7.1.5.1 制限事項

- オプションの拡張 RS-232C ボードによる DCPS からの印刷はサポートされません。
- パラレル・ポートによる接続はサポートされません。

7.1.6 RICOH IPSiO NX720N

7.1.6.1 制限事項

- 試し印刷はサポートされません。
- 機密印刷はサポートされません。
- パラレル・ポートによる接続はサポートされません。
- 次の用紙はサポートされません。
 - 不定形サイズ
 - 封筒 (洋形 4 号)
- NX720N の仕様により、次の制限があります。
 - A5 (短辺給紙), A6, B6, はがき, Half Letter の用紙は 1 ビン・シフト・トレイには排紙できません。

- A5 (短辺給紙), A6, B6, はがき, Half Letter の用紙は 4 ビン・プリント・ポストには排紙できません。
- A5 (短辺給紙), A6, B6, はがき, Half Letter の用紙は両面印刷できません。
- プリント・キューに/SEPARATE=FLAG が設定されている場合, 両面印刷ができません。/SEPARATE=FLAG の代わりに/DEFAULT=FLAG を使用してください。

7.1.7 RICOH PC LASER NX-510, NX-500

7.1.7.1 制限事項

- OT1 用紙サイズはサポートされません。
- オプションの拡張 RS-232C ボードによる DCPS からの印刷はサポートされません。

7.1.8 RICOH IPSiO NX1100, PC LASER NX-1000

7.1.8.1 制限事項

- ジョブ毎に排紙トレイ上の排紙される位置をシフト出力することはできません。
- パラレル・ポートによる接続はサポートされません。

7.2 沖データ製プリンタ

7.2.1 OKI MICROLINE 1032PS

7.2.1.1 制限事項

- ウォーターマーク印刷はサポートされません。
- 丁合印刷はサポートされません。
- 確認印刷はサポートされません。

プリンタ固有の情報 7.2 沖データ製プリンタ

- 認証印刷はサポートされません。

7.2.1.2 セパレータ・トレイの指定

- 1 トレイ 1
- 2 トレイ 2
- 4 フロント・フィーダ
- 5 エンベロープ・フィーダ, オプション

プリント・キューにジョブ・セパレータ・ページを対応付ける場合, 次のコマンドを使用して次の論理名を定義してください。

```
$ DEFINE/SYSTEM DCPS$queue-name_SEPARATOR_TRAY n
```

このコマンドでは, 実行キューの名前 (*queue-name*) と給紙トレイ番号 (*n*: 通常は 1) を指定しなければなりません。この論理名の定義がされていない場合, 印刷実行時に INPUT_TRAY=MANUAL_FEED パラメータが指定された場合に次のようなエラーが発生し, 印刷できません。

```
%DCPS-W-RANGECHK, rangecheck: Argument out of bounds - offending  
command is setpapertray  
%DCPS-E-FLUSHING, Rest of Job (to EOJ) will be ignored
```

7.2.1.3 raw TCP/IP のポート番号

raw TCP/IP プロトコルを使用して, MICROLINE 1032PS のための DCPS キューを作成する場合, 9100 というポート番号を使用してください。

プリンタの操作パネルで「システム コウセイ メニュー」の「コントロール T」を「ユウコウ」に設定してください。

7.2.2 OKI MICROLINE 703N3, 701N3

7.2.2.1 制限事項

- B4 DIN 用紙はサポートされません (B4 JIS はサポートされます)。
- B5 DIN 用紙はサポートされません (B5 JIS はサポートされます)。

7.2.2.2 セパレータ・トレイの指定

- 1 トレイ 1
- 2 トレイ 2
- 4 フロント・フィーダ
- 5 エンベロープ・フィーダ, オプション

プリント・キューにジョブ・セパレータ・ページを対応付ける場合, 次のコマンドを使用して次の論理名を定義してください。

```
$ DEFINE/SYSTEM DCPS$queue-name_SEPARATOR_TRAY n
```

このコマンドでは, 実行キューの名前 (*queue-name*) と給紙トレイ番号 (*n*: 通常は 1) を指定しなければなりません。この論理名の定義がされていない場合, 印刷実行時に INPUT_TRAY=MANUAL_FEED パラメータが指定された場合に次のようなエラーが発生し, 印刷できません。

```
%DCPS-W-RANGECHK, rangecheck: Argument out of bounds - offending  
command is setpapertray  
%DCPS-E-FLUSHING, Rest of Job (to EOJ) will be ignored
```

7.2.3 OKI MICROLINE 3020c , 3010c

7.2.3.1 制限事項

- 丁合印刷はサポートされません。
- 確認印刷はサポートされません。
- 認証印刷はサポートされません。
- 小冊子の作成はサポートされません。
- 次の用紙はサポートされません。
 - A3 ワイド (3020c の場合)
 - タブロイド・エクストラ (3020c の場合)
 - リーガル (13.5 インチ)
 - カスタム

7.2.3.2 セパレータ・トレイの指定

3010c の場合:

- 1 トレイ 1
- 2 トレイ 2
- 3 トレイ 3
- 4 マルチパーパス・トレイ

3020c の場合:

- 1 トレイ 1
- 2 トレイ 2
- 3 トレイ 3
- 4 マルチパーパス・トレイ
- 6 トレイ 4
- 7 トレイ 5

プリント・キューにジョブ・セパレータ・ページを対応付ける場合、次のコマンドを使用して次の論理名を定義してください。

```
$ DEFINE/SYSTEM DCPS$queue-name_SEPARATOR_TRAY n
```

このコマンドでは、実行キューの名前 (*queue-name*) と給紙トレイ番号 (*n*: 通常は 1) を指定しなければなりません。この論理名の定義がされていない場合、印刷実行時に INPUT_TRAY=MANUAL_FEED パラメータが指定された場合に次のようなエラーが発生し、印刷できません。

```
%DCPS-W-RANGECHK, rangecheck: Argument out of bounds - offending  
command is setpapertray  
%DCPS-E-FLUSHING, Rest of Job (to EOJ) will be ignored
```

7.2.3.3 raw TCP/IP のポート番号

raw TCP/IP プロトコルを使用して、MICROLINE 1032PS のための DCPS キューを作成する場合、9100 というポート番号を使用してください。

プリンタの操作パネルで「システム コウセイ メニュー」の「コントロール T」を「ユウコウ」に設定してください。

7.2.4 OKI MICROLINE 2030N , 2020N

7.2.4.1 制限事項

- ウォーターマーク印刷はサポートされません。
- 丁合印刷はサポートされません。
- 確認印刷はサポートされません。
- 認証印刷はサポートされません。
- DCPS の OUTPUT_TRAY により排紙トレイの選択を行うことができません。
- カスタム用紙はサポートされません。

7.2.4.2 セパレータ・トレイの指定

- 1 ファースト・トレイ
- 2 セカンド・トレイ
- 4 フロント・トレイ
- 5 エンベロープ・フィーダ, オプション

プリント・キューにジョブ・セパレータ・ページを対応付ける場合、次のコマンドを使用して次の論理名を定義してください。

```
$ DEFINE/SYSTEM DCPS$queue-name_SEPARATOR_TRAY n
```

このコマンドでは、実行キューの名前 (*queue-name*) と給紙トレイ番号 (*n*: 通常は 1) を指定しなければなりません。この論理名の定義がされていない場合、印刷実行時に INPUT_TRAY=MANUAL_FEED パラメータが指定された場合に次のようなエラーが発生し、印刷できません。

```
%DCPS-W-RANGECHK, rangecheck: Argument out of bounds - offending  
command is setpapertray  
%DCPS-E-FLUSHING, Rest of Job (to EOJ) will be ignored
```

7.2.4.3 raw TCP/IP のポート番号

raw TCP/IPプロトコルを使用して、MICROLINE 1032PS のための DCPS キューを作成する場合、9100 というポート番号を使用してください。

プリンタの操作パネルで「システム コウセイ メニュー」の「コントロール T」を「ユウコウ」に設定してください。

7.2.5 OKI MICROLINE 900PSIII LT , 903PSIII

7.2.5.1 制限事項

- B4 DIN , B5 DIN , Executive 用紙サイズはサポートされません。
- オプションの Ethernet ボードによる DCPS から AppleTalk 経由の印刷はサポートされません。
- 給紙トレイに A4 用紙を横置きに装着できる 903PSIII において、A4 用紙を横置きに装着した場合、SHEET_SIZE パラメータには A4L を指定してください。
- プリント・キューにジョブ・セパレータ・ページを対応付ける場合、次のコマンドを使用して次の論理名を定義してください。

```
$ DEFINE/SYSTEM DCPS$queue-name_SEPARATOR_TRAY n
```

このコマンドでは、実行キューの名前 (*queue-name*) と給紙トレイ番号 (*n*: 通常は 1) を指定しなければなりません。この論理名の定義がされていない場合、印刷実行時に INPUT_TRAY=MANUAL_FEED パラメータが指定された場合に次のようなエラーが発生し、印刷できません。

```
%DCPS-W-RANGECHK, rangecheck: Argument out of bounds - offending  
command is setpapertray  
%DCPS-E-FLUSHING, Rest of Job (to EOJ) will be ignored
```

- 印刷実行時に INPUT_TRAY=MANUAL_FEED パラメータを指定する場合、プリント・ジョブに対してファイル・セパレータ・ページを指定することはできません。次のようなエラーが発生し、印刷できません。


```
%DCPS-W-RANGECHK, rangecheck: Argument out of bounds - offending  
command is setpapertray  
%DCPS-E-FLUSHING, Rest of Job (to EOJ) will be ignored
```

7.2.6 OKI MICROLINE 801PSIIV-LT , 802PSIIV , 803PSIIV

7.2.6.1 制限事項

- B4 DIN , B5 DIN 用紙サイズはサポートされません。
- オプションの Ethernet ボードによる DCPS から AppleTalk 経由の印刷はサポートされません。
- 給紙トレイに A4 用紙を横置きに装着できる 803PSIIV において , A4 用紙を横置きに装着した場合 , SHEET_SIZE パラメータには A4L を指定してください。

7.2.7 OKI MICROLINE シリーズすべて

OKI MICROLINE 703N3 , 701N3 , 1032PS 以外の OKI MICROLINE シリーズのすべてのプリンタについて , Executive 用紙サイズがサポートされなくなりました。

7.3 セイコーエプソン製プリンタ

7.3.1 InterLaser LP-9600SPD

7.3.1.1 制限事項

- Government Letter 用紙はサポートされません。
- F4 用紙はサポートされません。
- シフト出力機能はサポートされません。
- ソータ機能はサポートされません。
- マルチソータ機能はサポートされません。

プリンタ固有の情報

7.3 セイコーエプソン製プリンタ

- 10ピン・マルチピン・ユニットの大容量(スタッカ)モード機能はサポートされません。
- ホチキス止め機能はサポートされません。
- 両面印刷ユニットが必須です。

7.3.1.2 セパレータ・トレイの指定

- 1 カセット 1
- 2 カセット 2
- 3 カセット 3, オプション
- 4 カセット 4, オプション
- 5 カセット 5, オプション

7.3.2 ESPER-LASER LP-9200PS3

7.3.2.1 制限事項

- A3W 用紙はサポートされません。
- Government Letter 用紙はサポートされません。
- F4 用紙はサポートされません。
- 往復はがきはサポートされません。

7.3.2.2 セパレータ・トレイの指定

- 0 標準トレイ
- 1 カセット 1
- 2 カセット 2, オプション
- 3 カセット 3, オプション

7.3.3 ESPER-LASER LP-8400PS3

7.3.3.1 制限事項

- 往復はがきはサポートされません。

7.3.3.2 セパレータ・トレイの指定

- | | |
|---|---------------|
| 0 | 標準トレイ |
| 1 | 上カセット |
| 2 | 下カセット (オプション) |

7.3.4 ESPER-LASER LP-9200PS2

7.3.4.1 制限事項

- A3 ノビ†, GOVT LEGAL, GOVT LETTER 用紙サイズはサポートされません。
- Ethernet インタフェースを使用しての DCPS から AppleTalk 経由の印刷はサポートされません。

7.4 富士ゼロックス製プリンタ

7.4.1 FUJI XEROX DocuPrint 201PS

7.4.1.1 制限事項

- 封筒用紙はサポートされません。
- ユーザ定義用紙はサポートされません。
- セパレータ・トレイの指定はサポートされません。

7.4.2 FUJI XEROX DocuPrint C1250

† DCPS V1.3 で新たに追加された A3NOBI 用紙サイズは LP-9200PS2 では A3W に相当します。

プリンタ固有の情報
7.4 富士ゼロックス製プリンタ

7.4.2.1 制限事項

- 12x18"用紙はサポートされません。
- 8x10"用紙はサポートされません。
- SRA3 用紙はサポートされません。
- 非定型用紙はサポートされません。

7.4.3.2 セパレータ・トレイの指定

0	トレイ 1
1	トレイ 2
2	トレイ 3
3	トレイ 4

7.4.3 FUJI XEROX Laser Press 4410

7.4.3.1 制限事項

- 八開用紙はサポートされません。
- 非定型用紙はサポートされません。
- ホチキス止め機能はサポートされません。
- オフセット・キャッチ機能はサポートされません。
- パラレル・ポートによる接続はサポートされません。

7.4.3.2 セパレータ・トレイの指定

0	トレイ 1
1	トレイ 2 (オプション)
2	トレイ 3/大容量給紙トレイ 3 (オプション)
3	トレイ 4/大容量給紙トレイ 4 (オプション)

7.5 Compaq Laser Printer LN16 および GENICOM microLaser 170

7.5.1 プリンタの構成

DCPS では、プリンタの PERSONALITY が POSTSCRIPT に設定されていることが必要です。PERSONALITY が AUTO あるいは PCL に設定されている場合、DCPS ジョブは "Starting" 状態のままとなって出力しません。この設定は、プリンタ・コンソールの CONFIG メニューで行います。

PERSONALITY を POSTSCRIPT に設定することにより、Windows PC から送信された PCL ジョブも継続して正しく出力されます。

7.5.2 raw TCP/IP のポート番号

raw TCP/IP プロトコルを使用して、LN16 または mL170 のための DCPS キューを作成する場合、9100 というポート番号を使用してください。

7.5.3 LAT および AppleTalk の構成

DCPS キューで使用される LAT 装置を作成するには、LATCP 修飾子に次のいずれかの値の組み合わせを使用することができます。

- /NODE=*nodename* /PORT=PORT_1
- /SERVICE=*service*

ここで、*nodename* はプリンタの NIC ノード名であり、*service* はプリンタの有効なサービス名です。これらの値は、プリンタの NIC ステータス・ページ、あるいは Telnet あるいは LAT を経由して NIC にログインすることにより得られます。たとえば、次のコマンドはプリンタの NIC ノード名が PRQ_00001Fであることを示しています。

プリンタ固有の情報

7.5 Compaq Laser Printer LN16 および GENICOM microLaser 170

```
Local_4> show server
NET16 Version V1.0/1(990126)      Uptime:          23:17:07
Hardware Addr: 00-50-27-00-00-1f  Name/Nodenum:   PRQ_00001F/ 0
Ident String: NET16
```

AppleTalk を使用して DCPS キューを作成する場合は、サービス名を使用しなければなりません。省略時のサービス名のいずれかを使用することもできますし、省略時のサービス名を修正することもできます。また、ユーザ独自のサービス名を作成することもできます。次は、LAT および AppleTalk の両方で使用することができるサービスの例です。この例では、DCPS_LN16 が AppleTalk 名です。

```
Local_4> list service dcps_ln16
Service: DCPS_LN16      Ident: DCPS Compaq Laser Printer LN16
Rating: N/A            Ports: 1
Characteristics:       Queueing Binary Rtel Connections AppleTalk
                        Lat
SOJ: <none>           EOJ: <none>
Enabled Groups: 0
```

AppleTalk サービス名は注意して作成してください。同一サービス名を複数のプリンタに作成すると、ネットワーク上に同一 AppleTalk 名を使用した複数のプリンタが存在することになるからです。

プリンタ・サービスの設定についての詳細は、プリンタの『Ethernet Network Interface Card (NIC) Reference Manual』を参照してください。

7.6 Compaq Laser Printer LN32 , LNM40 および GENICOM 製プリンタ

この節では、Compaq Laser Printer LN32 , LNM40 および GENICOM LN21 , LN28 , LNM40 ならびに GENICOM microLaser 210 , 280 , 320 , 401 について説明します。

7.6.1 プリンタおよびネットワークのファームウェア・バージョン

ファームウェア・バージョンは、印刷されたサマリ・シートおよびプリンタの Web ページに掲載されています。プリンタのファームウェアは *Product Version* として、ネットワーク・ファームウェアは *Network Version* として記述されています。

7.6.2 プリンタの構成

7.6.2.1 言語検出モード

LN32 あるいは LNM40 プリンタが PostScript モードあるいは自動言語検出モードである場合は、DCPS はこれらのプリンタに出力することができます。INTERPRETER および FORMAT が表 7-1 に示す値に設定されていることを確認してください。これらの値は、プリンタ・コンソールの INTERFACE メニューで設定することができます。

表 7-1 有効な LN21, LN28, LN32, LNM40, mL210, mL280, mL320, mL401 の言語検出構成

プリンタのモード	プリンタの設定	
	INTERPRETER	FORMAT
PostScript/PCL 検出	Auto Switch	Raw
PostScript	PostScript	Normal

7.6.2.2 プリンタ設定によりキューが "Stalled" 状態となる可能性

プリンタの Delayed Output Close の工場出荷時の省略時の設定値により、DCPS キューが "Stalled" 状態となる可能性があります。省略時の設定値は OFF であり、これはプリンタが 1 つのジョブを終了して別のジョブを素早く起動できるよう制御することにより、性能の向上を意図したものです。しかし、DCPS 以外の環境から出力した場合、この値により DCPS キューが "Stalled" 状態となる可能性があります。したがって、異なる環境から出力する場合は、この値を ON に設定してください。DCPS からのみ出力する場合は、Delayed Output Close の値を OFF のままとしておくことができます。

プリンタ固有の情報

7.6 Compaq Laser Printer LN32, LNM40 および GENICOM 製プリンタ

Delayed Output Close の設定値は、プリンタ・コンソールの INTERFACE メニューの NETWORK セクションの DELAY OUT CLOSE で確認できます。*

7.6.3 raw TCP/IP のポート番号

raw TCP/IP プロトコルを使用して、LN32 あるいは LNM40 のための DCPS キューを作成する場合、9100 というポート番号を使用してください。

7.6.4 LAT および AppleTalk の構成

LAT および AppleTalk キューの構成についての情報は、第 7.5.3 項を参照してください。

7.6.5 TCPware 使用時のキューの中断

LN32 あるいは LNM40 プリンタとともに TCPware を使用している場合、画面上に非常に多くのユーザ・データ・メッセージが表示されることがあり、次のような OPCOM メッセージを表示してキューが異常終了することがあります。

```
%%%%%%%% OPCOM 21-APR-1999 15:09:53.22 %%%%%%%%%
Message from user SYSTEM on ZIPPY
Queue LN32_RAW: %DCPS-F-EXQUOTA, process quota exceeded
```

この問題は、プリンタのファームウェアが 990323 で、TCPware V5.3-3 を稼働している場合に発生します。この問題を回避するには、システム管理者が次の手順を実行しなければなりません。

- 次の TCPware コマンドを実行します。

```
$ NETCU STOP /TCP
```

```
$ NETCU START /TCP /NOPATH_MTU_DISCOVERY
```

- TCPware を V5.3-3 よりも新しいバージョンにアップグレードします。
- TCPware パッチ・キット DRIVERS_V533P020 を適用します。

* この設定値は、バージョン 3.03 より前のファームウェアを持つ LN32 および LNM40 プリンタでは表示されません。

- プリンタを最新のファームウェア・レベルにアップグレードします。

7.7 Hewlett-Packard LaserJet 8000 シリーズ

7.7.1 オプションのメールボックス

Hewlett-Packard LaserJet 8000 プリンタのオプション設定に応じて、DCPS はこのプリンタのオプション・メールボックス・ビンに対して 1-5, 1-7, 1-8 のいずれかの番号を付けます。これは、ビンの側面のプラスチックに刻印された数字に一致します。これに対し、プリンタ・コンソールでは、これらのビンに 2 から 9 の番号を付けて参照します。番号付けおよび異なるオプションと構成によるトレイの目的についての詳細は、『HP LaserJet 8000, 8000 N, 8000 DN, and HP Mopier 240 Printers User Guide』を参照してください。

7.7.2 raw TCP/IP のポート番号

raw TCP/IP接続を使用して、HP LaserJet 8000 用の DCPS キューを作成する場合は、ポート番号 9100 を指定してください。

7.7.3 最小のファームウェア・バージョン

DCPS から Hewlett-Packard LaserJet 8000 シリーズ・プリンタを使用するには、プリンタがファームウェア・バージョン19980610MB4.28以上を使用している必要があります。このファームウェアのバージョン番号は、プリンタの構成ページに *Firmware Datecode* として表示されます。

プリンタのファームウェア・バージョンがこれよりも古い場合は、Hewlett-Packard 社に連絡して適切なバージョンを要求してください。新しいファームウェアは SIMM として送付され、プリンタに装着するようになっています。

7.8 Tektronix Phaser 780

7.8.1 プリンタ構成の設定

DCPS を使用して Phaser 780 を使用する場合は、次の AppSocket の設定を変更しなければなりません。

表 7-2 Tektronix Phaser 780 構成設定

AppSocket 設定	値
Interpreter	PostScript
Filtering	Interpreter-Based

7.8.2 raw TCP/IP ポート

raw TCP/IP接続を使用して、Tektronix Phaser 780 用の DCPS キューを作成する場合は、ポート番号 9100 を指定してください。

DCPS でのホチキス止め機能の使用

RICOH IPSiO NX800, NX810, NX900, NX910 あるいは Compaq Laser Printer LN32, LNM40 あるいは GENICOM LNM40, mL320, mL401 にオプションのホチキス止め機能が装着されている場合は, DECprint Supervisor ジョブをホチキス止めすることができます。

8.1 DCL 構文

ホチキス止めは, PRINT パラメータ STAPLE を使用して指定します。

```
$ PRINT /PARAMETERS=(..., STAPLE= [ LEFT_CENTER  
TOP_CENTER  
TOP_LEFT  
TOP_RIGHT  
NONE ] ,...) file_name
```

これらの値は, 用紙上のイメージ方向に対するホチキス止めを行う位置を指定します。NONE が指定された場合, プリンタの省略時のホチキス止め設定を無効とし, ジョブはホチキス止めされません。

8.2 ホチキス止め可能な位置

用紙が給紙される方向によっては, STAPLE パラメータのいくつかの値は使えない場合があります。ジョブ・ページ方向およびプリンタの給紙方向に応じたホチキス止め可能な位置については, 表 8-1 および表 8-2 を参照してください。

DCPS でのホチキス止め機能の使用
8.2 ホチキス止め可能な位置

表 8-1 IPSiO NX900, NX910 および LN32, LNM40, mL320, mL401 でのホチキス止め可能な位置

イメージおよび給紙の方向	TOP_LEFT	TOP_CENTER	TOP_RIGHT	LEFT_CENTER
ポートレート				
横方向給紙 (LEF)	Yes			Yes
縦方向給紙 (SEF)	Yes	Yes	Yes	
ランドスケープ				
横方向給紙 (LEF)	Yes	Yes	Yes	
縦方向給紙 (SEF)	Yes			Yes

表 8-2 IPSiO NX800, NX810 でのホチキス止め可能な位置

イメージおよび給紙の方向	TOP_LEFT	TOP_CENTER	TOP_RIGHT	LEFT_CENTER
ポートレート				
横方向給紙 (LEF)	Yes			
縦方向給紙 (SEF)			Yes	
ランドスケープ				
横方向給紙 (LEF)			Yes	
縦方向給紙 (SEF)	Yes			

サポートされないホチキス止め位置を指定した場合、DCPS はエラーを表示し、そのジョブは出力されません。DCPS のホチキス止めに関するメッセージの一覧については、第 8.4 節を参照してください。

8.3 ホチキス止めに関する注意事項

DCPS で IPSiO NX800, NX810, NX900, NX910 および LN32, LNM40, mL320, mL401 のホチキス止め機能を使用する場合は次の事項に注意してください。

- LN32, LNM40, mL320, mL401 プリンタでは、ホチキス止めした用紙は排紙トレイ BIN_1, BIN_2, BIN_3 のいずれかにしか出力することができません。IPSiO NX800, NX810, NX900, NX910 プリンタでは、ホチキス止めした用紙は排紙トレイ LCOS にしか出力することができません。
- 用紙一枚に出力されるジョブは、ホチキス止めされません。
- STAPLE パラメータを指定しなかった場合は、プリンタの省略時のホチキス止め設定が使用されます。すべてのジョブへのホチキス止めがプリンタの省略時の設定である場合は、STAPLE=NONE を指定することにより、DCPS ジョブへのホチキス止めを行わないようにすることができます。
- IPSiO NX900, NX910 プリンタの最大ホチキス止め枚数は、A4, LETTER 以下の用紙の場合 50 枚、B4, LEGAL 以上の用紙の場合 30 枚です。
IPSiO NX900 プリンタでは、限界を超えた場合でもホチキス止めを行います
が、ホチキス止めに失敗します。
IPSiO NX910, NX810 プリンタでは、限界を超えた場合はホチキス止めは行
われず、最大枚数を超えた時点で排紙されます。
- IPSiO NX910 プリンタでは、PAGE_LIMIT を指定した場合にホチキス止めが
できません。
- IPSiO NX800, NX810 プリンタの最大ホチキス止め枚数は、A4, LETTER
以下の用紙の場合 30 枚、B4, LEGAL 以上の用紙の場合 20 枚です。
- LN32, LNM40, mL320, mL401 プリンタでは、ジョブの用紙がプリンタの
ホチキス止めの限界 (60 枚) を超えた場合、そのジョブは出力されますが、ホチ
キス止めは行われません。
- ジョブのセパレータ・ページはホチキス止めされません。ファイル・セパレー
タ・ページは、ファイルとともにホチキス止めされます。

DCPS でのホチキス止め機能の使用
8.3 ホチキス止めに関する注意事項

- IPSiO NX800, NX810, NX900, NX910 および LN32, LNM40, mL320, mL401 プリンタは、すべての用紙サイズおよび給紙方向をサポートするわけではありません。ホチキス止めできないサイズを指定した場合、DCPS はエラー・メッセージを表示し、そのジョブは出力されません。サポートされている用紙サイズおよび給紙方向の一覧は、表 8-3 および表 8-4 を参照してください。

表 8-3 IPSiO NX800, NX810, NX900, NX910 ホチキス止め機能でサポートされる用紙サイズおよび給紙方向

用紙サイズ	横方向給紙 (LEF)	縦方向給紙 (SEF)
LETTER (8.5x11")	Yes	Yes
A3 (297x420 mm)		Yes
A4 (297x210 mm)	Yes	Yes
LEDGER (11x17")		Yes
LEGAL (8.5x14")		Yes
B4 (256.8x363.7 mm)		Yes
B5 (257.1x182 mm)	Yes	Yes

表 8-4 LN32, LNM40, mL320, mL401 ホチキス止め機能でサポートされる用紙サイズおよび給紙方向

用紙サイズ	横方向給紙 (LEF)	縦方向給紙 (SEF)
A, LETTER (8.5x11")	Yes	Yes
A3 (297x420 mm)		Yes
A4 (297x210 mm)	Yes	Yes
A5 (149x210 mm)	Yes	
B, LEDGER (11x17")		Yes
EXECUTIVE (7.25x10.5")	Yes	
FOLIO (8.5x13")		Yes
LEGAL (8.5x14")		Yes

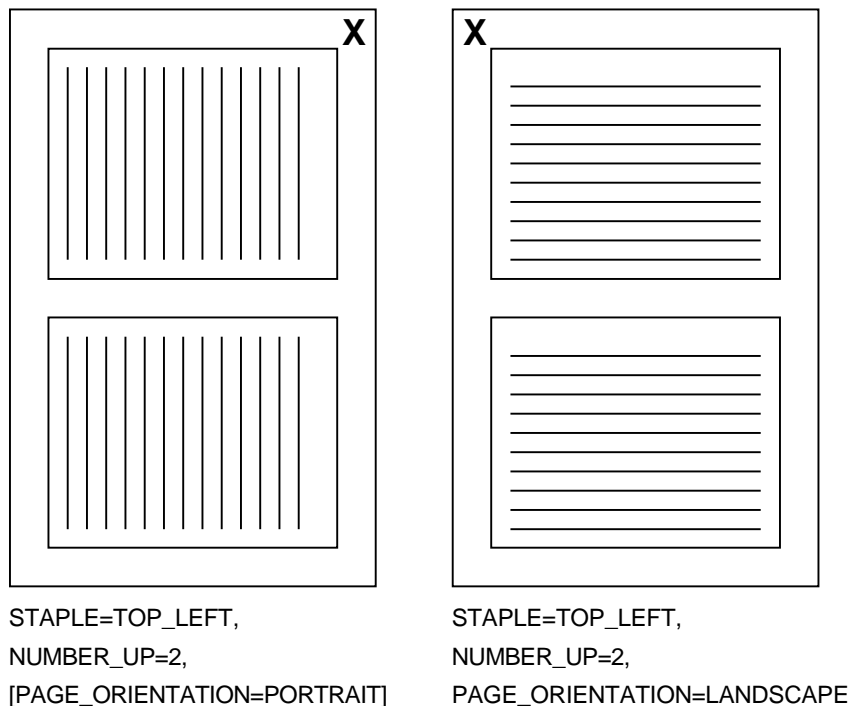
(次ページに続く)

表 8-4 (続き) LN32, LNM40, mL320, mL401 ホチキス止め機能でサポートされる用紙サイズおよび給紙方向

用紙サイズ	横方向給紙 (LEF)	縦方向給紙 (SEF)
STATEMENT (5.5x8.5")	Yes	

- NUMBER_UP パラメータを使用した場合、ページ上のイメージ方向が変化する可能性があります。これにより、図 8-1 の例に示すように、ホチキス止めの位置に影響します。Xは、STAPLE、NUMBER_UP、PAGE_ORIENTATION パラメータを指定した場合のホチキス止めの位置を示します。(ページ方向が指定されない場合、PAGE_ORIENTATION=PORTRAIT が省略時の設定です。)

図 8-1 NUMBER_UP のホチキス止めへの影響



8.4 DCPS ホチキス止め機能のエラー・メッセージ

ホチキス止め機能を使用している場合、DCPS から次のようなエラー・メッセージが通知される可能性があります。エラー・メッセージについての詳細は、『日本語 DECprint Supervisor for OpenVMS ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

STPNOSUP, Stapling feature not supported for *product_name* printer.

説明: プリンタがホチキス止め機能をサポートしていません。

対処法: オプションであるホチキス止め機能を装着した IPSiO NX800 ,
NX810 , NX900 , NX910 あるいは Compaq Laser Printer LN32 , LNM40
あるいは GENICOM LNM40 , mL320 , mL401 を使用してください。

STPOUTTRAY, Selected output tray does not support stapling.

説明: 指定した排紙トレイは、ホチキス止めには使用できません。

対処法: IPSiO NX800, NX810, NX900, NX910 の場合は、排紙トレイ LCOS を選択してください。LN32, LNM40, mL320, mL401 の場合は、排紙トレイ BIN_1, BIN_2, BIN_3 のいずれかを選択してください。

STPPOSNOSUP, Stapling position not supported for orientation and feed direction.

説明: プリンタが要求した位置でのホチキス止めを行うことができません。

対処法: 用紙サイズがサポートされている場合は、用紙を異なる給紙方向に変更してください。あるいは、異なるページ方向を選択してください。

STPSIZENOSUP, Stapling not supported for *sheet_size* size paper and feed direction.

説明: 用紙サイズあるいは用紙の給紙方向あるいはその両方がホチキス止め機能でサポートされていないため、ホチキス止めを行うことができません。

対処法: 用紙サイズがサポートされている場合は、用紙を異なる給紙方向に変更してください。

DCPS バージョン 1.8 の情報

この節では、DCPS V1.8で変更された点について説明します。いくつかの変更点については、本書の別の箇所でも詳細に説明しています。

9.1 DCPS バージョン 1.8 の変更点

9.1.1 新しいプリンタのサポート

DCPS V1.8 では、次のプリンタのサポートが追加されました。

- GENICOM LN21
- GENICOM LN28
- GENICOM LNM40
- GENICOM microLaser 170
- GENICOM microLaser 210
- GENICOM microLaser 280
- GENICOM microLaser 320
- GENICOM microLaser 401
- Hewlett-Packard LaserJet 8000 シリーズ
- Lexmark Optra S 1625
- Lexmark Optra S 1855
- Tektronix Phaser 780

詳細については、本リリース・ノートの第 7 章を参照してください。

9.1.2 ホチキス止め機能の制限の一部解除

DCPS は、LN32、LNM40、mL320、mL401 のオプション機能であるホチキス止めをサポートします。

DCPS V1.7-1 では、複数のファイルを含むジョブを自動的にホチキス止めすることができませんでした。DCPS V1.8 より、ホチキス止めが要求された場合は、複数のファイルを含むジョブが自動的にホチキス止めされるようになります。

DCPS V1.7-1 では、PCL ジョブを自動的にホチキス止めすることができませんでした。DCPS V1.8 より、ホチキス止めが要求された場合は、PCL ジョブが自動的にホチキス止めされるようになります。ホチキス止めが要求された場合、PCL ファイルはプリンタのネイティブな PCL インタプリタにより変換されるのではなく、DCPS PCL4 トランスレータを使用して PostScript に変換されます。PCL ファイルに PCL4 以降に導入された PCL エスケープ・シーケンスが含まれる場合は、そのシーケンスは無視されます。

DCPS からホチキス止めのオプション機能を使用することについての詳細は、第 8 章を参照してください。

9.2 DCPS バージョン 1.8 で解決された問題

DCPS V1.8 では、次の問題が解決されました。

9.2.1 IP 名を指定した場合のシンビオントの中断

Alpha システムで DIGITAL TCP/IP Services for OpenVMS V5.0 とともに DCPS V1.7-1 またはそれ以前のバージョンを使用した場合、プリンタの TCP/IP ホスト名が DNS サーバによりアドレスに変換される際に、DCPS プリント・シンビオントが中断する可能性がありました。この問題は、VAX システムで TCP/IP Services V5.0 を使用した場合、あるいは TCP/IP Services V4.2 以前のバージョンを使用した場合は発生しませんでした。

次のような OPCOM メッセージが表示されました。

```
%%%%%%%% OPCOM 3-MAR-1999 15:38:25.08 %%%%%%%%%
Message from user SYSTEM on FUNYET
Process SYMBIONT_407: %SYSTEM-F-STKOVF, stack overflow, PC=00000000003237A4, PS=0000001B

%%%%%%%% OPCOM 3-MAR-1999 15:38:25.14 %%%%%%%%%
Message from user SYSTEM on FUNYET
%QMAN-E-SYMDEL, unexpected symbiont process termination

%%%%%%%% OPCOM 3-MAR-1999 15:38:25.17 %%%%%%%%%
Message from user SYSTEM on FUNYET
-SYSTEM-F-STKOVF, stack overflow, PC=0000000000000000, PS=00000000
%SYSTEM-F-STKOVF, stack overflow, PC=00000000000032F1C, PS=0000001B

Improperly handled condition, image exit forced.
Signal arguments:  Number = 0000000000000003
                   Name  = 0000000000000554
                   00000000000032F1C
                   100000000000001B

Register dump:
R0 = 0000000000000000 R1 = 0000000000000554 R2 = 0000000000010220
R3 = 0000000000020018 R4 = 0000000000000000 R5 = 0000000000011588
R6 = 0000000000000000 R7 = 000000000000000B R8 = 000000007AF2EFD8
R9 = 000000000FB132C R10 = 000000007AF2F169 R11 = 000000007AF2F5E0
R12 = 0000000000230D8 R13 = 000000007B022330 R14 = FFFFFFFF8101A7C0
R15 = 0000000000000554 R16 = 0000000000000554 R17 = 0000000000000000
R18 = 000000000000000C R19 = 0000000000000001 R20 = FFFFFFFF83BB0000
R21 = FFFFFFFFDFF7FE000 R22 = FFFFFFFF800D5160 R23 = 000000007FFA1FC0
R24 = 000000007AF2EFD8 R25 = 0000000000000001 R26 = 0000000000032F1C
R27 = 000000007B562E00 R28 = 100000000000001B R29 = 000000007AF2EFA0
SP = 000000007AF2EF90 PC = 0000000000032F1C PS = 100000000000001B
```

9.2.2 raw TCP/IP プリント・ジョブでの遅延およびエラー

LN32, LNM40, mL320, mL401 などを含むいくつかのプリンタで raw TCP/IP 接続を使用していた場合, DCPS がジョブの間で 5 秒から 10 秒程度停止することがありました。遅延が発生する前に, 次のようなエラー・メッセージがたびたび表示されました。

DCPS バージョン 1.8 の情報

9.2 DCPS バージョン 1.8 で解決された問題

%DCPS-W-NOT_READY, Printer is not ready

LN32, LN40, LNC02 などを含むいくつかのプリンタでは、プリンタが省エネルギー・モードの際にジョブを起動した場合、DCPS が次のようなメッセージを表示しました。

%DCPS-W-OFFLINE, Print Engine has gone off line

9.2.3 ANSI GSS シーケンスによるシンビオントのクラッシュの可能性

パラメータ 0 で ANSI GSS エスケープ・シーケンスを使用した場合、ANSI トランスレータがクラッシュし、プリンタ・キューが停止しました。たとえば、次のシーケンスを使用した場合、DCPS がクラッシュし、次のようなエラー・メッセージが表示されました。

```
<CSI><SP>C
```

```
%%%%%%%% OPCOM 3-DEC-1999 11:48:09.85 %%%%%%%%%
Message from user SYSTEM on RT495
Process SYMBIONT_49: %SYSTEM-F-INTDIV, arithmetic trap, integer divide by zero
at PC=FFFFFFFF808A0AE8, PS=0000001B
```

```
%%%%%%%% OPCOM 3-DEC-1999 11:48:09.89 %%%%%%%%%
Message from user QUEUE_MANAGE on RT495
%QMAN-E-SYMDEL, unexpected symbiont process termination
```

```
%%%%%%%% OPCOM 3-DEC-1999 11:48:09.89 %%%%%%%%%
Message from user QUEUE_MANAGE on RT495
-SYSTEM-F-INTDIV, arithmetic trap, integer divide by zero at
PC=0000000000000000, PS=00000000
```

9.2.4 不正にコーディングされたフォントによるフォント一覧の異常終了

LN32, LNM40 を含むいくつかのプリンタのフォント一覧を要求した場合、一覧が表示されないか PostScript エラーが表示されて出力が異常終了しました。これは、プリンタが最後に電源が投入されて以降 DCPS ANSI プリント・ジョブがそのプリンタに出力された場合に発生していました。DCPS で作成される ANSI フォントの問題は解決され、プリンタのコンソールを使用して作成されたフォントを含

む,あるいはフォント情報を必要とするユーザ作成の PostScript プログラムを使用して作成されたフォントを含むフォント一覧は,現在では正常に出力されます。

9.2.5 レイアップの使用およびプリンタ・エラーによるメモリ・リーク

レイアップ・ファイルを使用した場合, DCPS シンビオント・プロセスが徐々にメモリを消費することがありました。これはまた,特定のプリンタ・エラー・メッセージに対してもまれに発生していました。

OpenVMS Alpha V7.1-2 でのメモリ・リークについては,第 6 章を参照してください。

DCPS バージョン 1.7-1 の情報

この節では、DCPS V1.7-1で変更された点について説明します。いくつかの変更点については、本書の別の箇所でも詳細に説明しています。

10.1 DCPS バージョン 1.7-1 の変更点

10.1.1 新しいプリンタのサポート

DCPS V1.7-1 では、次のプリンタのサポートが追加されました。

Compaq Laser Printer LNC02
Compaq Laser Printer LNM40

Compaq Laser Printer LNC02 は DIGITAL Laser Printer LNC02 と同じものです。DCPS ドキュメントで DIGITAL Laser Printer LNC02 についての記述は、Compaq Laser Printer LNC02 にも適用されます。

詳細については、本リリース・ノートの第 7 章を参照してください。

10.1.2 LN32 および LNM40 でのホチキス止めのサポート

DCPS V1.7-1 では、Compaq Laser Printer LN32 および LNM40 のオプション機能であるホチキス止めのサポートが追加されました。DCPS からホチキス止めのオプション機能を使用することについての詳細は、第 8 章を参照してください。

10.1.3 Process Software の TCPware for OpenVMS Software のサポート

DCPS は IP 接続について、DIGITAL TCP/IP Services および Process Software の MultiNet ソフトウェアだけでなく、Process Software の TCPware の使用もサポートするようになりました。TCPware の V5.3 以降がサポートされます。

10.2 DCPS バージョン 1.7-1 で解決された問題

DCPS V1.7-1 では、次の問題が解決されました。

10.2.1 LN32 メールボックス選択によるエラーの発生

Compaq Laser Printer LN32 にシフト排紙が設定されていた場合、メールボックスを出力トレイに選択すると次のようなエラーが発生して、プリント・ジョブが異常終了していました。

```
%DCPS-E-OUTTRAYNOTAVL, No MAILBOX_n tray is installed on printer_name
```

ここで、*n*は選択されたメールボックス・トレイの番号であり、*printer_name*はプリンタ名です。

現在、プリンタのシフト排紙設定に関わらず、DCPS ジョブは任意のメールボックスに送ることができます。

10.2.2 用紙サイズ FOLIO の選択によるエラーの発生

DCPS V1.6 から、用紙サイズ FOLIO を選択すると次のようなエラー・メッセージのいずれかが表示されてジョブが異常終了していました。

```
%DCPS-E-PARSYNERR, Syntax error in the /PARAMETERS qualifier at or near PAGE_SIZE=FOLIO  
%DCPS-E-PARSYNERR, Syntax error in the /PARAMETERS qualifier at or near SHEET_SIZE=FOLIO
```

現在、この問題は解決されています。

DCPS バージョン 1.7 の情報

この節では、DCPS V1.7で変更された点について説明します。いくつかの変更点については、本書の別の箇所でも詳細に説明しています。

11.1 DCPS バージョン 1.7 の変更点

11.1.1 OpenVMS V7.2 および Extended File Specifications のサポート

OpenVMS Alpha V7.2 あるいは OpenVMS VAX V7.2 が稼動しているシステムは、DCPS でサポートされています。DCPS V1.7 は、ODS-5 ボリュームおよび深いディレクトリ構造を含む Extended File Specifications を使用したシステムをサポートします。

ODS-5 ボリューム上の任意のディレクトリ内の任意のファイルをプリンタに出力することができます。ファイル名は、ファイル・セパレータ・ページおよび LIST トランスレータを使用した出力で切り捨てられる場合があります。ファイル名が切り捨てられた場合は、省略記号 (...) によって示されます。

11.1.2 新しいプリンタのサポート

詳細は、本リリース・ノートの第 7 章を参照してください。

11.1.3 BADPARAMS エラーによる TCP/IP ジョブの終了

特定の状況下で、TCP/IP 経由で出力されているジョブが終了して、そのキューが停止し、次のようなメッセージが OPCOM に通知されていました。

DCPS バージョン 1.7 の情報
11.1 DCPS バージョン 1.7 の変更点

```
%%%%%%%%%% OPCOM 25-FEB-1998 17:09:53.38 %%%%%%%%%%%  
Message from user SYSTEM on HUMANE  
Queue LN32_LAB: %DCPS-F-BADPARAM, bad parameter value
```

いくつかの状況下でのこの問題を解決するための変更が、DCPS V1.6-1 で行われました。DCPS V1.7 では、DCPS がプリンタとネットワーク接続しようとしている場合のこの問題を解決するための変更が追加されました。

DCPS バージョン 1.6-1 の情報

この節では、DCPS V1.6-1で変更された点について説明します。いくつかの変更点については、本書の別の箇所でも詳細に説明しています。

12.1 DCPS バージョン 1.6-1 の変更点

12.1.1 ANSI トランスレータへの ISO Latin-9 文字セットの追加

DCPS ANSI トランスレータに ISO Latin-9 (ISO 8859-15) 文字セットのサポートが追加されました。この文字列には Euro 通貨記号が含まれています。

Euro 通貨記号を印刷する 1 つの方法は、次の ANSI エスケープ・シーケンスを ANSI ファイルに含めることです。

<ESC>.b	ISO Latin-9 文字セットの選択
<ESC>n\$	Euro 通貨記号の印刷

ISO Latin-9 文字セットを追加するために、DCPS ANSI トランスレータがアップグレードされました。DCPS の以前のバージョンから V1.6-1 あるいはそれ以上にアップグレードし、ISO Latin-9 文字セットから文字を印刷する場合、DCPS のアップグレード後にプリンタの電源を一度落としてから再度投入する必要があります。これは、一度だけ行う必要があります。

12.1.2 新しいプリンタのサポート

DCPS V1.6-1 では、Compaq Laser Printer LN16 のサポートが追加されました。

詳細は、本リリース・ノートの第 7 章を参照してください。

12.2 DCPS バージョン 1.6-1 で解決された問題

DCPS V1.6-1 では、次の問題が解決されました。

12.2.1 BADPARAMS エラーによる TCP/IP ジョブの終了

特定の状況下で、特にビジー状態あるいは遅いネットワーク上で、TCP/IP 経由で印刷されているジョブが終了して、そのキューが停止し、次のようなメッセージが OPCOM に通知されていました。

```
%%%%%%%%%% OPCOM 25-FEB-1998 17:09:53.38 %%%%%%%%%%%  
Message from user SYSTEM on HUMANE  
Queue LN32_LAB: %DCPS-F-BADPARAM, bad parameter value
```

12.2.2 VFC ファイルの印刷によるアクセス・バイオレーションの発生

DCPS V1.6 から、VFC ファイルを印刷している場合に、次のような OPCOM メッセージを表示して、DCPS プリント・シンピオンが異常終了することがありました。

```
%%%%%%%%%% OPCOM 7-JAN-1999 14:47:04.60 %%%%%%%%%%%  
Message from user SYSTEM on FUNYET  
Process SYMBIONT_90: Message number 0800800C  
Message number 20000000  
-TSU  
-NONAME  
-TSU  
  
%%%%%%%%%% OPCOM 7-JAN-1999 14:47:05.46 %%%%%%%%%%%  
Message from user QUEUE_MANAGE on FUNYET  
%QMAN-E-SYMDEL, unexpected symbiont process termination  
  
%%%%%%%%%% OPCOM 7-JAN-1999 14:47:05.47 %%%%%%%%%%%  
Message from user QUEUE_MANAGE on FUNYET  
-NONAME-F-NOMSG, Message number 0800800C
```

DCPS バージョン 1.6 の情報

13.1 DCPS バージョン 1.6 の変更点

この節では、DCPS V1.6 で変更された点について説明します。いくつかの変更点については、本書の別の箇所でも詳細に説明しています。

13.1.1 サポートされる OpenVMS システム

現在、日本語 DECprint Supervisor for OpenVMS は、日本語 OpenVMS Alpha V6.2, V7.1, V7.2 が稼動しているシステム、および日本語 OpenVMS VAX V5.5-2, V6.2, V7.1, V7.2 が稼動しているシステムでサポートされます。

13.1.2 新しいプリンタのサポート

DCPS V1.6 では、次のプリンタのサポートが追加されました。

DIGITAL Laser Printer LNC02
DIGITAL Laser Printer LN15+ *
OKI MICROLINE 900PSIII LT
OKI MICROLINE 900PSIII
RICOH IPSiO NX700
RICOH IPSiO NX1100

詳細については、本リリース・ノートの第 7 章を参照してください。

* 欧州およびアジア太平洋地域のみで販売されています。

13.1.3 raw TCP/IP のサポート

日本語 DCPS V1.6 から raw TCP/IP 接続がサポートされるようになりました。詳細は第 17.3.1 項を参照してください。

13.1.4 ALL-IN-1 互換キットの廃止

日本語 DCPS V1.6 から ALL-IN-1 互換キットが廃止されました。

13.1.5 新しい用紙サイズ

DCPS は次の表に示す新しい用紙サイズをサポートするようになりました。任意のプリンタの場合は論理 PAGE_SIZE 値に、LNC02 プリンタの場合は物理 SHEET_SIZE 値に、次の 3 つのサイズを指定することができます。

サイズ名	サイズ (mm)	サイズ (インチ)
FOOLSCAP	203 x 330	8.0 x 13.0
SPFOLIO	216 x 315	8.5 x 12.4
UKQUARTO	203 x 254	8.0 x 10.0

13.1.6 用紙サイズの廃止

OKI MICROLINE シリーズでの Executive 用紙サイズのサポートが廃止されました。

13.2 DCPS バージョン 1.6 で解決された問題

DCPS V1.6 では、次の問題が解決されました。

13.2.1 LN40 でのすべてのページのオフセット出力

DIGITAL Laser Printer LN40 プリンタのコンソールでオフセット・スタックを有効にしていた場合、DCPS ジョブはすべてのページを前のページとは異なる位置にシフト出力していました。この問題は解決されましたが、次の制限があります。

- SHEET_COUNT パラメータ値に 1 よりも大きな値を指定した場合、ジョブ・セパレート・ページおよびファイル・セパレート・ページはユーザ・ジョブとは異なる位置にシフト出力されます。さらに、ジョブの各ページのコピーは、前のページのコピーとは異なる位置にシフト出力されます。
- 文書を PC 上で作成した場合、あるいは文書に印刷部数を指定した PostScript コマンドが含まれる場合、期待通りのシフト排紙あるいは部数が得られない可能性があります。たとえば、文書が 1 部だけしか出力されない可能性がありますし、相互に異なる位置にソートされたコピーが出力される可能性がありますし、ジョブのトレーラ・ページを指定した場合、文書の最初の部数の出力後に、トレーラ・ページが出力される可能性があります。

上記の制限を回避するには、PRINT コマンドに SHEET_COUNT パラメータではなく、/COPIES あるいは /JOB_COUNT 修飾子を指定するようにします。また、PC 上で作成した文書の場合は、1 以外のコピー部数を指定しないようにしてください。

13.2.2 CPU 時間を過度に消費する VFC ファイル

DCPS V1.1 以降、VFC 形式のファイルを印刷する場合、同様の非 VFC ファイルを印刷するよりも非常に多くの CPU 時間を消費していました。現在、VFC ファイルの印刷性能が向上されたため、VFC ファイルの印刷にかかる時間は非 VFC ファイルの印刷と同程度となりました。

13.2.3 間違ったディレクトリにインストールされるレイアップ・ファイル

DCPS が稼動していないシステムに DCPS をインストールする場合、DCPS レイアップ・ファイルを置く場所についての問い合わせがあります。省略時の位置以外の場所を選択した場合、DCPS はレイアップ論理名 DCPS\$LAYUP を指定された位置に定義しましたが、レイアップ・ファイルは省略時の位置に置かれていました。現在、DCPS は指定された場所を検証した後、指定された場所にレイアップ・ファイルをインストールします。

13.2.4 LN20 での 13x19 用紙トレイの選択不可

DIGITAL Laser Printer LN20 の 13x19 (Universal) 用紙に印刷する場合、INPUT_TRAY パラメータを指定するとジョブが停止していました。INPUT_TRAY パラメータを指定しないで、PAPER_SIZE パラメータを指定すると正しく印刷されていました。

たとえば、次のコマンドを実行した場合、次のようなエラー・メッセージが表示されました。

```
$ PRINT /PARAMETERS=INPUT_TRAY=MULTIPURPOSE MY-RESUME.PS
```

```
%DCPS-F-UNKPAPSIZE, Unknown papersize in selected tray, cannot print job  
-DCPS-I-JOB_ID, for job MY-RESUME (queue SYS$PRINT, entry 27) on LN20
```

また、次のコマンドを実行した場合、次のようなエラー・メッセージが表示されました。

```
$ PRINT /PARAMETERS=(INPUT_TRAY=MULTIPURPOSE,PAGE_SIZE=13X19) MY-RESUME.PS
```

```
%DCPS-E-SIZNOTRAY, 13x19 size medium is not in the multipurpose tray in LN20.  
-DCPS-I-JOB_ID, for job MY-RESUME (queue SYS$PRINT, entry 29) on LN20  
%DCPS-E-FLUSHING, Rest of Job (to EOJ) will be ignored
```

13.2.5 内部エラーによるシンビオントの中断

特定の条件下 (特に現在印刷中のジョブをユーザが削除した場合など) では、DCPS シンビオントが停止していました。この場合の OPCOM メッセージは次のようなものでした。

```
%%%%%%%%%% OPCOM 22-JAN-1997 15:02:28.11 %%%%%%%%%%%  
Message from user SYSTEM on ZIPPY  
Process SYMBIONT 21: %DCPS-F-INTERNAL_ERROR, Internal error detected  
at line 427 of file DCPS$:[BUILD.V13]DP_STMGT.C;1,  
Invalid state change, cannot continue
```

DCPS バージョン 1.5-2 情報

14.1 DCPS バージョン 1.5-2 で解決された問題

DCPS バージョン 1.5-2 で解決された問題を次に説明します。

14.1.1 出力トレイを指定した場合にジョブが出力されない問題

DCPS バージョン 1.5-1 で OUTPUT_TRAY パラメータを指定した場合、DCPS はジョブを出力しませんでした。さらに NOTIFY 修飾子を指定した場合、次のようなエラー・メッセージが画面に表示されていました。

```
Job MY-FILE (queue MY_QUEUE, entry 330) started on MY_QUEUE
$
%DCPS-I-JOBSTART, Job MY-FILE (queue SYS$PRINT, entry 330) started on MY_QUEUE
$
%DCPS-W-UNDEF, undefined: Name not known - offending command is $
-DCPS-I-JOB_ID, for job MY-FILE (queue SYS$PRINT, entry 330) on MY_QUEUE
$
%DCPS-E-FLUSHING, Rest of Job (to EOJ) will be ignored
-DCPS-I-JOB_ID, for job MY-FILE (queue SYS$PRINT, entry 330) on MY_QUEUE
$
%DCPS-W-UNDEF, undefined: Name not known - offending command is $
-DCPS-I-JOB_ID, for job MY-FILE (queue SYS$PRINT, entry 330) on MY_QUEUE
$
%DCPS-E-FLUSHING, Rest of Job (to EOJ) will be ignored
-DCPS-I-JOB_ID, for job MY-FILE (queue SYS$PRINT, entry 330) on MY_QUEUE
$
Job MY-FILE (queue MY_QUEUE, entry 330) terminated with error status
%SYSTEM-F-ABORT, abort
```

DCPS バージョン 1.5-1 の情報

15.1 DCPS バージョン 1.5-1 のハイライト

DECprint Supervisor バージョン 1.5-1 では、DIGITAL Laser Printer LN20 のサポートが追加されました。

このプリンタについての詳細は、本書の第 5 章を参照してください。

15.2 DCPS バージョン 1.5-1 で解決された問題

この節では DCPS V1.5-1 で解決された問題について説明します。

15.2.1 Colorwriter LSR 2000 のジョブが "Starting" 状態のままとなる問題

DCPS V1.5 で Colorwriter LSR 2000 プリンタに出力しようとする時、ジョブが "Starting" 状態のままとなり出力されないという問題がありました。

15.2.2 LAYUP あるいは NUMBER_UP 使用時に表示されない CONFIDENTIAL

DCPS V1.4 以降で、DCPS サンプル・ファイル CONFIDENTIAL.PS を印刷する際に LAYUP あるいは NUMBER_UP パラメータを指定した場合、"CONFIDENTIAL" という語が印刷されませんでした。

15.3 DCPS バージョン 1.5-1 での変更

この節では DCPS V1.5-1 で変更された点について説明します。

15.3.1 新しい用紙サイズ

DCPS は、12 x 19.5 インチ (864 x 1404 mm) および 13 x 19 インチ (936 x 1368 mm) の用紙サイズをサポートするようになりました。任意のプリンタの場合は論理 PAGE_SIZE 値に、LN20 プリンタの場合は物理 SHEET_SIZE 値に、12X19.5 あるいは 13X19 を指定することができます。LN20 のコンソール表示およびドキュメントの表記では、12X19.5 の用紙サイズが 12X19、13X19 の用紙サイズが Universal となっていることに注意してください。

DCPS バージョン 1.5 の情報

16.1 DCPS バージョン 1.5 のハイライト

DECprint Supervisor バージョン 1.5 では、次のプリンタのサポートが追加されました。*

DIGITAL Laser Printer LN15*
DIGITAL Laser Printer LN17+ps
DIGITAL Laser Printer LN40

このプリンタについての詳細は、本書の第 5 章を参照してください。

16.2 DCPS バージョン 1.5 で解決された問題

この節では DCPS V1.5 で解決された問題について説明します。

16.2.1 ユーザ定義フォントを使用した ANSI ドキュメント出力時の異常終了

ユーザ定義フォントを含む ANSI ドキュメントを出力した場合、プリント・ジョブが異常終了する場合があります。この問題は、DCPS V1.5 で解消されました。

* DIGITAL Laser Printer LN15 は、欧州およびアジア太平洋地域だけで販売されています。

16.3 DCPS バージョン 1.5 での変更点

この節では DCPS V1.5 での変更点について説明します。

16.3.1 DEClaser 3500 のファックス・オプションを使用した ANSI ドキュメントの送信

DEClaser 3500 のファックス・オプションを使用すると、すでにサポートされている PostScript およびテキスト・ファイルだけでなく ANSI ドキュメントをファックス送信することができるようになりました。印字可能な ASCII 文字列だけで構成されたドキュメントは、`SYSSCOMMON:[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]FAX_3500_PRINTME.PS` に記述されている命令に従うテキスト・ファイルとして送信することができます。あるいは、『日本語 DECprint Supervisor for OpenVMS ユーザーズ・ガイド』で説明されている ANSI ドキュメントとして送信することができます。

16.3.2 Cisco MultiNet は現在 Process Software MultiNet となりました

TCP/IP ソフトウェア製品である MultiNet は、Cisco Systems Incorporated から Process Software Corporation に売却されました。DCPS ドキュメントで改訂されているように、Cisco Multinet という記述は Process Software MultiNet に変更されます。

DCPS バージョン 1.4 の情報

17.1 DCPS バージョン 1.4 のハイライト

DECprint Supervisor バージョン 1.4 に含まれる重要な変更点は次のとおりです。詳細については、以降の各節を参照してください。

- raw TCP/IP Socket を経由したプリンタとの通信
- 次のプリンタのサポート
 - Hewlett-Packard LaserJet 4MV
 - Hewlett-Packard LaserJet 5M (モノクロ版)
 - Hewlett-Packard LaserJet 5SiMX
 - Lexmark Optra Rt+
- インストール時におけるアクティブ DCPS キューの自動的な停止および再起動
- IP 接続のための Process Software MultiNet for OpenVMS ソフトウェアのサポート
- ハードコピー・ドキュメントの改訂
- OpenVMS バージョン 6.1 以上でのサポート

17.2 DCPS バージョン 1.4 で解決された問題

この節では、DCPS V1.4 で解決された問題について説明します。

17.2.1 OUTPUT_TRAY を指定しないでソータを使用する場合、1つのピンだけにセパレータ・ページが出力されること

LN17ps の省略時の出力トレイがソータに設定されていて、プリント・ジョブの OUTPUT_TRAY=xxx パラメータを指定しないで SHEET_COUNT=n パラメータを指定した場合、セパレータ・ページ (ジョブのバースト・ページ、フラグ・ページ、トレーラ・ページ) の 1 つのコピーだけが出力されていました。さらに、それらのページはランダムな位置のピンに出力されていました。

17.2.2 "Processing"状態での LN17ps プリンタのハング

LN17ps のソータが省略時の出力トレイに設定され、入力トレイが MANUAL_FEED に指定されていて、1 よりも大きな SHEET_COUNT を指定した場合、プリンタがハングしていました。

このエラーは、トレーラ・ページ出力時に頻繁に発生しました。

また、プリンタがハングする直前にブランク用紙がソータに出力される場合があります。

この問題は、LN17ps プリンタのバグであると同時に DCPS V1.3 のバグでもありました。DCPS V1.4 では、この問題が発生することはありません。

17.2.3 LN17ps での出力の制限

次のような状態の場合に、LN17ps でのプリンタ出力が制限されることがありました。

- INPUT_TRAY 値を FRONT あるいは MULTIPURPOSE のいずれかに指定した場合
- 用紙サイズを指定した場合
- 要求された用紙サイズの印字可能領域が、コンソールで指定したマニュアル・トレイのサイズよりも大きな場合

このような制限を避けるには、INPUT_TRAY=MANUAL_FEED を使用します。

LN17ps の用紙サイズとともに INPUT_TRAY 値を FRONT あるいは MULTIPURPOSE のいずれかに指定した場合、DCPS V1.4 はコンソールで指定したマニュアル・トレイのサイズに用紙サイズを一致させるよう要求するようになりました。

17.2.4 間違った TRAYSUBST メッセージ

次のプリンタの特定の出力トレイを指定した場合に、間違った DCPS-I-TRAYSUBST メッセージが発生する可能性があります。

プリンタ	出力トレイ	通知される出力先
LN17ps	Top	OCT
LN17ps	Upper	OCT
LPS17	LCOS	2
LPS32	LCOS	4
LPS40	LCOS	4

間違った TRAYSUBST メッセージが通知されても、正しいトレイが選択されていました。

17.2.5 PrintServer プリンタの要求された装置制御モジュールが見つからない

DIGITAL PrintServer プリンタに出力された最初のジョブが不正なパラメータを含んでいた場合、"Required device control module LPS\$\$INITPSDEVICE not found"というエラー・メッセージが通知されて、プリント・キューが停止していました。このエラーは、最初に出力されたジョブが不正なパラメータを含んでいる場合にかぎり発生していました。

このエラーは、デスクトップ・プリンタでは発生しませんでした。

17.2.6 DEClaser 5100 についての不正な接続終了エラー

DCPS は NIC カードを介して DEClaser 5100 と通信することができず、常に CONTERMINATED エラーが発生していました。

この問題は、第 17.2.2 項に記述されているように DCPS V1.3 で解決されたものと報告されていましたが、実際は V1.4 で解決されました。

17.2.7 ネットワーク接続が切断された場合に PrintServer プリンタがハングし、ジョブが "Pending" 状態となること

次のようなすべての状態が発生した場合、DCPS プリント・キューがハングしていました。

- DIGITAL PrintServer プリンタで DCPS プリント・ジョブが "Pending" 状態である (すなわち実行中のジョブではない) 場合。
- DCPS と PrintServer プリンタとの接続が TCP/IP である場合。
- PrintServer プリンタとのネットワーク接続が切断された場合。

この問題は、DCPS V1.4 で TCP/IP 接続について KEEPALIVE オプションを有効とすることにより解決されます。ただし、システムが異常に長い KEEPALIVE タイムアウトに設定されている場合、この問題は継続して発生する可能性があります。問題が発生した場合は、ジョブを削除すること (DELETE/ENTRY)、あるいはキューを停止させること (STOP/QUEUE/RESET) により回復できる可能性があります。

17.2.8 大きな制御領域を持つ VFC ファイルの問題

2 バイトよりも大きな固定長制御領域を使用する VFC 形式ファイルを出力した場合、アクセス違反 (ACCVIO) あるいはその他のエラーが発生して DCPS シンピオンが強制終了する可能性があります。

17.2.9 フォームを使用した場合、ANSI テキストが正しく改行されない

/WRAP 修飾子を指定するフォームを使用して ANSI テキストを出力した場合、入力レコードが分割されて、フォームで指定された桁数を超える行として出力されることがありました。

17.3 DCPS バージョン 1.4 の変更点

この節では DCPS V1.4 での変更点を説明します。

17.3.1 raw TCP/IP 接続のサポート

DCPS V1.4 では、raw TCP/IP ソケットを経由してプリンタと通信する機能が追加されました。raw TCP/IP は、TCP データ・ストリームの解析を行うことなく TCP/IP プロトコルを直接使用するネットワーク・プロトコルです。raw TCP/IP は多くのプリンタの NIC (ネットワーク・インタフェース・カード)、プリント・サーバ、ターミナル・サーバでサポートされています。

CPAP (Common Printer Access Protocol)、LPD、Telnet を含む TCP/IP に基づいたその他のプロトコルが存在します。DCPS は CPAP を使用して DIGITAL PrintServer プリンタと通信します。DCPS は LPD および Telnet はサポートしません。

raw TCP/IP を使用してプリンタと通信するには、プリンタをネットワークに接続するために使用している NIC、プリント・サーバ、ターミナル・サーバが raw TCP/IP ポートを持っている必要があります。さらに、その raw TCP/IP ポートがプリンタと OpenVMS システム間の双方向通信をサポートしている必要があります。DCPS は単方向ポートでは動作しません。DEClaser 3500 および 5100 プリンタの NIC、RapidPrint 200、Hewlett-Packard JetDirect プリンタと (MIO スロットではなく) XIO スロットを経由してインタフェースを行う JetDirect カードなどは単方向ポートです。

raw TCP/IP 接続および raw TCP/IP を使用するキューの作成についての詳細は、
『日本語 DECprint Supervisor for OpenVMS システム・マネージャーズ・マニュアル』
および DCPS\$STARTUP.COM のコメント行を参照してください。

17.3.2 "tcpip"接続タイプの "ip_cpap"への置換

DCPS の以前のバージョンでは、TCP/IP を経由した DIGITAL PrintServer プリンタとの通信を指定する場合、DCPS\$STARTUP.COM 内で "tcpip/..."シンタックスを使用していました。

DCPS V1.4 では、"tcpip"シンタックスを置き換える "ip_cpap/..."シンタックスが新しく導入されました。CPAP (Common Printer Access Protocol) は DIGITAL PrintServer プリンタでサポートされるネットワーク・プロトコルであり、プリンタに関連したネットワーク・プロトコルの 1 つです。DCPS は継続して "tcpip/..."シンタックスをサポートしますが、"tcpip/..."シンタックスを使用しないことを推奨します。

17.3.3 インストレーション時のキューの自動的な停止および再起動

DCPS のインストレーションを開始すると、ソフトウェアが既存のキューを検出して、動作中のキューを確認します。動作中のキューとは、停止していないキューのことです (たとえば、アイドル状態、ビジー状態など)。

動作中のキューを検出すると、その名前と状態を表示し、インストレーション・プロシージャでそのキューの自動的な停止および再起動を実行してよいかどうかをユーザに問い合わせます。

インストレーション・プロシージャでキューの自動的な停止を実行させない場合、インストレーションを中断するか、あるいはキューを動作中のままインストレーションを継続するかという選択肢があります。後者の選択肢である、キューを動作中のままインストレーションを継続することは推奨されません。

インストレーション・プロシージャでキューの自動的な停止を選択した場合は、その他のインストレーションに関するすべての問い合わせが終了した後で、キューを停止します。

インストレーションが正常に終了した場合、停止されたキューは IVP の実行後に再起動されます。インストレーション時に割り込みなどによりインストレーションが中断された場合、キューは再起動されません。

17.3.4 Process Software MultiNet for OpenVMS ソフトウェアのサポート

現在 DCPS は、DIGITAL TCP/IP Services for OpenVMS ソフトウェアあるいは Process Software MultiNet for OpenVMS ソフトウェアのいずれかを使用した IP 接続をサポートします。DCPS バージョン 1.3 以前については、DIGITAL TCP/IP Services for OpenVMS ソフトウェアだけをサポートしています。

詳細および特定のバージョンの要件については、『日本語 DECprint Supervisor SPD』を参照してください。

17.3.5 新しい用紙サイズ

DCPS は次の表に示す新しい用紙サイズをサポートするようになりました。任意のプリンタについて、論理 PAGE_SIZE 値に次の新しいサイズを指定することができます。また、次に示す特定のプリンタについては、物理 SHEET_SIZE 値に次の新しいサイズを指定することができます。

サイズ名	サイズ (mm)	サイズ (インチ)	プリンタ
9_ENVELOPE	98.4 x 225.4	3.875 x 8.875	Lexmark Optra Rt+
DOUBLEPOSTCARD	148 x 200	5.827 x 7.874	HP4MV, HP5SiMX
SUPER_B	297 x 432	11.7 x 17	HP4MV, HP5SiMX

17.3.6 すべてのプリンタについての装置制御モジュールの変更

PC および Macintosh で作成されたファイルについての動作の不具合を減少させるために、すべてのプリンタについての装置制御モジュールが変更されました。これは、主に DCPS がプリンタ内の PostScript 辞書を使用する方法についての変更です。ただし、アプリケーションが PostScript の "userdict" 辞書に多くの定義を記述

している場合、装置制御モジュールの変更によりプリント・ジョブに悪影響を与える可能性があります。

識別されないプリンタについての4つの装置制御モジュールも変更されました。弊社で提供しているモジュールの以前のバージョンの装置制御モジュールに変更を加えている場合は、新しいモジュールに対して同様の変更を加える必要があります。詳細については、『日本語 DECprint Supervisor for OpenVMS システム・マネージャーズ・マニュアル』および LPS\$\$UNRECOGNIZED_*内のコメント行を参照してください。

17.3.7 索引編成ファイルおよび相対編成ファイルのサポート

現在 DCPS では、索引編成ファイル、相対編成ファイル、順編成ファイルなどの構成を使用したファイルを出力することが可能となっています。DCPS V1.1 ~ V1.3 では、索引編成ファイルあるいは相対編成ファイルを出力しようとした場合、BADFILEORG エラーが発生していました。

索引編成ファイルあるいは相対編成ファイルは、その主インデックスおよび相対レコード番号によって順次アクセスされます。この新しい機能は TYPE コマンドとも矛盾しません。

注意

多くの場合、索引編成ファイルおよび相対編成ファイルにはバイナリ・データが含まれています。出力不可能なバイナリ・データを含むファイルを出力しようとした場合、予想できない出力結果となります。

17.3.8 ALL-IN-1 互換キットの削除

ALL-IN-1 互換キットおよびそのインストレーションのためのオプションは、OpenVMS VAX システム用の DCPS キットには含まれなくなりました。DCPS の以前のバージョンに含まれていた互換キットによるプリンタのサポートは、現在 ALL-IN-1 製品で提供されています。

互換キットは OpenVMS Alpha システムでは不要です。

17.3.9 DCPS ユーザ・カードの削除

現在 DCPS キットにはハードコピーおよびオンライン形式のいずれのユーザ・カードも含まれていません。DCPS の以前のバージョンをインストールしている場合は、DCPS の例を含むディレクトリにオンライン形式のユーザ・カード (SYSS\$COMMON:[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]DCPS-USER-CARD.PS) が置かれています。カードの情報は完全なものではありませんが、内容的には正しい情報です。

バージョン 1.3/1.3A の情報

18.1 バージョン 1.3/1.3A のハイライト

日本語 DECprint Supervisor V1.3/1.3A での重要な変更点を次に掲げます。これらの変更点については本書で詳しく解説します。

- 新たに以下のサード・パーティ・プリンタがサポートされました。これらのサード・パーティ・プリンタを使用するには、DCPS-Open ライセンスが必要です。
 - EPSON EsperLaser LP-9200PS2
 - OKI MICROLINE 810PSIIV-LT
 - OKI MICROLINE 802PSIIV
 - OKI MICROLINE 803PSIIV
 - OKI MICROLINE 900PSII LT (1.3A で新たに追加)
 - OKI MICROLINE 903PSII (1.3A で新たに追加)
 - RICOH PC Laser NX-500
 - RICOH PC Laser NX-1000
- LAT あるいは AppleTalk インタフェースを使用した弊社高性能ネットワーク・プリンタ LN17ps のサポート。
- AppleTalk インタフェースを使用した弊社 Colorwriter LSR 2000 プリンタのサポート。
- 従来の DCPS のいくつかの問題点の解決。
- 従来のバージョンからの変更点。

18.2 DCPS バージョン 1.3A のインストール

日本語 DECprint Supervisor V1.3A のインストールの手順は次のとおりです。

1. バージョン 1.3A のリリース・ノートをすべて読んで理解してください。
2. 次のコマンドを実行して、DCPS プリント・キューを停止します。

```
$ STOP/QUEUE/NEXT <queue-name>
```

または

```
$ STOP/QUEUE/RESET <queue-name>
```

3. システム・ディスクの SYSSPECIFIC ディレクトリから、すべての DCPS 実行可能ファイルを削除します。
4. DCPS バージョン 1.3A をインストールします。
5. DCPS\$STARTUP.COM 内で論理名 DCPS\$MAX_STREAMS の値を定義します (第 19.4 節を参照)。定義の例はリリース・ノートと DCPS\$STARTUP.TEMPLATE にあります。
6. 可能であれば、Queue Manager Remedial Update をインストールしてください。この時点でインストールできない場合は、近い将来インストールするように計画しておいてください。
7. Queue Manager Remedial Update をインストールした場合は、システムをリブートしてください。それ以外の場合は、DCPS プリント・キューを実行するすべてのノードで論理名 DCPS\$MAX_STREAMS を定義してください。
8. すべてのプリント・キューをスタートさせてください。

18.3 DCPS バージョン 1.3 で解決された問題

DCPS バージョン 1.3 で解決された問題を次に挙げます。

18.3.1 CIDfont をサポートしたプリンタへの出力

CIDfont をサポートしたプリンタへの漢字トランスレータの出力は、次のようなエラー・メッセージにより印字することはできませんでした。

```
%DCPS-W-TYPCHK, typechek: Argument of wrong type - offending  
command is definefont; ErrorInfo: FDepVector -- nostringval --
```

この問題は解決されましたが、JIS カタカナ文字セットの未定義部分はリバース・クエスチョン文字にはならず、他の文字が印字されてしまいます。

18.3.2 不正な LAT デバイスに対応したキューに対するメッセージ

自動的に起動された DCPS キューについて、対応する LTA デバイスが正しく定義されていない場合、次のメッセージが繰り返し表示されました。

```
%DCPS-F-LRJNAMEUNKNOWN, Port name is unknown
```

18.3.3 DEClaser 5100 についての不正な接続終了エラー

DCPS は NIC カードを介して DEClaser 5100 と通信することができず、常に CONTERMINATED エラーが発生していました。

18.3.4 ドキュメントの最後の出力時のキューの停止

まれに、ドキュメントの最後のページの出力時あるいは出力直前に DCPS キューが停止した状態になり、出力を再開できないことがありました。

18.3.5 DCPS のインストレーションで繰り返し発生する %DCL-W-SYMOVF エラー

DCPS インストレーション・プロシージャが既存の DCPS プリント・キューを検出し、システムに名前が同一の論理名 (たとえば SYSS\$PRINT) およびキュー名が含まれていた場合、次のようなエラー・メッセージを繰り返し表示していました。こ

の場合、インストレーションが完了せず、Ctrl/Y を入力して処理を強制終了させる必要がありました。

```
%DCL-W-SYMOVF, no room for symbol definitions - delete some symbols
```

18.3.6 STRTOOLON エラー表示でのシンビオントの停止

すべてのメッセージ・フィールドが disabled の状態でジョブ・コントロールが起動され、ジョブ識別情報を含む -DCPS-I-JOB_ID メッセージを作成しようとした場合、DCPS シンビオントは%STR-F-STRTOOLON メッセージを表示して停止していました。この場合、次のようなメッセージが OPCOM に通知されていました。

```
%%%%%%%%%% OPCOM 21-MAR-1996 20:28:01.70 %%%%%%%%%%%  
Message from user SYSTEM on DANTOO  
Process SYMBIONT_15: %F-STRTOOLON, string is too long (greater than 65535)
```

メッセージ・フィールドの disabled 状態により発生していたシンビオントの停止は、DCPS V1.1 では解決されているものと間違っ認識されていました(第 12.2.5 節)。

18.3.7 オンライン・ヘルプの問題の解決と機能拡張

PRINT_PARAMETERS に関するオンライン・ヘルプのいくつかの問題が解決されました。また、LN17ps および Colorwriter LSR 2000 プリンタに関するオンライン・ヘルプが追加されました。

18.3.8 キューが PAGE_SIZE および SHEET_SIZE パラメータを持つ場合の自動的なサイズの変更

次の状態の場合、現在 DCPS は暗黙に NUMBER_UP=1 であると想定します。

- DCPS-PLUS ライセンスがインストールされている場合。
- キューの PAGE_SIZE および SHEET_SIZE パラメータの省略時の設定値が異なるサイズに設定されている場合。

- PRINT コマンド実行時に次のパラメータを指定しなかった場合。
 - PAGE_SIZE
 - SHEET_SIZE
 - INPUT_TRAY
- キューあるいは PRINT コマンド実行時に NUMBER_UP および LAYUP_DEFINITION が指定されていない場合。

NUMBER_UP=1 では、論理的なページ・サイズを物理的なシート・サイズに適合するようにサイズを変更します。この問題の解決により、コマンド行で NUMBER_UP あるいは LAYUP_DEFINITION を指定しないで PAGE_SIZE および SHEET_SIZE に異なる値を指定した場合と同様の結果となります。

従来の DCPS のバージョンでは、暗黙のサイズの変更はキューのパラメータではなくコマンド行のパラメータに対して想定されていました。従来のバージョンでの対処は、キューのパラメータに明示的に NUMBER_UP=1 を指定することでした。

18.3.9 指定した排紙トレイへのジョブ・ログおよびジョブ・トレーラ・ページの出力

ジョブ・ログおよびジョブ・トレーラ・ページがある場合は、現在 OUTPUT_TRAY パラメータで指定した排紙トレイに通常出力されます。しかし、DCPS が最初に指定された排紙トレイに出力しようとした場合に、NOOUTTRAY、OUTTRAYNOTAVL、OUTTRAYMISMATCH エラーなどが検出されると、ジョブ・ログおよびジョブ・トレーラ・ページは代わりにプリンタの省略時の排紙トレイに出力され、排紙トレイに問題があることを通知します。

従来の DCPS のバージョンでは、非 PrintServer プリンタについてはジョブ・ログおよびジョブ・トレーラ・ページは常にプリンタの省略時の排紙トレイに出力されていました。従来のドキュメントでは、たとえば HP LaserJet 4SiMX プリンタに OUTPUT_TRAY=FACE_UP を指定した場合、トレーラ・ページはフェースアップ排紙トレイには出力されないと記述されていました。この制限はもはやなくなりました。

18.4 DCPS バージョン 1.3A で解決された問題

DCPS バージョン 1.3A で解決された問題を次に挙げます。

18.4.1 B5 用紙サイズ

PAGE_SIZE パラメータに B5 を指定したときに、印字できる桁数や行数が少なくなっていました。

18.4.2 ANSI/KANJI トランスレータのエラー

テキスト・データ中に Load Font File (DECLFF) シーケンスが含まれていた場合、一部の DECLFF により ANSI/KANJI トランスレータ内でエラーが発生し、DCPS シンビオントが停止してしまうことがありました。

18.5 DCPS バージョン 1.3 の変更点

18.5.1 新規 C6 用紙サイズ

DCPS は現在 C6 (326mm x 460mm) 用紙サイズをサポートしています。すべてのプリンタの論理 PAGE_SIZE に C6 を指定することができ、LN17ps プリンタの物理 SHEET_SIZE に C6 を指定することができます。

18.5.2 新規 A3NOBI 用紙サイズ

DCPS は現在 A3NOBI (328mm x 453mm) 用紙サイズをサポートしています。すべてのプリンタの論理 PAGE_SIZE に A3NOBI を指定することができ、EPSON EsperLaser LP-9200PS2 および OKI MICROLINE 803PSIIV、903PSII の物理 SHEET_SIZE に A3NOBI を指定することができます。

18.5.3 UNRECOGNIZED プリンタについてのセットアップ・モジュールの変更

別のプリンタ同様 UNRECOGNIZED プリンタについての 4 つのセットアップ・モジュールが変更されました。従来の弊社提供のセットアップ・モジュールに変更を加えていた場合は、再度変更をやり直す必要があります。詳細については LPSS\$UNRECOGNIZED_*モジュール内のコメント行を参照してください。

18.6 制限事項

以下の節では日本語 DECprint Supervisor V1.3/1.3A の制限事項を記述します。

18.6.1 LIST トランスレータで作成されるグレイ・バーの見やすさ

300x300 dpi より高い解像度のプリンタでは、行を強調表示するために LIST トランスレータにより生成されるグレイ・バーが見にくい場合があります。

18.6.2 EPSON EsperLaser LP-9200PS2 での制限事項

1. A3 ノビ†, GOVT LEGAL, GOVT LETTER 用紙サイズはサポートされません。
2. Ethernet インタフェースを使用しての DCPS から AppleTalk 経由の印刷はサポートされません。

18.6.4 OKI MICROLINE 801PSIIV-LT, 802PSIIV, 803PSIIV での制限事項

1. B4 DIN, B5 DIN 用紙サイズはサポートされません。
2. オプションの Ethernet ボードによる DCPS から AppleTalk 経由の印刷はサポートされません。

† DCPS V1.3 で新たに追加された A3NOBI 用紙サイズは LP-9200PS2 では A3W に相当します。

3. 給紙トレイに A4 用紙を横置きに装着できる 803PSIIV において、A4 用紙を横置きに装着した場合、SHEET_SIZE パラメータには A4L を指定してください。

18.6.4 OKI MICROLINE 900PSII LT, 903PSII での制限事項

1. B4 DIN, B5 DIN 用紙サイズはサポートされません。
2. オプションの Ethernet ボードによる DCPS から AppleTalk 経由の印刷はサポートされません。
3. 給紙トレイに A4 用紙を横置きに装着できる 903PSII において、A4 用紙を横置きに装着した場合、SHEET_SIZE パラメータには A4L を指定してください。
4. プリント・キューにジョブ・セパレータ・ページを対応付ける場合、次のコマンドを使用して次の論理名を定義してください。

```
$ DEFINE/SYSTEM DCPS$queue-name_SEPARATOR_TRAY n
```

このコマンドでは、実行キューの名前 (*queue-name*) と給紙トレイ番号 (*n*: 通常は 1) を指定しなければなりません。この論理名の定義がされていない場合、印刷実行時に INPUT_TRAY=MANUAL_FEED パラメータが指定された場合に次のようなエラーが発生し、印刷できません。

```
%DCPS-W-RANGECHK, rangecheck: Argument out of bounds - offending  
command is setpapertray  
%DCPS-E-FLUSHING, Rest of Job (to EOJ) will be ignored
```

5. 印刷実行時に INPUT_TRAY=MANUAL_FEED パラメータを指定する場合、プリント・ジョブに対してファイル・セパレータ・ページを指定することはできません。次のようなエラーが発生し、印刷できません。

```
%DCPS-W-RANGECHK, rangecheck: Argument out of bounds - offending  
command is setpapertray  
%DCPS-E-FLUSHING, Rest of Job (to EOJ) will be ignored
```

18.6.5 RICOH PC Laser NX-500 での制限事項

1. OT1 用紙サイズはサポートされません。
2. オプションの拡張 RS-232C ボードによる DCPS からの印刷はサポートされません。

18.6.6 RICOH PC Laser NX-1000 での制限事項

ジョブ毎に排紙トレイ上の排紙される位置をシフト出力することはできません。

バージョン 1.2 の情報

19.1 バージョン 1.2 のハイライト

日本語 DECprint Supervisor V1.2 for OpenVMS (以下, DCPS V1.2) での重要な変更点を次に掲げます。これらの内容は V1.3/1.3A にもあてはまります。

- 日本語 DECprint Supervisor V1.2 では, 必要なメモリとページ・ファイルのサイズが少なくなっています。これは, スーパバイザ・プロセスが複数のプリント・キューを制御できるようになったためです (マルチストリーム)。これによりシステムに存在する DCPS スーパバイザ・プロセスの数はより少なくなります。このためメモリとページ・ファイルの消費量も少なくなります。
- 日本語 DECprint Supervisor V1.2 では, アイドル・キューによるプロセッサのオーバーヘッドを軽減しています。これはスーパバイザ・プロセスが複数のプロセスを制御できるためです。このため DCPS スーパバイザ・プロセスの数と, これらにより発生するオーバーヘッドも軽減されます。
- OpenVMS Alpha システムから AppleTalk ネットワーク上のプリンタへの印刷処理をサポートします。
- AppleTalk プリンタ名はアクセント付き 8 ビット文字で指定できるようになりました。
- シリアル接続や LAT 接続のプリンタの制御方法が変更されました。従来の DCPS では, UNIX ホストや LATSYSM からのジョブが誤ってキャンセルされることがありました。新しいシリアル /LAT バックエンドでは, 新しいジョブを開始する前に, プリンタが印刷を終了するのを待ちます。従来のままの動作をさせたい場合には DCPS 論理名を定義することができます。
- 従来バージョンの DCPS ではキューがハングする可能性がありました。これは特に AppleTalk 接続のプリンタで文字] をジョブ名に含んでいる場合に発生しました。この問題は今回のバージョンで解決されています。

- DCPS V1.1 において非常にまれに %DCPS-F-INSEF, insufficient event flag というメッセージを表示して終了することがありました。この問題は今回のバージョンで解決されています。
- スタートアップ・プロシージャのテンプレート, DCPSS\$STARTUP.TEMPLATE がアップデートされました。このテンプレートにより, マルチストリーム・オペレーションを行えるようにプリント・スーパーバイザを構成する例が示されています。
- キット・インストレーション・プロシージャと IVP が強化されました。これによりアップグレード中に予期しない動作を引き起こす可能性のある稼働中の DCPS キューやコンポーネントを監視し, 報告することができます。
- 今回のリリースではこの他にいくつかの障害の修正やマイナー部分の強化が行なわれています。
- 新たに以下のサード・パーティ・プリンタがサポートされました。これらのサード・パーティ・プリンタを使用するには, DCPS-Open ライセンスが必要です。
 - OKI MICROLINE 802 PSII
 - OKI MICROLINE 802 PSII+F

19.2 インストレーションのガイドライン

日本語 DECprint Supervisor V1.2 のインストールの手順は次のとおりです。

詳細は『日本語 DECprint Supervisor for OpenVMS インストレーション・ガイド』を参照してください。

1. 日本語 DECprint Supervisor V1.2 のリリースノートをすべて読んで理解してください。
2. 従来のバージョンの DCPS を使用している場合は, 次のコマンドを実行して, すべての DCPS プリント・キューを停止します。

```
$ STOP/QUEUE/NEXT <queue-name>
```

または

```
$ STOP/QUEUE/RESET <queue-name>
```


3. 従来のバージョンの DCPS を使用している場合は、システム・ディスクの SYSSSPECIFIC ディレクトリから、すべての DCPS 実行可能ファイルを削除します。

```
$ DELETE SYSSSPECIFIC:[SYSEXE]DCPS$.EXE;*
$ DELETE SYSSSPECIFIC:[SYSLIB]DCPS$.EXE;*
$ DELETE SYSSSPECIFIC:[SYSLIB]TRN$.EXE;*
```

4. 日本語 DECprint Supervisor V1.2 を VMSINSTAL プロシージャを利用してインストールします。VMSINSTAL で指定するセーブセット名は DCPSJ012 です。
5. マルチストリーム機能を使用する場合は、DCPSSSTARTUP.COM 内で論理名 DCPSSMAX_STREAMS の値を定義します (第 19.4 節を参照)。定義の例はリリース・ノートと DCPSSSTARTUP.TEMPLATE にあります。
6. もし可能であれば、Queue Manager Remedial Update をインストールしてください。その時点でインストールできない場合は、近い将来インストールするように計画しておいてください。
7. 新たに DCPS をインストールした場合は、DCPSSSTARTUP.COM 内にプリント・キューの設定を記述します。詳細は『日本語 DECprint Supervisor for OpenVMS インストール・ガイド』を参照してください。また、DCPSSSTARTUP.TEMPLATE にも例が示されています。
8. Queue Manager Remedial Update をインストールした場合は、システムをリブートしてください。それ以外の場合は、DCPS プリント・キューを実行するすべてのノードで DCPSSSTARTUP.COM を実行して、プリント・キューをスタートさせてください。

19.3 インストール・プロシージャと IVP の変更

インストール・プロシージャは次のチェックを行うようになりました。

1. 停止していない DCPS プリント・キュー：
クラスタ内のノード上に停止していない DCPS プリント・キューを発見すると、プロシージャはインストールを中止することがあります。DCPS プリント・キューの数と停止していないキューのリストが提示されます。

すべての DCPS プリント・キューは、新しいバージョンの DCPS をインストールするまえに停止しておくことをお奨めします。停止しない場合は次のいくつかの問題が発生する可能性があります。

- IVP 用に作られるキューを含めて、インストール後にスタートしたキューは新バージョンのソフトウェアを使えない可能性があります。特に DCPS がマルチストリーム・シンビオントとして動作している場合には使えなくなります。(第 19.4 節を参照)
 - 現在動作中のキューは新バージョンのコンポーネントのいくつかを使う可能性があります。これらのコンポーネントは旧バージョンと互換性がありません。このため予期しない動作を起す場合があります。
 - インストール後にキューがスタートすると、2つのバージョンの DCPS が実行されることになります。これにより異なったプリント・キューで印刷した際、微妙な相違が生じることがあります。
2. システム・ディスクの SYS\$SPECIFIC ディレクトリにある DCPS 実行可能ファイル：
インストール・プロシージャはシステム・ディスクの SYS\$COMMON ディレクトリに、すべての新ファイルをインストールします。DCPS シンビオント・プロセスが起動するときに、SYS\$SPECIFIC ディレクトリの実行可能ファイルが、SYS\$COMMON ディレクトリのファイルより優先的に使用されます。互換性のない実行可能ファイルを使用すると、プリント・キューがスタートできない等の予期しない動作を起すことがあります。

インストール検証プロシージャ (IVP) も強化されました。これにより、テストされた DCPS のバージョンを正確に報告できます。ただし、次の場合には報告されるバージョンがインストールした DCPS のバージョンと異なることがあります。

- 従来のバージョンの DCP\$SMB.EXE が SYS\$SPECIFIC:[SYSEXE]ディレクトリにある場合。
SYS\$SPECIFIC ディレクトリに他のコンポーネントがあると、それらのファイルが使用されますので注意してください。IVP は、使用した DCP\$SMB.EXE のバージョンしか報告しません。

- IVP と同じノードで稼働している DCPS プリント・キューがある場合。
もし、これらのプリント・キューがマルチストリーム・シンビオント・プロセス (第 19.4 節を参照) 上で実行されている場合、IVP テスト・キューは現在実行中のプロセスのストリーム上でスタートします。さらに、これがスタートすると、実行中のイメージのディスク・コピーがインストール実行中にパージされます。この時、IVP は次のエラーを表示して終了します。

```
%DCPS-F-FILEERR, Error opening processor file for IVP queue:  
-DCPS-F-FILEERR, DKA300$: [SYS0.] [SYSEXE]DCPS$SMB.EXE;15  
-DCPS-F-FILEERR, IVP has failed. See Release Notes for details.
```

ここで掲げた例以外にも、IVP はテストした DCPS のバージョンがインストールした DCPS のバージョンと異なっても、インストールの正常終了を報告します。インストールと IVP の問題は次の点に注意することによって防ぐことができます。

- インストール前にすべての DCPS プリント・キューを停止すること。
- システム・ディスクの SYSSSPECIFIC ディレクトリにあるすべての DCPS ファイルを削除しておくこと。

19.4 マルチストリーム・プロセスとしての DECprint Supervisor

バージョン 1.2 より日本語 DECprint Supervisor プロセスは、マルチストリーム・シンビオント・プロセスとして稼働できるようになりました。マルチストリーム・シンビオント・プロセスとして、1つの DCPS プロセスは複数の DCPS 実行キューを稼働させることができます。新しい DCPS プロセスは DCPS プリント・キューがスタートするたびにスタートするわけではなく、現在あるすべてのプロセスが、サポートできる上限数までキュー (ストリーム) をサポートしている時に限り、新たに新規のプロセスをスタートします。この「1つのプロセスがサポートする上限キュー数」は、論理名 DCPSS\$MAX_STREAMS によってプロセスのスタート時に決められます。

日本語 DECprint Supervisor V1.2 は、1つのシンビオント・プロセスごとに最大 32 個の実行キューをサポートするように設定できます。この論理名を設定しないと、DCPS プロセスはただ 1 つしか実行キューをサポートしません。論理名 DCPS\$MAX_STREAMS によって DCPS シンビオント・プロセスごとにどれだけの実行キューをサポートするのかを指定します。この値を指定するには、DCPS\$STARTUP.COM ファイルの中に次のように記述します (テンプレート・ファイルは DCPS\$STARTUP.TEMPLATE)。次の例で x はサポートすべきキューの数を指定します。

```
$ DEFINE/SYSTEM/EXECUTIVE DCPS$MAX_STREAMS x
```

この DCPS\$STARTUP.COM ファイルを実行し、キューを DCPS マルチストリーム・プロセスとしてスタートしてください。

DCPS プロセスは、対応するすべてのキューが停止したときのみ停止します。

19.4.1 必要メモリの削減とアイドル時の CPU 時間消費の削減

DCPS V1.1 はそれ以前のバージョンに比較してかなり多くの量のメモリを使用していました。多くのキューが同一システム上でスタートした場合、これは重大な問題になる可能性がありました。DCPS V1.2 ではこの問題を、ピーク時の必要メモリ量を減らすことと、マルチストリームで実行できるようにすることで解決しました。

また DCPS V1.1 からは DCPS の様々な機能を実装するために DECthreads を使用しています。DECthreads を使用するプロセスは実行できるスレッドがないか定期的に判断します。ジョブが 1 つも印刷されていない時でも、実行できるスレッドがないかどうかを確かめるため DCPS プロセスは動作します。システム上に多くの DCPS キューが存在する場合は、すべてのプロセスのスケジューリングと定期的な動作が非常に大きく CPU 時間を消費する可能性があります。この問題は、DCPS をマルチストリーム・プロセスとして実行し、稼働させなければならないシンビオント・プロセスの数を削減することによって解決できます。また、DCPS シンビオント・プロセスは定期的に行われるため、メモリからスワップアウトされません。

1つの DCPS シンビオント・プロセスが扱うべきキューの上限数を決める要因には次のようなものがあります。

1. 1つのプロセス当たりが扱うキューの数を増やせば DCPS が専有するプロセス・スロットの数は減少します。これによりプロセス・スロットを多く解放することができます。DCPS シンビオント・プロセスの数を削減することにより、定期的に行う必要がある DECthreads プロセスの数が減り、システム・パフォーマンスを向上させることができます。
2. DCPS は 1 度に 1 つのファイルしか変換 (トランスレート) しません。プロセス中のストリーム (キュー) が、すでに使用中のトランスレータを必要とするようになったとき、そのストリームのトランスレータは分離したテンポラリー・プロセス中でスタートします。このことは、ユーザ・サイトで主に 1 つのトランスレータを集中的に使用する場合や、DCPS のキューが常にビジーになっているような場合には、システムのパフォーマンスに望ましくない影響があります。このような場合には、パフォーマンス低下を防ぐために論理名 DCPS\$MAX_STREAMS に、より小さな数値を設定します。
3. 「1つのプロセスが処理するキュー数」に設定できる最大値は 32 です。これは OpenVMS の制限による上限です。
4. DCPS を 1 プロセスにつき 1 つのキューしかサポートしない (デフォルト値) ように設定した場合にも、日本語 DECprint Supervisor V1.2 のメモリ使用量は日本語 DECprint Supervisor V1.1 より少なくなります。
5. 複数のプリント・キューを実行する日本語 DECprint Supervisor for OpenVMS は、スーパーバイザ・プロセスが障害を起こした際、またはプロセスを明示的に停止させた場合、複数のキューに影響を与えます。

19.4.2 マルチストリーム・プリント・キューの管理

OpenVMS キュー・マネージャはシンビオント・プロセスを作る時期と終了する時期を制御します。一般的に既存のすべての DCPS シンビオント・プロセスに空きストリームがない場合には新しいシンビオント・プロセスが作られます。前述のとおり、各プロセスがサポートする上限ストリーム (キュー) 数は、論理名 DCPS\$MAX_STREAMS によってプロセスのスタート時に決められます。シンビ

オント・プロセスは、そのプロセスがサポートするすべてのプロセスが停止した時に終了します。

ある DCPS シンビオント・プロセスがサポートする一群のキューは、キューがスタートした順序によって決まります。

日本語 DECprint Supervisor V1.2 から、キューのプロセス ID を識別する論理名 (DCPS\$<queue-name>_PID) が定義されるようになりました。この論理名は、特定のプロセスによってサポートされる 1 つまたはそれ以上のキュー決定するために使われます。すなわち、この論理名の値が等しいキューは、同じシンビオント・プロセスで制御されていることとなります。

例:

```
$ SHOW LOG DCPS$*_PID/SYSTEM
"DCPS$NTXJ_PID" = "20201F07"
"DCPS$OKI_PID" = "20201F07"
```

あまりないことですが、同一のプロセスが複数のキューをサポートすることから、同じプロセスがサポートする別のキューの影響で問題が発生することがあります。問題を特定するためには、そのキューだけをチェックしたのでは不十分です。そのプロセスがサポートするすべてのキューを検査しなければなりません。

DCPS キューを停止する場合は、STOP/QUEUE コマンドを使用します。STOP /ID コマンドでシンビオント・プロセスを停止すると、そのプロセスがサポートする他のすべてのキューも停止してしまいます。

19.4.3 Queue Manager Remedial Update

日本語 DECprint Supervisor for OpenVMS をマルチストリーム・プロセスで実行しているユーザ・サイトでは、Queue Manager Remedial Update をインストールしなければなりません。これは次のオペレーティング・システムに対応します。

- OpenVMS VAX V5.5-2
- OpenVMS VAX V6.1
- OpenVMS Alpha V6.1

アップデートの入手については弊社までお問い合わせください。Queue Manager Remedial Update Kit は次のものからなります。

- VAXQMAN8_U2055 for OpenVMS V5.5-2(VAX)
- VAXQMAN02_061 for OpenVMS V6.1(VAX)
- AXPQMAN01_061 for OpenVMS V6.1(Alpha)

本キットには次のイメージが含まれています。

- [SYSEXE]JBC\$JOB_CONTROL.EXE
- [SYSSLDR]MESSAGE_ROUTINES.EXE
- [SYSEXE]PRTSMB.EXE
- [SYSEXE]QMAN\$QUEUE_MANAGER.EXE
- [SYSLIB]SMBSRVSHR.EXE

本アップデートでは、マルチストリーム・シンビオン트가稼動されているとき、START/QUEUE コマンドがある状況でハングする問題を解決しています。添付のリリース・ノートでは、このアップデートで解決されたすべての問題を解説しています。これらの変更を有効にするには、インストール後にシステムをリブートします。

このアップデートをインストールしていないシステムでは次の問題が起こる場合があります。すなわち、マルチストリーム・プロセスで動作中のキューを STOP /QUEUE/RESET <queue-name> のコマンドで停止し、直後に START/QUEUE <queue-name> コマンドでスタートさせた場合、スタート・コマンドはハングする可能性があります。さらに、次の OPCOM メッセージがときおり表示されます。

```
%DCPS-F-STREAMUSE, Request 4 for Stream Id x ignored.  
Not consistant with symbiont state
```

この状態から復帰するには、Ctrl/Y を入力し DCL プロンプトに戻り、再度 STOP /QUEUE/RESET コマンドを入力します。次にキューを再スタートします。この問題を防ぐために、本アップデートをインストールしてください。

19.5 解決された問題

19.5.1 マルチナショナル文字を含んだ AppleTalk プリント名

AppleTalk プリント名がマルチナショナル文字 (例えば, アクセント文字) を含んでいると, DCPS は正しくこれを処理することができず, AppleTalk ネットワーク上からプリンタを捜すことができませんでした。/ON 修飾子に指定する文字は DECMCS 文字セットを使います。これらの文字は AppleTalk ネットワーク上で使用できるように Macintosh 文字セットに変換する必要がありました。バージョン 1.2 ではこの変換が行なわれます。

マルチナショナル文字を使用すると, セパレータ・ページの底部に表示されるプリント名が誤った文字セットで表示されます。

19.5.2 DELETE/ENTRY と (DCc) Circuit connect failure メッセージ

PrintServer に印刷中に (DCc) Circuit connect failure と表示されて印刷要求に反応がなくなる場合があります。これは DELETE/ENTRY コマンドに指定したジョブ番号が 100 かそれ以上の値である場合に起こることがありました。本バージョンと PrintServer Software V5.1 の組み合わせでは, このエラーは起こりません。

19.5.3 多くのリソースがロードされている時の PrintServer への印刷

従来のバージョンでは, PrintServer プリンタに多くのリソース (例えば, フォントやプロログ) がダウンロードされている場合には印刷できませんでした。このエラーは, 本バージョンがインストールされ, かつ PrintServer Software が V5.1 にアップデートされていれば起きません。

19.5.4 シリアル接続でのコミュニケーション問題の処理

従来のバージョンでは, シリアル・デバイスに割り当てられたシステム・リソースが解放されるまでには最大 4 分の遅延時間がありました。これは印刷出力中に STOP/QUEUE/RESET コマンドが発行されて, かつ, このときコミュニケーション障害が起こった場合に発生しました。このような遅延が起こると, 停止後すみや

かに再スタートできませんでした。本バージョンでは、コミュニケーションに問題が発生した場合でも、より素早くシステム・リソースを解放し、かつプリント・キューは停止後すぐに再スタートできます。

19.5.5 ジョブ名に] を含むメッセージの処理

従来のバージョンでは、ジョブ名に] を含むプリンタからのメッセージを正しく処理することができず、無限ループになりました。これは AppleTalk ネットワーク上のプリンタへ印刷する際に注意する必要がありました。本バージョンではこの問題は解決されています。

19.5.6 フォーム・セットアップ・モジュールとマルチ・ファイル・ジョブ

セットアップ・モジュールが PostScript の場合は、フォームの /SETUP 修飾子に指定したモジュールはプリント・ジョブの始めに 1 度だけプリンタに送られます。ジョブが複数のファイルを含んでいる場合、または複数のコピーを指定した場合、このモジュールの内容は、最初のファイルには反映されても、後続のファイルには反映されないことがありました。これは、次のファイルが新しい用紙から印刷されるように、PostScript のオペレータ newsheet をファイルの間に挿入したためです。本バージョンでは、newsheet を実行する前に PostScript コンテキストをいったんセーブし、newsheet を実行したあとでリストアしています。

19.5.7 ビジー・プリンタへのインタラプト

従来のバージョンの DCPS では、シリアル接続のプリンタに出力する場合、プリンタの PostScript インタプリタを制御するため、同期シーケンスを送信していましたが、プリンタがマルチホスト環境で共有されている場合に問題を生じることがありました。DECserver や他のネットワーク・ターミナル・サーバを介して接続されたプリンタは、DCPS キュー、LATSYSM キュー、あるいは UNIX ホストの間で共有されることがありますが、LATSYSM や UNIX ホストからの送信されたジョブは、DCPS のジョブ同期シーケンスによって誤ってキャンセルされることがありました。これは、すべてのページを印刷し終える前に LATSYSM シンビオントまたは UNIX プリント・デーモンがプリンタとの接続を切った場合に起りました。

PostScript プリンタが印刷中またはビジー状態を報告している時にこの動作を防ぐために、デフォルトの同期シーケンスが変更されました。通常的环境中で正常な PostScript ドキュメントを印刷する場合にはこの変更による外面的な変化はありません。

エラーの発生した PostScript ジョブを他のキューからジョブを発行することによってアボートさせるという DCPS の従来の機能を使いたい場合は、次の論理名を定義して旧機能のかわりとすることができます。

```
$ DEFINE/SYSTEM/EXECUTIVE  
_$_ DCPS$<queue-name>_INTERRUPT_WHEN_BUSY "1"
```

19.5.8 DEClaser3500(他) シリアル・ポートへ印刷する際の同期のスタート

論理名 DCPS\$<queue-name>_INTERRUPT_NO_SYMC を定義すると、DCPS シンビオントはシリアル接続プリンタで通常の同期シーケンスを使用しません。これはネットワーク・インタフェース・カード (NIC) での LAT プロトコルを使用するプリンタを含みます。他のプロトコルで接続されたプリンタを使用する場合には、影響はありません。この論理名により、従来バージョンで発生した問題を回避することができます。

次のタイプのプリンタや構成の場合、DCPS を稼動しているホストにはこのキュー論理名を定義することをお奨めします。

- PS/PCL センシング・モードで (NIC でない) シリアル・ポートを持った DEClaser 3500
- HP PostScript レベル 2 カートリッジ付きの Hewlett-Packard IIID

DCPS がシリアル接続のプリンタへジョブを出力する際には、PostScript インタプリタと同期をとってからスタートさせます。これはインタプリタのコマンド受け取りを確実にするためです。しかし、PostScript プリンタには同期制御文字を認識できない状態があるものがあります。特に、HP PCL のような別のプリンタ言語をサポートするプリンタでは、ある状況の場合に正しく反応しない場合があります。例えば、DEClaser3500 が PS/PCL 走査モードにある場合、DCPS が CTRL/T 文字をシリアル・ポートに送った時、誤って PCL モードにスイッチして

しまった場合がこれにあたります。この場合、プリンタは PostScript モードではなくっており反応しないため、プリント・ジョブはスタートしません (ジョブは starting 状態でスタックされます)。

論理名 DCPS\$<queue-name>_INTERRUPT_NO_SYMC は DCPS に、指定したキューの同期シーケンスを行わないように指示します。この機能は、PS/PCL 走査モードになっている DEClaser3500 等のプリンタを DCPS が制御する場合に有効です。

プリント・キューの同期を無効にするには次のコマンドを使用します。

```
$ DEFINE/SYSTEM/EXECUTIVE DCPS$<queue-name>_NO_SYNC "1"
```

同期の手順がない場合でも最近のほとんどのシリアル接続プリンタでは問題は起こりません。これは、これらのプリンタではフロー制御が使われ、インタプリタがデータ受け取りをできない状態ではデータの送出手を止めるからです。しかし、プリンタはちょっとしたミスでミス印刷を行ったりジョブが消えてしまうことがあります。ポー・レート、ストップ・ビット等の通信パラメータが正しく設定されていない場合などにこれらが起ります。構成によりますが、プリンタ・データ・ケーブルが抜けたりプリンタの電源がオフになってもプリンタ・ジョブがなくなる可能性があります。

論理名 NO_SYMC によって、HP 製 PostScript レベル 2 カートリッジ付きの HP モデル IID プリンタへ出力する際の問題は解決されます。これらのカートリッジには既知の問題があり、ホストに送る状態メッセージが壊れていました。これによって、DCPS が同期シーケンスを使用しようとした時、ジョブは starting 状態でスタックされていました。

前述のリストにあるプリンタや同期シーケンスに問題があることがわかっているプリンタ以外には、この論理名を使用しないことをお奨めします。

19.5.9 イベント・フラグ不足

ある状況下では、DCPS V1.1 は次のメッセージを表示して終了します。

```
‡DCPS-F-UNSEF, insufficient event flags
```

この問題は LAT 接続のプリンタに複数のホストが同時に接続しようとしたときに発生します。この問題は本バージョンで解決しました。

19.5.10 ネットワーク接続が切れ、PrintServer 上でジョブが pending のときハング

DCPS プリント・キューは次に示すすべての条件がそろったときハングします (シブイオント・プロセスは終了しません)。

- DCPS プリント・ジョブが PrintServer プリンタ上で pending 状態になっている (すなわち、カレント・ジョブでない) 場合。
- DCPS から PrintServer プリンタへの接続プロトコルが TCP/IP である場合。
- PrintServer プリンタへのネットワーク接続がロストした場合。

復帰するには、ジョブを削除 (DELETE/ENTRY) するか、キューを停止 (STOP /QUEUE/RESET) します。

19.5.11 PCL トランスレータでの両面印刷

本バージョンの PCL トランスレータは、ファイルが両面印刷のエスケープ・シーケンスを含んでいる場合でも、PostScript レベル 2 プリンタで正しく印刷される PostScript コードを生成します。

19.5.12 リモート・コンソールからアポートされたジョブ

日本語 DECprint Supervisor V1.1 で PrintServer プリンタへジョブを出力し、リモート・コンソールからアポートした場合、ジョブは再びキューイングされました。日本語 DECprint Supervisor V1.2 ではこの問題は解決され、ジョブは削除されます。

19.5.13 装置制御モジュール・キャッシュ問題の修正

日本語 DECprint Supervisor V1.1 では、複数の装置制御モジュールが存在し、かつ DCPS\$DEVCTL.TLB がライブラリ検索リストの先頭になく、さらにキャッシュがイネーブルの場合、シンビオントはエラーを出力します。エラー・メッセージには、要求された装置制御モジュールが見つからず、キューを停止したと出力されます。この問題は日本語 DECprint Supervisor V1.2 で解決されました。

19.5.14 DCPS\$EXECUTION_QUEUE.COM での P2 の問題の修正

日本語 DECprint Supervisor V1.1 より DCPS\$EXECUTION_QUEUE.COM に指定するデバイス名としての P2 は、31 文字を越えた場合論理名になります。日本語 DECprint Supervisor V1.2 ではデバイス名は 39 文字までは論理名として扱われません。これは /ON 修飾子に指定できるの最大サイズです。

19.6 その他の変更

日本語 DECprint Supervisor V1.2 はこの他に次のような変更が加えられています。

- OpenVMS Alpha から AppleTalk ネットワーク上のプリンタへの印刷がサポートされました。PATHWORKS for OpenVMS(Macintosh) V1.3 以降の AppleTalk for OpenVMS ネットワークソフトウェアがインストールされている必要があります。
- サンプル・ファイル、[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]PS_SUPPLEMENT.PS が変更されました。PostScript オペレータの findfont の再定義は変更され別のキーワードである FINDFONT と混乱が起らないようにしました。また、PS_SUPPLEMENT.PS が 2 回以上ロードされても findfont オペレータは再定義されなくなり、再帰によって起こる従来の問題は解決しました。
- Network Printer Setup Utility がアップデートされました。キットは SYSS\$COMMON:[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS.NETPRINT]ディレクトリの NETPRX11.ZIP です。新しいバージョンは PATHWORKS for OpenVMS (LAN manager) V5.0A, V5.1 で動作します。このバージョンの Network

Printer Setup Utility は PATHWORKS Unsupported Utilities Kit にも含まれています。

- システム論理名 DCPSS\$DEVCTL_CACHE (キュー名指定なし) を指定して、装置制御ライブラリ・キャッシングをシステムのすべての DCPS 実行キューに対して使用可能に設定できます。これまで通りの DCPSS<queue-name>_DEVCTL_CACHE も使用することができます。
- SYSS\$STARTUP:DCPSS\$STARTUP.TEMPLATE は変更され、DCPSS\$MAX_STREAMS と DCPSS\$DEVCTL_CACHE の設定が追加されました。
- PrintServer17 プリンタでは、/PARAMETER 修飾子のキーワード OUTPUT_TRAY で値 LCOS がサポートされています。
- 日本語 DECprint Supervisor V1.2 から、実行可能コンポーネントはマッチセット (同一バージョン) でなければなりません。もしミスマッチがあると、キューのスタート時にエラーが報告されます。よく起こるエラーの原因は次のようなものです。まず、従来の (つまり互換性のない) バージョンがシステムの SYSS\$SPECIFIC ディレクトリにあり、一方それとは別の、すなわち新しいバージョンのコンポーネントがシステムの SYSS\$COMMON ディレクトリにあるような状態です。起こるエラーはどのコンポーネントのどのバージョンがあるかによって異なります。
- SYSGEN パラメータ MAXBUF で設定された I/O バッファの値が小さすぎるとプリント・キューは停止して OPCOM に次のようなメッセージを表示します。

```
%SYSTEM-E-EXQUOTA, process quota exceeded
```

エラーが発生した場合は SYSGEN パラメータの MAXBUF の値を増やしてください。
- STOP/QUEUE/RESET コマンドや DELETE/ENTRY コマンドの実行時、DCPS はジョブがプリンタ内でキャンセルされたことを確認するために一定の時間待機します。この時間は 2 ~ 4 分です。

19.7 制限事項

以下の節では、日本語 DECprint Supervisor V1.2 の制限事項を記述します。

19.7.1 AppleTalk ネットワーク・ソフトウェアを起動していない場合のエラー

AppleTalk ネットワーク・ソフトウェアが起動するまえに、AppleTalk 接続を使ったキューをスタートさせると、キューがスタートすることがありますが正しく機能しません。これは DCPS がマルチストリーム・シンビオントとして稼動しており、かつ同じプロセスでもう 1 つのプリント・キューが稼動している場合に起ります。AppleTalk を使用する最初のプリント・キューは次のエラーで停止し、キューはスタートしません。

```
%DCPS-W-ATK_FOR_VMS, Error connecting to AppleTalk for VMS driver
```

ただし、さらに別のキューが AppleTalk 接続を使って同じプロセスでスタートしていた場合、エラーは報告されません。これらのキューはスタートしますが、ジョブは "Starting" 状態でキューに止まったままになります。この問題を防止するために、DCPS プリント・キューを起動するまえに AppleTalk ネットワーク・ソフトウェアを起動しておきます。

19.7.2 直結プリンタ

日本語 DECprint Supervisor V1.1 より、キューのスタート時に実行される機能は、接続形態に関わらず同一のものになるように変更されました。特にキューのスタート時にはプリンタへの接続は行われなくなりました。これはキューがスタートしない可能性を最小限にするためです。システムがブート中にキューがスタートした場合、エラーや遅延が起こってはならないため、このことは特に重要です。この変更は、主にシステムに直接接続されたプリンタの場合に影響があります (TTAn または TXAn 装置)。従来の DCPS のバージョンではキューの起動時に直接接続のプリンタに接続を試み、プリンタの電源が入っているか確認することができました。現在ではプリンタと接続の状態はジョブが印刷されるまでわかりません。

19.7.3 プリンタ名が正しく印刷されない場合

PostScript の printername の値にマルチナショナル文字が含まれている場合、セパレータ・ページの底部に印刷されるプリンタ名は誤った文字セットで表示されず。

19.7.4 ページ・サイズ名と DCPS 用語

次の表は業界標準のページサイズ/用紙サイズの名称と、DCPS で使用される用語との対応関係です。業界標準の名称を PRINT コマンドで指定することもできますが、トレーラ・ページには DCPS の用語で指定された用紙サイズの名称が印刷されません。

業界標準	DCPS用語
Com10	Business_envelope
Monarch	7_envelope
Statement	Halfletter

19.7.5 A4 用紙にランドスケープ・モードで印刷する場合

日本語 DECprint Supervisor V1.2 以前の ANSI トランスレータは A4 用紙へのランドスケープ・モードで 66 行出力する場合に問題がありました。サポートされているプリンタのなかには A4 用紙への印刷可能領域が平均的な印刷領域より少し狭くなっているものがあります。これらのプリンタでは、66 行目の内容が失われてしまうか、切れてしまいました。これはプリント・パラメータが PAGE_SIZE=A4, PAGE_ORIENTATION=LANDSCAPE のときに発生します。

日本語 DECprint Supervisor V1.2 に添付される ANSI トランスレータは A4 用紙へのランドスケープ・モードでの印刷で 66 行目も正しく出力できます。これを行うために ANSI トランスレータは使用するフォント (SGR 15) の縦方向のスペーシングを変更し、A4 用紙の最大印刷可能領域の値を修正しました。従来のトランスレータの出力結果の方を使いたい場合、DCPS キュー論理名を次の例のように定義します。

```
$ DEFINE/SYSTEM DCPS$<queue-name>_OLD_ANSI_PAGE_SIZES TRUE
```

なお、漢字 ANSI トランスレータでは、この修正は行なわれていません。もし、漢字トランスレータ使用時に、66 行目が正常に印刷されない場合は、FULL_A4_LANDSCAPE のレイアウト定義ファイルを使用して印刷してください。

19.7.6 OKI MICROLINE 802 PSII シリーズでの制限事項

1. サポートされない用紙サイズ
B4 DIN , B5 DIN , C4 はサポートされません。
2. EtherTalk ボード・オプションの使用
オプションの EtherTalk ボードによる , DCPS から AppleTalk 経由の印刷はできません。
3. 一部のアプリケーションで文字の部分が正しく出力されない事があります。この問題を避けるためにキューの設定を行う時 , /SETUP 修飾子に DCPS\$SETUP_OKI 装置制御モジュールを指定してください。オプションのハードディスクを使用する場合でも DCPS\$USERSTART.PS ファイルは使用せず , キューの設定によって回避してください。プリンタが起動しなくなる恐れがあります。

バージョン 1.1 の情報

20.1 新しい機能

この章では、日本語 DECprint Supervisor V1.1 for OpenVMS (以下、DCPS V1.1) の新機能や制限事項について記述しますが、これらの内容は V1.2 および V1.3/1.3A にもあてはまります。

20.1.1 新しい相互接続と新しいデバイス指定文法

本バージョンから、AppleTalk 経由でのデスクトップ・プリンタへの印刷と、TCP/IP を使用した弊社の PrintServer プリンタへの印刷のサポートが追加されました。

注意

デバイスを指定する構文では、デバイスの名前が 39 文字を越えてもかまいません。39 文字以上のデバイス名は、/ON 修飾子の値に対して DCPS\$ として表示されます。

実際のデバイス名は、以下の形式で論理名に格納されます。

```
DCPS$<queue-name>_DEVICE_NAME
```

20.1.2 新しい論理名 DCPS\$<queue-name>_IGNORE_UNKNOWN_USER

クラスタの環境で DCPS を使用していて、UAF ファイルが各クラスタのメンバー間で異なっているとき、以下のような OPCOM メッセージが出力されて、印刷は正常に終了することがあります。

バージョン 1.1 の情報

20.1 新しい機能

```
%%%%%%%% OPCOM 1-JAN-1994 18:43:55.87 %%%%%%%%%
Message from user SYSTEM on LITERA
Queue SHARIE: %DCPS-W-USERNOTFOUND, user name FOO not found, no log files created
-RMS-E-RNF, record not found
```

しかし、ユーザ名が見つからないため、シンビオントは、`messages=keep` や `messages=print` の要求を処理することができません。

この OPCOM メッセージを保存するには、`DCPS$<queue-name>_IGNORE_UNKNOWN_USER` の論理名を `TRUE` にしてください。

20.1.3 ANSI プロローグ・ファイル

新しい ANSI プロローグ・ファイルが、新しい ANSI トランスレータの一部として含まれており、別々のファイルとしても使用可能です。ファイルは、`SYSS$COMMON:[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]LPS_ANSI_PROLOGUE.PS` にあります。このプロローグは、従来の ANSI トランスレータと互換性があります。

PostScript プリンタは、1つのバージョンの ANSI プロローグしか持つことができません。パフォーマンスの問題を最小限にとどめるために、DCPS V1.1 ソフトウェアをインストールした後、PrintServer でないプリンタは電源を入れ直し、DCPS ソフトウェアが新しいプロローグをロードするようにさせます。

PrintServer プリンタの場合は、サポーターティング・ホスト・システムの ANSI トランスレータ・プロローグをアップデートするために、次のコマンドを入力します。

```
$ @SYS$COMMON:[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]UPDATE-ANSI-PROLOGUE.COM
```

この後、PrintServer を再ブートしてください。

このコマンド・プロシージャは、DCPS ソフトウェアがサポーターティング・ホスト・システムにインストールされていることを仮定しています。また、すべての PrintServer がアップデートされます。

注意

漢字テキスト・トランスレータのプロローグ・ファイルは、変更されていません。通常、漢字環境で使用されている場合、この操作は必要ありません。

20.2 DCPS ソフトウェアの解決された一般的な問題

この節では、DCPS V1.0 がリリースされてから解決された問題を示します。

20.2.1 セパレータ・トレイ論理名

以前は、論理名 `DCPS$<queue-name>_SEPARATOR_TRAY` は汎用キュー (ジェネリック・キュー) にしか指定できませんでした。V1.1 では実行キューでも同じように指定できます。

20.2.2 NOPAGEREGIONOP および NOSETPAGEDEVICE メッセージ

これらのマニュアルにないメッセージは、表示されなくなりました。

20.2.3 VFC フォーマット・ファイルの印刷

8C キャリッジ・コントロールを持つ VFC ファイルが、正しく印刷できるようになりました。

RELATIVE または INDEXED 構成の VFC フォーマット・ファイルの印刷はサポートされていません。DCPS V1.1 はこの状態を検出し、エラー・メッセージを返します。

20.2.4 最大が 999999 になった PAGE_LIMIT

いままでのスタート・ページまたはエンド・ページの最大は 9999 でしたが、999999 に変更されました。

20.2.5 すべてのメッセージ・フィールドが Disabled になったときのアボート

DCPS では、以下のコマンドによりすべてのメッセージが出ない状態でジョブ・コントローラをスタートしても、%STR-F-STRTOOLON メッセージを出して終了することはありません。

```
§ SET MESSAGE/NOTEXT/NOFACILITY/NOIDENT/NOSEVERITY
```

20.2.6 アクセント付き大文字アルファベットの位置の下がり

いくつかのタイプのプリンタで、まわりの文字より低い位置に印刷される強調された大文字のある ANSI データ・タイプのエラーは解決されました。

20.2.7 ライブラリ検索リスト

DCPS V1.0 では、SYSSLIBRARY 論理名が検索リストとして定義されると、システム固有のライブラリ・ディレクトリにある、装置制御ライブラリを見つけることができませんでした。

DCPS V1.1 はこの問題を解決しています。本ソフトウェアは、指定された装置制御ライブラリに対する SYSSLIBRARY 論理名の、すべてのディレクトリ要素を正しく検索します。

20.2.8 空のセットアップ・モジュールによるハング

空のセットアップ・モジュールをロードするように構成されていると、DCPS V1.0 のキューはストールし、ソフトウェアは無限ループでハングしました。DCPS V1.1 ではこの問題はありません。

20.2.9 AUTOMATIC データ・タイプでのテキストのフォーマット

DCPS V1.1 では、データ・タイプが AUTOMATIC で、省略時のテキスト・トランスレータが ANSI/KANJI/KANJI78/LA_KANJI の場合、フォームや/SPACE、/HEADER 修飾子でファイル中のテキスト部分のフォーマットが可能になりました。

20.2.10 /COPIES 修飾子と PAGE_LIMIT

/PARAMETERS=PAGE_LIMIT 修飾子と /COPIES 修飾子を一緒に指定して、複数のファイルをひとつのジョブで印刷したときの問題は解決されました。以前は、指定された PAGE_LIMIT よりもページ数の少ないファイルがあると、DCPS はハングすることがありました。現在では、そのようなジョブも正しく印刷できます。

20.2.11 .IMG ファイル拡張子

.IMG ファイル拡張子は、自動データ・タイプ検出に使用される DCPSS\$FILE_EXTENSION_DATA_TYPE.DAT_DEFAULT ファイルから削除されました。.IMG ファイル拡張子は、以前は ANSI ファイルとして定義されていました。そのシステム固有の DCPSS\$FILE_EXTENSION_DATA_TYPE.DAT ファイルを作成している場合は、合わせて変更してください。

20.2.12 レイアアップでの PostScript コマンドの扱いの訂正

レイアアップ機能での idtransform と setpagedevice PostScript コマンドの扱いが修正されました。

20.2.13 OKI MICROLINE 800PSIILT プリンタ

DCPS V1.0 で、OKI MICROLINE 800PSIILT プリンタに印刷すると、OPCOM に Unrecognized printer のメッセージが出力されましたが、本バージョンで修正されました。

20.3 サポートするプリンタに関する修正

20.3.1 日本語 PrintServer 17/600 に認識される LCIT キーワード

INPUT_TRAY=LCIT パラメータは、日本語 PrintServer 17/600 プリンタの大容量給紙トレイを選択するために使用できます。

20.3.2 日本語 PrintServer 17/600 での OUTPUT_TRAY=SIDE

OUTPUT_TRAY=SIDE は現在、すべての PrintServer ファミリに対して下段トレイを選択します。

20.3.3 Apple および HP プリンタの手差し給紙時の遅延

Hewlett-Packard LaserJet III, IID および IIISi と、サポートされる Apple LaserWriter プリンタの手差し給紙スロットへ給紙するときに遅延を発生させるコードが修正されました。

20.3.4 デフォルト・クリッピング・パス

『Digital PostScript Printers Programmer's Supplement』の Appendix C, C.6 および Appendix D, D.6 で、PostScript 印刷ジョブの初期状態のクリッピング・パスは用紙のサイズと同じ大きさであると記述していますが、実際には用紙の内側に収まる大きさに設定されています。LN82R では用紙の周囲から約 5mm ~ 7mm 内側に設定されています。また、日本語 turbo PrintServer, 日本語 PrintServer 32 プリンタのレター・サイズに対するクリッピング・パスは、日本語 PrintServer 40 シリーズ・プリンタでのレター・サイズのクリッピング・パスよりも幅が約 1mm 程狭くなっています。

20.4 制限事項

この節では、V1.1 の制限事項を記述します。

20.4.1 半角英数字フォント

Ryumin-Light.Roman および GothicBBB-Medium.Roman などの日本語フォントには、JIS ローマ字セット以外の文字は含まれていません。このため、装置制御ライブラリ、DCPS\$DEVCTL.TLB にある拡張された findfont オペレータを用いて、これらのフォントに対して ISOLatin1 および DEC マルチナショナル文字セットを使用することはできません。

20.4.2 キュー・スタート時の装置制御ライブラリ

キューをスタートするときには、そのキューで使用されるすべての装置制御ライブラリが存在しなくてはなりません。たとえば、以下のようにライブラリの検索リストが定義されている場合、

```
$ DEFINE/SYSTEM/EXEC DCPS_LIB DCPS$DEVCTL, "ANSI/DATA=ANSI", "PS/DATA=PS"
```

SY\$LIBRARY のディレクトリに、DCPS\$DEVCTL.TLB、ANSI.TLB、PS.TLB のライブラリが存在しなくてはなりません。

20.4.3 DCPS V1.0 ソフトウェアとの互換性

DCPS V1.1 で提供される構成要素の大部分は、従来のバージョンで提供されたものと互換性がありません。ひとつのホストにはひとつのバージョンの DCPS しかインストールできません。

20.4.4 DEC Image Print-PLUS (ICPS) との互換性

DCPS V1.1 は ICPS V1.x ソフトウェアとは共存できません。DCPS V1.1 はこのソフトウェアを置き換えます。DCPS V1.1 をインストールすると、イメージ・ファイル `SYSS$LIBRARY:TRN$DDIF_IMAGE.EXE` が置き換えられます。この新しいイメージは ICPS ソフトウェアと互換性がありません。

20.4.5 DECimage Application Services for VMS V3.1

DDIF のイメージ・ファイルを印刷するためには、DECimage Application Services for VMS V3.1 が必要です。

20.4.6 他社製 PostScript ドライバと NUMBER_UP パラメータの互換性

LaserWriter 8.0 または 8.1.1 や、Adobe 社の 2.1.1 の Windows ドライバ、WindowsNT V3.1 の PostScript ドライバを使用して生成された PostScript ファイルを、NUMBER_UP パラメータに 2 以上の値を指定して印刷すると、正常に印刷されないことがあります。PostScript エラーになるか、ページがクリップされたり、ページ・スポットの外に印刷されたり、不適切にスケールされることがあります。

20.4.7 新しい LIST データ・タイプ

- a. LIST データ・タイプは、テキストから PostScript への新しいトランスレータです。LIST トランスレータは ANSI トランスレータではありません。漢字のプレーン・テキストを印刷可能な形式に変換します。ANSI PPL3、HP-PCL、またはよく使用されるその他のプロトコルにより定義されるエスケープ・シーケンスは変換しません。ANSI PPL3 データおよび制御シーケンスの変換を必要とするジョブの印刷には、引き続き、漢字または ANSI データ・タイプを使用してください。
- b. LIST トランスレータが 3 行おきに印刷するグレイ・バーは、以下のプリンタでは非常に薄いか、または現われません。

Apple LaserWriter IIg

- c. 改頁コードの次の改行コードは無視されます。
- d. 改頁コードを複数続けて指定しても、1 ページのみの改頁となります。

20.4.8 /HEADER 機能と/FORM 機能および/SPACE 機能

ファイルのデータ・タイプが ANSI/KANJI/KANJI78/LA_KANJI の場合には、印刷機能として /HEADER と /FORM および /SPACE を使用できます。データ・タイプがこれらのうちの一つであることが認識されるのは、次のような場合です。

- DATA_TYPE パラメータとして ANSI/KANJI/KANJI78/LA_KANJI が PRINT コマンドに指定されているか、またはキューの省略時の設定として定義されている場合。
- ファイル拡張子マッピング・ファイルによって、印刷ファイルのデータ・タイプが ANSI/KANJI/KANJI78/LA_KANJI となる場合。

また、次のような場合には、データ・タイプが ANSI となります。

- ファイルの先頭に ANSI と解釈されるコード・シーケンスが付いている場合 (特に、<esc>c<esc>)。

ここに示した規則に従って、データ・タイプが ANSI/KANJI/KANJI78/LA_KANJI であると認識されない場合には、/HEADER と /FORM および /SPACE は無視されます。

20.4.9 埋め込まれた PJI コマンドの除去：バイナリ・モードの回避

DEClaser 5100 や HP LaserJet 4 ファミリのよう、PJI プリンタのためのファイルを作成するドライバは、Hewlett-Packard Printer Job Language (PJI) のプリンタ制御コマンドを含んでいます。DCPS はこのデータを除去します。つまり、これらのドライバで選択されたプリンタ・オプションは、印刷ジョブに影響を与えません。

これらのドライバを使用するときは、バイナリ・モードを選択しないでください。バイナリ・モードを選択すると、ファイルにコマンドが追加され、それを DCPS で印刷するときに不正な動作を起こす可能性があります。

20.4.10 ネイティブ PCL とシリアル接続

DCPS V1.1 がネイティブ PCL モードをサポートしているプリンタで、シリアル接続を使用する場合は、XON/XOFF のかわりにハードウェア・フロー・コントロールを使用しなければなりません。ネイティブ PCL データは 8 ビット・バイナリ・データを含んでいる可能性があり、それがソフトウェア XON/XOFF フロー・コントロールを妨げます。

ハードウェア (DTR) ハンドシェーク・フロー・コントロールを有効にするには、プリンタのマニュアルとターミナル・サーバのマニュアルを参照してください。

20.4.11 ジョブ・トレーラ・ページのシフト出力

ジョブを分離するジョブのシフト出力が有効であるとき、ジョブ本体とそのトレーラ・ページの間にはシフト出力を行うプリンタがあります。これは、そのプリンタがトレーラ・ページをひとつのジョブとして扱うためです。

この動作を起こすことがわかっているプリンタは以下のものです。

HP LaserJet IIISi
HP LaserJet 4SiMX

20.4.12 OUTPUT=FACE_UP で違うトレイに排紙される (HP LaserJet 4SiMX)

/PARAMETERS=OUTPUT=FACE_UP を Hewlett-Packard LaserJet 4SiMX で指定すると、トレーラ・ページは上段トレイに排紙されます。

20.4.13 DEClaser 1152 に AppleTalk で接続しているときのジョブの削除

DEClaser 1152 プリンタに印刷しているジョブを削除した場合、次のジョブの印刷時にプリンタがハングすることがあります。これは、以下の状態のときに起こります。

- DEClaser 1152 の AppleTalk(LocalTalk) のポートを使用している場合。

- ジョブを削除したときに、プリンタのバッファに多くのデータが残っていて、プリンタがジョブが削除された後もしばらく印刷を続ける場合。
- 前のジョブの印刷が完了していないうちに、次のジョブが開始される場合。

次のジョブは印刷されず、キューに printing の状態で残り、最終的にはキューがストールします。この問題は、プリンタが Idle 状態になる前に、AppleTalk の接続を受け付けてしまうために発生するものです。このジョブは、一度削除して、もう一度発行する必要がありますが、削除するときにしばらく時間がかかります。

20.4.14 Apple LaserWriter Plus の LPS\$PERSISTENT_RESOURCES

Apple LaserWriter Plus プリンタでは、LPS\$PERSISTENT_RESOURCES モジュールのロード機能をサポートしません。

20.4.15 エラー後の Unreliable Communication

LaserWriter Pro 600, LaserWriter Pro 630, LaserWriter IIg および LaserWriter IIx の AppleTalk ポートを使用して印刷するときは、Unreliable communication が認められることがあります。この問題は PostScript インタプリタが PostScript エラーなどのエラー状態を検出したときに起こります。エラーが起きると PostScript インタプリタは FLUSHING, Rest of Job (to EOJ) will be ignored と報告するか、または手差しトレイへの給紙を待つ間に時間切れエラーとなります。このとき、以下のような動作が生じることがあります。

- 2 つめの PostScript エラーまたは時間切れエラー
- プリンタでの予想外の通信の欠落の検出
- (指定された) ジョブ・トレーラ・ページが印刷されない
- アカウント・ファイルのページ・カウントの値が不正確
- ジョブが終了する前に 1 分以上かかる

失敗したジョブが完了すると、続くジョブが正しく印刷されるため、システム・オペレータの操作は必要ありません。

20.4.16 HP XL300 のコミュニケーションの問題

HP XL300 に印刷するファイルに複数のユーザ・データが含まれる場合、一部のメッセージが失われたり正しく戻って来ない場合があります。また、まれに DCPS が必要なメッセージが正しく受けとれず、/NOTIFY 修飾子を指定しているときには、不正確なメッセージがターミナルに表示されることがあります。

20.4.17 PrintServer に接続できないときの STOP/QUEUE/RESET コマンドの禁止

PrintServer のキューに Starting 状態のジョブが残っていて、その PrintServer の電源が入っていなかったり、ブート中などで、PrintServer に接続することができないときに、STOP/QUEUE/RESET コマンドを実行すると、キューはストップしますが、まれにシンビオント・プロセスが終了しないことがあります。PrintServer が使用可能になるまでは、このコマンドは実行しないでください。

20.4.18 /COPIES 修飾子を指定した PostScript ファイルの印刷

PostScript ファイルを、/COPIES 修飾子で 2 以上の値を指定して印刷したときに、DCPS はプリンタの仮想メモリ (VM) を使い果たしてしまうことを避けるために、それぞれのファイルを PostScript の save と restore 命令で囲んでプリンタに送ります。

しかし、このとき invalid restore のエラー・メッセージで、ジョブが終了してしまうことが、まれに起きます。このようなときは、/COPIES 修飾子の代わりに /JOB_COUNT 修飾子を使用してください。

20.4.19 USERDATA とストリング・ターミネータ

以下の PostScript プログラムを出力したとき、USERDATA としての文字ストリングがログ・メッセージとして記録されないことがあります。

(文字ストリング) print flush

この場合、文字ストリングの後ろに改行文字を付け加えると、ログ・メッセージとして記録されるようになります。

20.4.20 AppleTalk 使用時のジョブの削除

AppleTalk を使用して印刷するときは、ジョブの削除要求 (DELETE/ENTRY) はプリンタへの接続を閉じることで完了します。AppleTalk プロトコルは、PostScript インタプリタを中断することはありません。つまりプリンタは、ジョブの印刷を中止する前にバッファにあったページ内容の印刷を続けます。ジョブ・トレイ・ページは印刷されません。

またプリンタがバッファに残ったページの内容を処理中に次のジョブを発行すると、そのジョブがエラーになることがあります。

20.4.21 ネイティブ PCL のプリント・パラメータに関する制限事項

次の DCPS プリント・パラメータは、DCPS V1.1 がネイティブ PCL 機能を使用するプリンタでの PCL ファイルの印刷には影響しません。

INPUT_TRAY
OUTPUT_TRAY
SHEET_SIZE
PAGE_SIZE
SIDES
PAGE_ORIENTATION

これらの場合、プリンタの省略時の設定が有効になります。適切な PCL エスケープ・シーケンスを印刷するファイルやセットアップ・モジュールに含めることで、PCL プリンタのトレイを選択してください。

かわりに、ホスト上で強制的に PostScript プログラムへ変換することにより、これらのパラメータをジョブに対して有効にすることができます。強制的に変換するためには、NUMBER_UP や LAYUP_DEFINITION などの機能を使用するか、PAGE_SIZE と SHEET_SIZE パラメータを一緒に指定してください。

20.4.22 ネイティブ PCL ジョブでの不正なページ・カウント (HP LaserJet IIISi)

Hewlett-Packard LaserJet IIISi プリンタは、ネイティブ PCL ファイルを印刷する間、ページ・カウントの更新をしません。ジョブの最後に、トレーラ・ページ上と OpenVMS アカウンティング・システムの両方へ報告されるページ・カウントは、ジョブ・セパレーション・ページのように PostScript モードで印刷されたページのみを含みます。この問題に対する回避策は現在ありません。

20.4.23 両面印刷ジョブでの不正なページ・カウント (HP LaserJet プリンタ)

Hewlett-Packard LaserJet IID, IIISi, 4SiMX プリンタでは、物理的な用紙を内部的にカウントしませんが、かわりにイメージとしてのページをカウントします。つまり、トレーラ・ページの Sheets printed のデータは、処理されたイメージの数を反映します。たとえば、バースト・ページとトレーラ・ページが有効で /PARAMETERS=(SIDES=2) を指定した 6 ページの印刷ジョブは、用紙 5 枚にししか印刷されなくても Sheets printed は 8 となります。

20.4.24 LN82R プリンタ用のレイアッパ定義

LN82R プリンタの印字可能領域は、用紙の周囲から約 5mm ~ 7mm (用紙のサイズによって異なります) 内側までです。このため、用紙の外縁に印刷される文字や図形はクリッピングされることがあります。

PrintServer の印字可能領域は LN82R より広いため、PrintServer では表示できていた文字や図形が、LN82R ではクリッピングされて見えなくなったり欠けたりすることがあります。これを避けるために、DCPSS\$STARTUP.COM では、LN82R に対するキューの設定として、レイアッパ定義 LPSS\$PRINTERMARGIN を使用することをお勧めします。これにより、ページが自動的に LN82R の印字可能領域に収まるように縮小されます。

また、LN82R 以外のプリンタでも、同様に用紙の外縁の文字や図形がクリッピングされることがあります。この場合もプリンタに対するキューの設定で、LPSS\$PRINTERMARGIN を使用してください。

ただし、これらの設定を実行キューに対して行くと、そのプリンタのすべてのジョブに対して有効となってしまいます。特定のデータ・タイプのジョブにだけ有効としたい場合は、ジェネリック・キューに対してレイアウト定義を行ってください。

20.4.25 LaserWriter II NTX-J および MICROLINE PS シリーズの文字化け

LaserWriterII NTX-J および MICROLINE PS シリーズで、PostScript ファイルを印刷する場合、弊社の一部のアプリケーションのファイルで文字の部分が正しく出力されないことがあります。この問題を避けるため、PostScript プリンタ設定 (Usr/Start) 用 PostScript ファイル `SYSSCOMMON:[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]DCPS$USERSTART.PS` を印刷することにより、ハードディスク上の Usr/Start ファイルを変更した後、プリンタの電源を入れ直してください。

注意

DCPS\$USERSTART.PS を、サポート外のプリンタに送信した場合の動作は保証できません。プリンタによってはその後起動しなくなりますのでご注意ください。

また、ハードディスクのない OKI MICROLINE シリーズで印刷する場合は、/SETUP 修飾子に `DCPS$SETUP_OKI` 装置制御モジュールを指定してください。

20.4.26 MICROLINE 800/801 PS シリーズでの封筒やハガキへの印刷

1. PRINT コマンドでの指定

PRINT コマンドでは、INPUT_TRAY パラメータで TOP または ENVELOPE_FEEDER を指定することにより、トレイ 1 を選択してください。

2. セパレータ・ページ

MICROLINE の封筒カセットやハガキ・カセットは、必ずトレイ 1 で使用されますが、ジョブ・セパレータ・ページは操作パネルで選択されたトレイの用紙を使用します。プリンタの操作パネルでは、トレイ 2 を選択してください。

また、ファイル・セパレータ・ページは印刷ファイルと同じトレイの用紙を使用します。封筒やハガキへ印刷する場合は、ファイル・セパレータ・ページを出力する修飾子を、PRINT コマンドで指定しないでください。

20.4.27 Dataproducts LZR1560 プリンタの用紙サイズ

LZR1560 プリンタの folio 用紙はサポートされません。

20.4.28 LN82R での印刷

20.4.28.1 LN82R の欧文フォント

LN82R プリンタには、欧文フォントは 13 種しかありません。このため、以下のフォントを利用している PostScript ファイルは印刷結果が異なります。なお、印刷結果の改善のため SETUP モジュール LPS\$DECFONT_FALLBACK が、提供されています。

AvantGarde-Book
AvantGarde-BookOblique
AvantGarde-Demi
AvantGarde-DemiOblique

LubalinGraph-Book
LubalinGraph-BookOblique
LubalinGraph-Demi
LubalinGraph-DemiOblique

NewCenturySchlbk-Roman
NewCenturySchlbk-Italic
NewCenturySchlbk-Bold
NewCenturySchlbk-BoldItalic

Souvenir-Light
Souvenir-LightItalic
Souvenir-Demi
Souvenir-DemiItalic

LPS\$DECFONT_FALLBACK モジュールでは、欧文フォントを以下のように置き換えることで印刷結果をより本来の結果に近いものにします。

AvantGarde ファミリ	Helvetica ファミリ
LubalinGraph ファミリ	Helvetica ファミリ
NewCenturySchlbk ファミリ	Times-Roman ファミリ
Souvenir ファミリ	Times-Roman ファミリ

このモジュールを指定しない場合、持っていない欧文フォントは Courier に置き換えられますが、この処理が頻繁に起こると Fatal disk error; reinitialize font cashe というエラーでプリンタが停止します。プリント・キューのジョブを削除し、プリンタの電源を入れ直して LPS\$DECFONT_FALLBACK を指定して再度印刷することで、この現象を回避できます。

上記の PostScript フォントを LN82R プリンタにダウンロードすることができますが、現時点では、弊社からこのためのフォント・キットは販売されていません。

20.4.28.2 LN82R の product スtring

LN82R の product スtring は Luna0.3PS ですが、デフォルトの printername は LN82R です。

20.4.28.3 LN82R の解像度

LN82R は 400dpi (ドット/インチ) のプリンタです。漢字 LN03/LN05 や弊社の他の PostScript プリンタは 300dpi/600dpi なので、それらのプリンタに印刷していたビットマップ・イメージを LN82R に印刷した場合、見映えが異なります。場合によっては縞模様が生じることがあります。

20.4.28.4 LN82R の黒い縞模様

LN82R に対して、用紙の印字可能範囲を越える位置に文字を出力しようとした場合、黒い縞模様がページ横方向に現れることがあります。

20.4.29 テキスト・トランスレータ

1. フォーム定義

漢字 LN05 の標準設定では、フォーム・データ用のメモリは 16 ページあわせて 64 K バイトとなっています。この値は、グラフィック・オプションなどの使用で増やすことができます。トランスレータによるフォーム・オーバーレイでは、1 ページあたり 64 K バイトまでのフォーム・データを登録することができます。1 ページあたり 64 K バイトを越えるフォーム・データを登録しようとすると、DECLKF シーケンスそのものが無効になります。PRINT コマンドでマルチファイル指定をした場合、あるファイル内で登録したフォーム・データを他のファイルで使用することはできません。複数のファイルで共通のフォームを使用したい場合は、フォーム・データをセットアップ・モジュールとして登録し、そのモジュールを PRINT コマンドの /SETUP 修飾子で指定してください。

2. 複数ファイルの印刷

複数ファイルを 1 つのプリント・ジョブで印刷する場合、各ファイルの先頭で初期設定が行われます。このため、あるファイルの中で行った設定を、次のファイルで利用することはできません。このようなときは、セットアップ・モジュールに必要なエスケープ・シーケンスを登録しておくことにより、各ファイルの初期状態を制御することができます。

3. LN82R での外字と斜体 (イタリック) 属性の混在

LN82R に印刷されるファイルに外字が含まれ、かつイタリック属性が漢字に対して指定されると、PostScript の FATAL エラーになる場合があります。この場合、プリント・キューを停止し、キューからジョブを削除し、プリンタの電源を入れ直してください。

4. テキスト・トランスレータの性能

テキスト・トランスレータで日本語文書を印刷する場合、必ずしもプリンタ・ハードウェアの最高速度では印刷できません。白黒反転や網かけ、倍角文字、縦書き、外字があるとき、および 1 バイト文字と 2 バイト文字が頻繁に交互に現われるような場合には、印刷速度はさらに遅くなります。

5. テキスト・トランスレータの外字と内蔵フォント

日本語 PostScript プリンタの内蔵漢字フォントは、PostScript のアウトライン・フォントです。外字は日本語 VMS の FEDIT ユーティリティ、または CHARACTER_MANAGER ユーティリティで作成することができますが、このフォントは、40 ドット×40 ドットまたは 32 ドット×32 ドットのビットマ

ップ・フォントです。したがって、外字の倍角文字は内蔵フォントの倍角文字に比べて、印字品質が劣ります (ギザギザが見えます)。

6. 罫線文字

テキスト・トランスレータで使用している罫線文字は、文字間隔/行間隔が文字サイズに比べてかなり大きいときにはつながりません。

また、この罫線は PostScript フォントを使用して表示しているため、表示される位置やサイズによっては装置上で 1 ピクセル程度のずれを生じることがあり、結果として、罫線が一直線にならない場合があります。

7. SIXEL と文字の重ね合わせ

SIXEL とテキストを座標指定 (VPA, HPA など) で位置を指定して、同じページ上で重ね合わせるとき、印刷可能領域上端付近 (通常トップ・マージンの位置) の座標を指定した場合、結果として表示される文字や SIXEL の縦方向 (Y 座標) の位置が LN03/漢字 LN03 とテキスト・トランスレータでは異なります。SIXEL では、どちらも通常は SIXEL の上端の座標が、指定された Y 座標から 70 ピクセル上になるように表示しますが、LN03/漢字 LN03 では、この表示方法を取ったときに SIXEL が印刷可能領域上端を超える場合には、SIXEL の上端の座標が、印刷可能領域上端になるように位置を下げて表示します。このため、印刷可能領域上端付近の座標を指定して文字と SIXEL を重ねた場合に、LN03/漢字 LN03 とテキスト・トランスレータの出力を比べると、LN03/漢字 LN03 の SIXEL はテキスト・トランスレータよりもやや下にずれます。印刷可能領域上端から離れた位置を指定した場合には、両者に違いは見られません。

8. テキスト・トランスレータのプロローグ処理

テキスト・トランスレータは、印刷ジョブの開始時に、大量の PostScript プロローグ処理 (初期設定) を行います。この処理は印刷ジョブの内容によらず常に同じなので、初めからプリンタに常駐させておけば、ジョブの最初の 1 ページが出力されるまでの時間を短縮することができます。デフォルトでは、プロローグを常駐させることにしていますが、このことはテキスト・トランスレータ以外の印刷ジョブにとっては、利用できる PostScript VM (Virtual Memory) が減少していることを意味します。弊社では、PostScript アプリケーションが VM を 400KB 以上使わないようにお勧めしますが、もしもこの制限を守っていないソフトウェアがあると、PrintServer プリンタでは VM が足りないとい

うエラーで実行できなくなる場合があります。PrintServer プリンタとシリアル・プリンタではプロローグを常駐させる処理が異なります。

- 日本語 DEC PrintServer サポート・ホスト・ソフトウェア V4.2 または日本語 PrintServer Software V5.0, V5.1 を使用している場合

このサポート・ホスト・ソフトウェアを使ってブートされた PrintServer では、DCPS と互換性のあるプロローグが常駐しているので、特別に処理をする必要はありません。また、このサポート・ホストでは、プロローグは必ず常駐していなければなりません。

- PostScript シリアル・プリンタの場合

PostScript シリアル・プリンタでは、プリンタの電源投入後の最初のプリント・ジョブで、プロローグが常駐しているかどうかをチェックし、していなければダウンロードします。この時、PostScript パスワードがプリンタ出荷時の設定になっていない場合 (LN82R では 0 でない場合)、プロローグは常駐されません。つまり、PostScript パスワードをデフォルト以外の値に設定することによって、常駐をやめることができます。

9. PostScript フォント UniqueID

テキスト・トランスレータでは、使用する PostScript フォントに対して、UniqueID を指定しています。3658490 から 4194312 の UniqueID は他の PostScript アプリケーションでは使用しないでください。

10. 半角ローマ字フォントの制限

PrintServer では、内蔵 PostScript フォントの Ryumin-Light.Roman および GothicBBB-Medium.Roman の半角ローマ字フォントは、JIS ローマ字以外の文字セットをサポートしません。このため、テキスト・トランスレータでは明朝体半角ローマ字フォントを PostScript Courier フォントで代用しています。

ゴシック体半角ローマ字は PostScript の半角ローマ字を使用しているため、JIS ローマ字または ASCII 文字セット以外の文字セットを指定した場合、存在しない文字は空白 (スペース) 文字で置き換えられます。

11. SETUP モジュールでの印刷

ANSI(ASCII), KANJI, KANJI78 または LA_KANJI データ・タイプの SETUP モジュールを作成し、その中で文字を印刷することができますが、この文字を PRINT コマンドで指定したファイルの先頭ページに印刷することはできません。SETUP モジュールの中で印刷した場合には、PRINT コマンドのファイルを印刷する前に改ページが行われます。ANSI(ASCII), KANJI, KANJI78 または LA_KANJI データ・タイプで SETUP モジュールを作成し、その中でフォント・ローディング命令またはピッチ指定命令を使用したときには、空白(スペース)文字を含む実際の文字の印刷を SETUP モジュールの中で行うことはできません。

12. DECVFPS とマージン

可変ページ・フォーマット選択命令 (DECVFPS) でページ・オリエンテーションを変更する場合、オリエンテーション変更後のページ・マージン(上下マージン、左右マージン)も同時に指定してください。

マージンを新たに指定しない場合、従来のマージンの値が採用され、シートの外にマージンが設定された状態になることがあります。

13. DECVERP, DECSEORP のパラメータ Ps=0

漢字 LN05 とテキスト・トランスレータの 8 ポイント・フォントの高さは、それぞれ 768 centipoint と 922 centipoint として定義されています。このため、フォントの高さをもとに位置を制御する命令を使うと、出力結果が異なってしまいます。これを避けるため、行ピッチの指定は SPI など明示的に行うようにしてください。また、8 ポイント・フォントを使っていないファイルでも GSM (文字サイズ指定命令) の後に、DECVERP, DECSEORP のパラメータで 0 を指定すると、漢字 LN05 とテキスト・トランスレータで行ピッチ/文字ピッチの違いが生じることがあります。この場合も SPI などで行ピッチ/文字ピッチを明示的に指定する事により、同様に互換性を保つことができます。

14. A4 ページ・サイズでの文字ピッチ

A4 ページ・サイズに対して、デフォルト状態での文字属性指定命令 (SGR) で、Ps=10 または 11 によりフォント指定後、文字ピッチ指定命令 (DECSEORP) の Ps=0 を指定した時の文字ピッチは、10cpi でなく 10.3cpi となります。

15. SS2 と SS3

SS2 または SS3 に続いてコントロール・コードがあった時の処理が、LN05 などと異なる場合があります。SS2 または SS3 は、対象となる文字コードの直前に入れるようにしてください。

16. SUB

SUB コードが漢字コードの 1/2 バイト間に割り込んだ場合の処理が、LN05 などと異なります。LN05 では SUB コードを漢字の 2 バイト目とみなして全角のリバース・クエスションを出力しますが、テキスト・トランスレータは SUB コードを先に処理するため、漢字は正常に出力されます。

17. DEC DUTCH と DEC FRENCH

DEC DUTCH 文字セットの 4/0 と 7/11 および DEC FRENCH 文字セットの 7/14 は、マニュアルの記述と違う文字が出力されます。

18. PLD と PLU

下線、上線、二重下線は、PLD、PLU を行っても移動しません。

19. 垂直タブ

VT によって次の垂直タブ位置まで移動する場合、行間隔が狭すぎるとさらに次の垂直タブ位置まで移動することがあります。このときには、行間隔をひろげるか、または今より小さいフォントを使うことにより、所要のタブ位置に移動することができます。

20. DECVERP と垂直タブ位置

DECVERP (行ピッチ選択命令) を行った場合、垂直タブはホーム・ポジションを基準とした位置にすべて再設定されます。このため、最初の VT による垂直方向の移動量は、現在の位置によって変化しますが、次の VT からは DECVERP によって設定された行ピッチと等しくなります。

21. DECDHLT と DECDWL の組み合わせ

LA_KANJI データ・タイプで、DECDHLT (行拡大命令・4 倍角) がすでに有効となっている行で DECDWL (行拡大命令・横倍角) を指定した場合、DECDWL は無視されます。同じ行のなかで行拡大命令を組み合わせることは避けてください。

22. DECSTBM と DECVERP

LA_KANJI データ・タイプでは、DECSTBM (上下マージン設定命令) で設定されたマージンは DECVERP (行ピッチ選択命令) ではクリアされません。この場合、DECSTBM によってマージンを再設定してください。

23. SHS と DEC SHORP または GSM と DEC SHORP

SHS (水平ピッチ選択命令) と DEC SHORP (水平ピッチ選択命令) の組み合わせ、または GSM (文字サイズ指定命令) と DEC SHORP の組み合わせで、水平タブ位置が LN05 などと合わないことがあります。この場合、水平タブのかわりにスペースを使うことにより、同じ出力を得ることができます。

24. JFY

JFY (行揃え) をオフに設定した行は、その 1 行すべてが行揃えされなくなります。

25. DECVERP と DEC SLPP

DECVERP (行ピッチ選択命令) によって行ピッチが指定されていた場合、DEC SLPP (用紙長設定命令) で設定した行数より 1 行早く改ページする場合があります。このときには、行間隔をひろげるか、または今より小さいフォントを使うことにより、指定した行数で改ページするようになります。

26. DECVERP による縦倍角のクリア

LA_KANJI データ・タイプでは、GSM(文字サイズ変更命令) による縦倍角指定は、DECVERP (行ピッチ選択命令) によって解除されます。

27. ファイルの先頭にある改ページまたは改行 + 改ページ

テキスト・ファイルの先頭が、改ページ・コードまたは改行 + 改ページで始まる場合、漢字 LN03 に比べて余分な白紙が 1 枚多く出力されることがあります。このようなときは、先頭の不要な改ページ・コードを取り除くか、またはファイル・フォーマットを stream_LF に変更することにより、漢字 LN03 と同様な動きになります。

28. DEClaser2400 (漢字 LN10) との違い

DEClaser 2400 で提供されている以下の機能は、テキスト・トランスレータでは利用できません。

- ・ 漢字アウトライン・フォント・オプションによる、フォントのスケーリング

29. 文字属性

文字属性にアンダーライン，二重アンダーライン，抹消ライン，反転，または網かけが設定されている場合，文字ピッチの設定およびそのときに使用される文字フォントの組み合わせによっては漢字と英数字との間で文字属性に 1 ピクセル程度のずれを生じることがあります。

テキスト・トランスレータと他のプリンタとの上記以外の機能の違いは，「日本語トランスレータ リファレンス・マニュアル」を参照してください。

20.5 DCPS に関するその他の情報

この節では，DCPS 製品に関する一般的な情報で，他のドキュメントに含まれないもの，または差し換えとなるものを示しています。

20.5.1 カラー・セパレータ・ページと日本語 PrintServer 17/600 給紙トレイ切り替えの相互作用

日本語 PrintServer Software V5.0, V5.1 では，日本語 PrintServer 17/600 プリンタに給紙トレイの自動切り替え機能を提供しています。これにより，現在の給紙トレイが空になったとき，プリンタは同じサイズの用紙が入っている別の給紙トレイに，自動的に切り替えます。この機能は省略時設定で有効です。

現在色つきの紙のフラグ・ページを使用している場合，この給紙トレイ切り替え機能を無効にできます。以下のステップを実行してください。

1. LPS\$SUPPORT:LPSDEFAULTS.*printer-name* を編集する
2. /TraySwitch パラメータを検索する

```
/TraySwitch true                % Controls input tray failover.  
                                % false = disable  
                                % true = enable
```

3. /TraySwitch パラメータの値を，「true」から「false」へ変更する。必ず小文字で「true」か「false」と記述してください。

```
/TraySwitch false                % Controls input tray failover.  
                                % false = disable  
                                % true = enable
```

4. 新しい値を有効にするために、日本語 PrintServer 17/600 プリンタを再構成またはリポートする

詳しくは『DEC PrintServer Supporting Host Software for OpenVMS Management Guide』を参照してください。

20.5.2 DEClaser 5100 のエラー・ページ機能

DEClaser 5100 プリンタは、プリンタ内で PostScript インタプリタのエラーが起きたときに、現在印刷中の用紙を排出し、詳しい PostScript エラー情報を印刷する機能を持っています。

この機能は、PostScript の問題を分析するために有効な手段を提供しますが、以下のような理由により、DCPS ソフトウェアでの日常的な使用にはお勧めできません。

- PostScript エラー・ページは、ユーザが DELETE/ENTRY コマンドを入力してプリント・ジョブを中断したかどうかにかかわらず印刷される
- プリンタが印刷可能な状態でない間に、シリアル・ポート上でジョブが登録されると、印刷可能でない状態が解消 (用紙切れ、紙詰まりなどの解消、他) されたあとで、PostScript エラー・ページが印刷される

DCPS でプリント・キューをスタートする前に、DEClaser 5100 のフロント・パネルで Print Errors 機能を無効にしてください。この機能は、PostScript の問題を分析したいときだけ有効に設定してください。

20.5.3 自動認識機能のあるプリンタ

DEClaser 5100 や HP LaserJet 4siMX などのプリンタは、プリント・ジョブのデータ・タイプを認識する機能を持っています。そのようなプリンタは、接続チャンネルごとに、自動認識機能を有効にするかどうか、フロント・パネルで設定することができます。

バージョン 1.1 の情報
20.5 DCPS に関するその他の情報

この機能を提供するほとんどのプリンタで、プリンタが PostScript モードか、または Automatic モードに設定されているときは、DCPS ソフトウェアは適切に動作します。DCPS キューをスタートする前にどちらかのモードで動作するように、プリンタを設定しなければなりません。プリンタが PCL モードに設定されていると、DCPS ソフトウェアは適切に動作しません。

raw TCP/IP ポート番号

raw TCP/IP プロトコルを使用して DCPS キューを設定する場合は、使用している NIC (ネットワーク・インタフェース・カード)、プリント・サーバ、ターミナル・サーバのいずれかのドキュメントを参照して、その raw TCP/IP ポートの番号を決定してください。

表 A-1 に、一般的に使用されるデバイスのポート番号を示します。

表 A-1 raw TCP/IP ポート番号

20nn	DECserver ターミナル・サーバ ("nn"は物理ポート番号)
2501	DIGITAL LN17ps および DIGITAL Laser Printer LN17+ps Emulex NIC
3001	DIGITAL Laser Printer LN15 および LN15+ RapidPrint 500 プrint・サーバ
6869	DIGITAL Laser Printer LN20, LN40, LNC02
9100	Compaq Laser Printer LN16, LN32, LNM40 GENICOM LN および microLaser プリンタ GENICOM RapidPrint 1000 プrint・サーバ Hewlett-Packard JetDirect, XCD, Lexmark NIC OKI MICROLINE 1032PS, 2020N, 2030N, 3010c, 3020c

B

Alpha システムにインストールされるファイル

日本語 OpenVMS Alpha オペレーティング・システムの場合には、以下のファイルがインストールされます。

DCPSJ018.RELEASE_NOTES	[SYSHLP]
DCPS\$HELP.HLP	[SYSHLP]
DCPS\$SMBSHR.EXE	[SYSLIB]
DCPS\$SMB.EXE	[SYSEXE]
DCPS\$MSG.EXE	[SYSMMSG]
DCPS\$TRNPRC.EXE	[SYSLIB]
DCPS\$BE_SERIAL.EXE	[SYSLIB]
DCPS\$BE_CPAP.EXE	[SYSLIB]
DCPS\$BE_APPLETALK.EXE	[SYSLIB]
TRN\$DDIF_PS.EXE	[SYSLIB]
TRN\$DDIF_IMAGE.EXE	[SYSLIB]
TRN\$ANSI_PS.EXE	[SYSLIB]
TRN\$PROPRINTER_PS.EXE	[SYSLIB]
TRN\$PCL_PS.EXE	[SYSLIB]
TRN\$LIST_PS.EXE	[SYSLIB]
TRN\$REGIS_PS.EXE	[SYSLIB]
TRN\$TEK4014_PS.EXE	[SYSLIB]
DCPS\$DEVCTL.TLB	[SYSLIB]
DCPS\$STARTUP.TEMPLATE	[SYS\$STARTUP]
DCPS\$REQUIRED.COM	[SYS\$STARTUP]
DCPS\$EXECUTION_QUEUE.COM	[SYS\$STARTUP]
DCPS\$GENERIC_QUEUE.COM	[SYS\$STARTUP]
DCPS\$IVP.COM	[SYSTEST]
DCPS\$IVP_ANSI.DAT	[SYSTEST.DCPS]
DCPS\$IVP_POST.DAT	[SYSTEST.DCPS]
DCPS\$IVP_PCL.DAT	[SYSTEST.DCPS]
DCPS\$IVP_PROPRINTER.DAT	[SYSTEST.DCPS]
DCPS\$IVP_LIST.DAT	[SYSTEST.DCPS]
DCPS\$IVP_REGIS.DAT	[SYSTEST.DCPS]
DCPS\$IVP_TEK4014.DAT	[SYSTEST.DCPS]
LPS\$SINGLEHOLES.LUP	DCPS\$LAYUP:

Alpha システムにインストールされるファイル

LPS\$DOUBLEHOLES.LUP	DCPS\$LAYUP:
LPS\$HOLES.LUP	DCPS\$LAYUP:
LPS\$NUP.LUP	DCPS\$LAYUP:
COLOR-PRINTER-FULL-PAGE.LUP	DCPS\$LAYUP:
COLORWRITER-2000-FULL-PAGE.LUP	DCPS\$LAYUP:
PROPRINTER-FULL-PAGE.LUP	DCPS\$LAYUP:
FULL-A4-LANDSCAPE.LUP	DCPS\$LAYUP:
CPS_TO_DCPS_STARTUP.COM	[SYS\$STARTUP]
LPS_ANSI_PROLOGUE.PS	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
UPDATE-ANSI-PROLOGUE.COM	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
FONT_DOWNLOADER.COM	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
LPS\$SET_PRINTER_NAME.PS	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
LPS\$SET_TIMEOUT.PS	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
DCW1000_CONFIG.PS	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
DCW1000_DEVPARAM.PS	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
DCW1000_STARTPG.PS	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
DCW1000_NOSTRTPG.PS	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
DCW1000_PRNTCNFG.PS	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
DCW1000_PSCRIPT.PS	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
FAX_3500_PRINTME.PS	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
DL3500_SEND_FAX_PS.PS	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
DL3500_SEND_FAX_PS_SENDDPS.PS	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
DL3500_SEND_FAX_TEXT.PS	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
DL3500_SEND_FAX_TEXT_SENDDPS.PS	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
DCPS\$FILE_EXTENSION_DATA_TYPE.DAT_DEFAULT	[SYSLIB]
UNSOLICITED-PJL-FIX.COM	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
IGNORE-A-SIZE.PS	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
DCPS\$COMMON-PORT-SETTINGS.COM	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
DCPS\$CONFIG-PRINTER-PORT.COM	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
DCPS\$DS100-PORT-SETTINGS.COM	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
DCPS\$DS200-PORT-SETTINGS.COM	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
DCPS\$DS500-PORT-SETTINGS.COM	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
DCPS\$GET-DS100-PORT-GROUPS.COM	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
DCPS\$SET-DS-GROUPS.COM	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
DCPS\$SET-DS100-GROUPS.COM	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
DCPS\$SAVE-DS500-PORT.COM	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
LPS\$STATUSDICT.PS	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
CONFIDENTIAL.PS	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
INSTALL-PS-SUPPLEMENT.COM	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
PS_SUPPLEMENT.PS	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
NETPRX11.ZIP	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS.NETPRINT]
README.TXT	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS.NETPRINT]
UNZIP50.EXE	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS.NETPRINT]

C

VAX システムにインストールされるファイル

日本語 OpenVMS VAX オペレーティング・システムの場合には、以下のファイルがインストールされます。

DCPSJ018.RELEASE_NOTES	[SYSHLP]
DCPS\$HELP.HLP	[SYSHLP]
DCPS\$SMBSHR.EXE	[SYSLIB]
DCPS\$SMB.EXE	[SYSEXE]
DCPS\$MSG.EXE	[SYMSG]
DCPS\$TRNPRC.EXE	[SYSLIB]
DCPS\$BE_SERIAL.EXE	[SYSLIB]
DCPS\$BE_CPAP.EXE	[SYSLIB]
DCPS\$BE_APPLETALK.EXE	[SYSLIB]
TRN\$DDIF_PS.EXE	[SYSLIB]
TRN\$DDIF_IMAGE.EXE	[SYSLIB]
TRN\$ANSI_PS.EXE	[SYSLIB]
TRN\$PROPRINTER_PS.EXE	[SYSLIB]
TRN\$PCL_PS.EXE	[SYSLIB]
TRN\$LIST_PS.EXE	[SYSLIB]
TRN\$REGIS_PS.EXE	[SYSLIB]
TRN\$TEK4014_PS.EXE	[SYSLIB]
DCPS\$DEVCTL.TLB	[SYSLIB]
DCPS\$STARTUP.TEMPLATE	[SYS\$STARTUP]
DCPS\$REQUIRED.COM	[SYS\$STARTUP]
DCPS\$EXECUTION_QUEUE.COM	[SYS\$STARTUP]
DCPS\$GENERIC_QUEUE.COM	[SYS\$STARTUP]
DCPS\$IVP.COM	[SYSTEST]
DCPS\$IVP_ANSI.DAT	[SYSTEST.DCPS]
DCPS\$IVP_POST.DAT	[SYSTEST.DCPS]
DCPS\$IVP_PCL.DAT	[SYSTEST.DCPS]
DCPS\$IVP_PROPRINTER.DAT	[SYSTEST.DCPS]
DCPS\$IVP_LIST.DAT	[SYSTEST.DCPS]
DCPS\$IVP_REGIS.DAT	[SYSTEST.DCPS]
DCPS\$IVP_TEK4014.DAT	[SYSTEST.DCPS]
LPS\$SINGLEHOLES.LUP	DCPS\$LAYUP:

VAX システムにインストールされるファイル

LPS\$DOUBLEHOLES.LUP	DCPS\$LAYUP:
LPS\$HOLES.LUP	DCPS\$LAYUP:
LPS\$NUP.LUP	DCPS\$LAYUP:
COLOR-PRINTER-FULL-PAGE.LUP	DCPS\$LAYUP:
COLORWRITER-2000-FULL-PAGE.LUP	DCPS\$LAYUP:
PROPRINTER-FULL-PAGE.LUP	DCPS\$LAYUP:
FULL-A4-LANDSCAPE.LUP	DCPS\$LAYUP:
CPS_TO_DCPS_STARTUP.COM	[SYS\$STARTUP]
LPS_ANSI_PROLOGUE.PS	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
UPDATE-ANSI-PROLOGUE.COM	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
FONT_DOWNLOADER.COM	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
LPS\$SET_PRINTER_NAME.PS	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
LPS\$SET_TIMEOUT.PS	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
DCW1000_CONFIG.PS	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
DCW1000_DEVPARAM.PS	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
DCW1000_STARTPG.PS	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
DCW1000_NOSTRTPG.PS	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
DCW1000_PRNTCNFG.PS	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
DCW1000_PSCRIPT.PS	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
FAX_3500_PRINTME.PS	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
DL3500_SEND_FAX_PS.PS	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
DL3500_SEND_FAX_PS_SENDDPS.PS	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
DL3500_SEND_FAX_TEXT.PS	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
DL3500_SEND_FAX_TEXT_SENDDPS.PS	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
DCPS\$FILE_EXTENSION_DATA_TYPE.DAT_DEFAULT	[SYSLIB]
DCPS\$DELETE-LPS-CLIENT.COM	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
UNSOLICITED-PJL-FIX.COM	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
IGNORE-A-SIZE.PS	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
DCPS\$COMMON-PORT-SETTINGS.COM	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
DCPS\$CONFIG-PRINTER-PORT.COM	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
DCPS\$DS100-PORT-SETTINGS.COM	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
DCPS\$DS200-PORT-SETTINGS.COM	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
DCPS\$DS500-PORT-SETTINGS.COM	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
DCPS\$GET-DS100-PORT-GROUPS.COM	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
DCPS\$SET-DS-GROUPS.COM	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
DCPS\$SET-DS100-GROUPS.COM	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
DCPS\$SAVE-DS500-PORT.COM	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
LPS\$STATUSDICT.PS	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
CONFIDENTIAL.PS	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
INSTALL-PS-SUPPLEMENT.COM	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
PS_SUPPLEMENT.PS	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS]
NETPRX11.ZIP	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS.NETPRINT]
README.TXT	[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS.NETPRINT]

VAX システムにインストールされるファイル

UNZIP50.EXE

[SYSHLP.EXAMPLES.DCPS.NETPRINT]

ドキュメンテーション・キットの構成

ここでは、本ソフトウェアに関するドキュメンテーション・キットについて説明します。

日本語 DECprint Supervisor for OpenVMS ドキュメンテーション・キット (注文番号: QA-09NJA-GZ)

- 日本語 DECprint Supervisor for OpenVMS ユーザーズ・ガイド
- 日本語 DECprint Supervisor for OpenVMS システム・マネージャーズ・ガイド
- 日本語トランスレータ リファレンス・マニュアル

プログラミング・ガイド・キット (注文番号: QA-798JC-GZ)

- 日本語トランスレータ リファレンス・マニュアル
- Digital PostScript Printers Programmer's Supplement
- Digital ANSI-Compliant Printing Protocol Level 3 Programming Reference Manual
- Digital ANSI-Compliant Printing Protocol Level 3 Programming Supplement
- PostScript Translators Reference Manual for ReGIS and Tektronix 4010 /4014

日本語 DEC PrintServer サポートリング・ホスト・ソフトウェア for OpenVMS VAX (注文番号: QA-798JA-GZ)

- 日本語 DEC PrintServer サポートリング・ホスト・ソフトウェア/VMS インストール・ガイド
- DEC PrintServer Supporting Host Software for OpenVMS Management Guide

ドキュメンテーション・キットの構成

- ユーザ・リファレンス・カード

日本語 DEC PrintServer サポート・ホスト・ソフトウェア for ULTRIX (注文番号: QA-VVZJA-GZ)

- 日本語 DEC PrintServer サポート・ホスト・ソフトウェア/ULTRIX インストール・ガイド
- DEC PrintServer Supporting Host Software for ULTRIX Management Guide
- ユーザ・リファレンス・カード

以下の PostScript ドキュメントが株式会社 ASCII より販売されています。

- ページ記述言語 PostScript リファレンス・マニュアル第 2 版
- ページ記述言語 PostScript チュートリアル&クックブック
- ページ記述言語 PostScript プログラム・デザイン

日本語 DECprint Supervisor (DCPS) for OpenVMS
リリース・ノート

2001年3月 発行

コンパックコンピュータ株式会社

〒140-8641 東京都品川区東品川 2-2-24 天王洲セントラルタワー

電話 (03)5463-6600 (大代表)

AA-PZCFJ-TE

